

2021年度 大学院経済学研究科 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

【発行日：2021/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【X3001】 経済学基礎 A [宇都宮 仁] 春学期授業/Spring	1
【X3002】 経済学基礎 B [仲北浦 淳基] 春学期授業/Spring	2
【X3003】 実証経済学基礎 A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	3
【X3004】 実証経済学基礎 B [河村 真] 秋学期授業/Fall	4
【X3005】 統計学基礎 B [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	5
【X3006】 経済史 A [牧野 文夫] 春学期授業/Spring	6
【X3007】 経済史 B [杉浦 未樹] 秋学期授業/Fall	7
【X3008】 計量経済学 A [明城 聡] 春学期授業/Spring	8
【X3009】 計量経済学 B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	9
【X3010】 社会経済学 A [原 伸子] 春学期授業/Spring	10
【X3011】 社会経済学 B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	11
【X3012】 マクロ経済学 A [森田 裕史] 春学期前半/Spring(1st half)	12
【X3013】 マクロ経済学 B [宮崎 憲治] 秋学期前半/Fall(1st half)	13
【X3014】 ミクロ経済学 A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	14
【X3015】 ミクロ経済学 B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	15
【X3016】 応用マクロ経済学 A [森田 裕史] 春学期前半/Spring(1st half)	16
【X3017】 応用マクロ経済学 B [宮崎 憲治] 秋学期後半/Fall(2nd half)	17
【X3018】 応用ミクロ経済学 A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	18
【X3019】 応用ミクロ経済学 B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	19
【X3020】 開発経済論 A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	20
【X3021】 金融ファイナンス論 A [胥 鵬] 春学期前半/Spring(1st half)	21
【X3022】 金融ファイナンス論 B [胥 鵬] 春学期後半/Spring(2nd half)	22
【X3023】 金融システム論 A [胥 鵬] 春学期前半/Spring(1st half)	23
【X3024】 金融システム論 B [胥 鵬] 春学期後半/Spring(2nd half)	24
【X3025】 財政学 A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	25
【X3026】 財政学 B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	26
【X3027】 統計学 A [阿部 俊弘] 春学期授業/Spring	27
【X3028】 統計学 B [阿部 俊弘] 秋学期授業/Fall	28
【X3029】 企業経済学 A [砂田 充] 秋学期授業/Fall	29
【X3030】 環境経済論 A [松波 淳也] 春学期前半/Spring(1st half)	30
【X3031】 環境経済論 B [松波 淳也] 春学期後半/Spring(2nd half)	31
【X3032】 経済政策 B [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	32
【X3033】 経済地理学 A [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	34
【X3034】 労働経済学 A [酒井 正] 春学期授業/Spring	35
【X3035】 労働経済学 B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	36
【X3036】 国際貿易論 A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	37
【X3037】 国際貿易論 B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	37
【X3038】 応用計量経済学 A [明城 聡] 秋学期授業/Fall	38
【X3039】 ミクロ計量分析 A [明城 聡] 秋学期授業/Fall	39
【X3040】 日本語Ⅰ A [清水 由美] 春学期授業/Spring	40
【X3041】 日本語Ⅰ B [清水 由美] 秋学期授業/Fall	41
【X3042】 日本語Ⅱ A [清水 由美] 春学期授業/Spring	43
【X3043】 日本語Ⅱ B [清水 由美] 秋学期授業/Fall	44
【X3044】 日本語Ⅲ A [大場 理恵子] 春学期授業/Spring	45
【X3045】 日本語Ⅲ B [大場 理恵子] 秋学期授業/Fall	46
【X3316】 応用マクロ経済学 D A [森田 裕史] 春学期前半/Spring(1st half)	47
【X3317】 応用マクロ経済学 D B [宮崎 憲治] 秋学期後半/Fall(2nd half)	48
【X3318】 応用ミクロ経済学 D A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	50
【X3319】 応用ミクロ経済学 D B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	50
【X3320】 開発経済論 D A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	51
【X3321】 金融ファイナンス論 D A [胥 鵬] 春学期前半/Spring(1st half)	53
【X3322】 金融ファイナンス論 D B [胥 鵬] 春学期後半/Spring(2nd half)	54
【X3323】 金融システム論 D A [胥 鵬] 春学期前半/Spring(1st half)	55

【X3324】 金融システム論D B [胥 鵬] 春学期後半/Spring(2nd half)	56
【X3325】 財政学D A [小黑 一正] 春学期授業/Spring	57
【X3326】 財政学D B [小黑 一正] 秋学期授業/Fall	58
【X3327】 統計学D A [阿部 俊弘] 春学期授業/Spring	59
【X3328】 統計学D B [阿部 俊弘] 秋学期授業/Fall	60
【X3329】 企業経済学D A [砂田 充] 秋学期授業/Fall	61
【X3330】 環境経済論D A [松波 淳也] 春学期前半/Spring(1st half)	62
【X3331】 環境経済論D B [松波 淳也] 春学期後半/Spring(2nd half)	63
【X3332】 経済政策D B [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	64
【X3333】 経済地理学D A [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	65
【X3334】 労働経済学D A [酒井 正] 春学期授業/Spring	66
【X3335】 労働経済学D B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	67
【X3336】 国際貿易論D A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	68
【X3337】 国際貿易論D B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	69
【X3338】 応用計量経済学D A [明城 聡] 秋学期授業/Fall	69
【X3339】 ミクロ計量分析D A [明城 聡] 秋学期授業/Fall	70
【X3901】 経済学演習Ⅰ A (代表シラバス) [経済学専攻教員] 春学期授業/Spring	71
【X3902】 経済学演習Ⅰ B (代表シラバス) [経済学専攻教員] 秋学期授業/Fall	72
【X3909】 経済学演習Ⅲ A (代表シラバス) [経済学専攻教員] 春学期授業/Spring	73
【X3910】 経済学演習Ⅲ B (代表シラバス) [経済学専攻教員] 秋学期授業/Fall	74
【X3129】 論文指導Ⅰ A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	75
【X3130】 論文指導Ⅰ B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	76
【X3131】 論文指導Ⅱ A [酒井 正] 春学期前半/Spring(1st half)	77
【X3132】 論文指導Ⅱ B [酒井 正] 秋学期前半/Fall(1st half)	78
【X3133】 論文指導Ⅱ A [小黑 一正] 春学期前半/Spring(1st half)	79
【X3134】 論文指導Ⅱ B [小黑 一正] 秋学期前半/Fall(1st half)	80
【X3135】 論文指導Ⅱ A [鈴木 豊] 春学期前半/Spring(1st half)	81
【X3136】 論文指導Ⅱ B [鈴木 豊] 秋学期前半/Fall(1st half)	82
【X3137】 論文指導Ⅱ A [濱秋 純哉] 春学期前半/Spring(1st half)	82
【X3138】 論文指導Ⅱ B [濱秋 純哉] 秋学期前半/Fall(1st half)	83
【X3139】 論文指導Ⅱ A [原 伸子] 春学期前半/Spring(1st half)	84
【X3140】 論文指導Ⅱ B [原 伸子] 秋学期前半/Fall(1st half)	85
【X3141】 論文指導Ⅱ A [松波 淳也] 春学期前半/Spring(1st half)	86
【X3142】 論文指導Ⅱ B [松波 淳也] 秋学期前半/Fall(1st half)	87
【X3143】 論文指導Ⅱ A [宮崎 憲治] 春学期前半/Spring(1st half)	88
【X3144】 論文指導Ⅱ B [宮崎 憲治] 秋学期前半/Fall(1st half)	89
【X3145】 論文指導Ⅱ A [竹口 圭輔] 春学期前半/Spring(1st half)	89
【X3146】 論文指導Ⅱ B [竹口 圭輔] 秋学期前半/Fall(1st half)	90
【X3147】 論文指導Ⅱ A [馬場 敏幸] 春学期前半/Spring(1st half)	91
【X3151】 修士ワークショップA [酒井 正] 春学期後半/Spring(2nd half)	92
【X3148】 論文指導Ⅱ B [馬場 敏幸] 秋学期前半/Fall(1st half)	93
【X3152】 修士ワークショップB [酒井 正] 秋学期後半/Fall(2nd half)	93
【X3153】 修士ワークショップA [小黑 一正] 春学期後半/Spring(2nd half)	94
【X3154】 修士ワークショップB [小黑 一正] 秋学期後半/Fall(2nd half)	95
【X3155】 修士ワークショップA [鈴木 豊] 春学期後半/Spring(2nd half)	96
【X3156】 修士ワークショップB [鈴木 豊] 秋学期後半/Fall(2nd half)	97
【X3157】 修士ワークショップA [濱秋 純哉] 春学期後半/Spring(2nd half)	98
【X3158】 修士ワークショップB [濱秋 純哉] 秋学期後半/Fall(2nd half)	99
【X3159】 修士ワークショップA [原 伸子] 春学期後半/Spring(2nd half)	100
【X3160】 修士ワークショップB [原 伸子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	101
【X3161】 修士ワークショップA [松波 淳也] 春学期後半/Spring(2nd half)	102
【X3162】 修士ワークショップB [松波 淳也] 秋学期後半/Fall(2nd half)	103
【X3163】 修士ワークショップA [宮崎 憲治] 春学期後半/Spring(2nd half)	104
【X3164】 修士ワークショップB [宮崎 憲治] 秋学期後半/Fall(2nd half)	105
【X3165】 修士ワークショップA [竹口 圭輔] 春学期後半/Spring(2nd half)	106
【X3166】 修士ワークショップB [竹口 圭輔] 秋学期後半/Fall(2nd half)	107
【X3167】 修士ワークショップA [馬場 敏幸] 春学期後半/Spring(2nd half)	108

【X3168】	修士ワークショップB [馬場 敏幸] 秋学期後半/Fall(2nd half)	109
【X3411】	論文指導ⅣA [鈴木 豊] 春学期前半/Spring(1st half)	110
【X3412】	論文指導ⅣB [鈴木 豊] 秋学期前半/Fall(1st half)	111
【X3413】	論文指導ⅤA [宮崎 憲治] 春学期前半/Spring(1st half)	112
【X3414】	論文指導ⅤB [宮崎 憲治] 秋学期前半/Fall(1st half)	113
【X3415】	論文指導ⅤA [田村 晶子] 春学期前半/Spring(1st half)	114
【X3416】	論文指導ⅤB [田村 晶子] 秋学期前半/Fall(1st half)	115
【X3417】	論文指導ⅤA [小黑 一正] 春学期授業/Spring	116
【X3418】	論文指導ⅤB [小黑 一正] 秋学期授業/Fall	117
【X3419】	論文指導ⅤA [原 伸子] 春学期授業/Spring	118
【X3420】	論文指導ⅤB [原 伸子] 秋学期授業/Fall	119
【X3421】	論文指導ⅤA [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	120
【X3422】	論文指導ⅤB [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	121
【X3423】	論文指導ⅤA [菅原 琢磨] 春学期授業/Spring	122
【X3424】	論文指導ⅤB [菅原 琢磨] 秋学期授業/Fall	123
【X3425】	論文指導ⅤA [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	124
【X3426】	論文指導ⅤB [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	125
【X3427】	論文指導ⅤA [武田 浩一] 春学期授業/Spring	126
【X3428】	論文指導ⅤB [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	127
【X3429】	論文指導ⅤA [牧野 文夫] 春学期授業/Spring	128
【X3430】	論文指導ⅤB [牧野 文夫] 秋学期授業/Fall	129
【X3431】	論文指導ⅤA [胥 鵬] 春学期授業/Spring	130
【X3432】	論文指導ⅤB [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	131
【X3451】	博士ワークショップⅡA [鈴木 豊] 春学期後半/Spring(2nd half)	132
【X3452】	博士ワークショップⅡB [鈴木 豊] 秋学期後半/Fall(2nd half)	133
【X3453】	博士ワークショップⅢA [宮崎 憲治] 春学期後半/Spring(2nd half)	134
【X3454】	博士ワークショップⅢB [宮崎 憲治] 秋学期後半/Fall(2nd half)	135
【X3455】	博士ワークショップⅢA [田村 晶子] 春学期後半/Spring(2nd half)	136
【X3456】	博士ワークショップⅢB [田村 晶子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	137

ECN501C1 - 1

経済学基礎 A

宇都宮 仁

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学では、経済主体である消費者や企業がどのようなことを目的として、どのように行動するかを学ぶ。そしてその結果として市場でどのように価格や取引量が決定するかを学習する。本講義ではミクロ経済学の基本的な考え方を習得することを目標とする。さらに基本的な考え方をを使い、現実への適用や政策問題について考えることができるようになることを目指す。

【到達目標】

1. 消費者の行動から需要曲線を説明することができる。
2. 生産者の行動から供給曲線を説明することができる。
3. 市場において価格や取引量が決定されるメカニズムを理解することができる
4. 現実の政策問題について経済学的な考察ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には Zoom を利用した講義形式のオンライン授業を行う。必要に応じて対面授業を実施することもある。
授業内で理解度チェックや出席確認のためのクイズや考えを学生がチャットに記入し、それに対して返答する機会を適宜設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとイントロ	経済学・ミクロ経済学とは
第 2 回	需要と供給	需要曲線・供給曲線
第 3 回	需要曲線、供給曲線の 特徴	弾力性とその応用
第 4 回	政府の政策	価格規制、税金
第 5 回	市場の効率性	余剰分析と市場の効率性
第 6 回	市場の効率性の応用 (1)	課税の費用
第 7 回	市場の効率性の応用 (2)	国際貿易
第 8 回	市場の非効率性	外部性
第 9 回	公共財	フリーライダー問題
第 10 回	企業行動	生産の費用
第 11 回	競争市場における企業	利潤最大化
第 12 回	独占市場	独占市場における企業の行動
第 13 回	寡占市場	寡占市場における企業の行動
第 14 回	消費者選択の理論	消費者の最適選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：各講義の内容を参考書や経済学の書籍、インターネットなどで調べ、わからないところを事前に把握しておくこと。

事後学習：講義全体の復習を行うこと。講義でわからなかったところがあれば次回講義までに自分で調べるか、メールで質問してわかるようにしておくこと。

また、講義でクイズを出した場合は次回までに解いておくこと。

必要な学習時間：目安として、4 時間/回。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

N. グレゴリー・マンキュー（足立他訳）『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第 3 版）』、東洋経済新報社

柳川隆・町野和夫・吉野一郎（2015）『ミクロ経済学・入門（新版）』、有斐閣アルマ

八田達夫（2008）『ミクロ経済学Ⅰ』、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%

授業内クイズ 40%

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度につき該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（カメラ、マイク、スピーカー付き）

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>理論経済学・応用経済学

<研究テーマ>地域通貨

<主要研究業績> “ The community currency game “Online Shopping.com”: the prisoner’s dilemma and consumer behavior in a local economy” Evolutionary and Institutional Economics Review, 17(2), 345-360, 2020, (with Masaaki Abe, Miyoshi Hirano)

『地域通貨運営委員の学習ツールとしての地域通貨ゲーム－地域通貨ゲームの実施－』新潟産業大学経済学部紀要、第 50 号、29 - 40 頁、(with 阿部雅明、平野実良)

“ On the uniqueness and stability conditions for two types of monetary models with recursive utility” Journal of International Economic Studies, No.27, pp.23-46, 2013, (with Kenji Miyazaki)

【Outline and objectives】

This course introduces the principles of microeconomics and the microeconomic way of thinking. The behavior of individuals and firms will be studied and then market outcomes will be discussed in different market structures. The aim of this class is to learn the fundamental microeconomics theory and to acquire skill of its application for real economic issues and policies through case studies.

経済学基礎B

仲北 浦 淳基

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマクロ経済学の基礎的な概念や理論を学ぶ。一国の経済状況の指標として重視される GDP、利子率、物価の概念とそれらが決定される仕組みを理解する。また入門的な経済成長理論も理解する。これらの学びを通じて、経済的な視点から事象を捉えられる思考力を修得する。

【到達目標】

- (1) 需要と供給、名目と実質、短期と長期の相違や関係について説明できる。
- (2) GDP、利子率、物価が決定される仕組みを説明できる。
- (3) 政府によるマクロ経済政策の効果を説明することができる。
- (4) 長期にわたる経済成長についてケインズ派と新古典派の相違を説明できる。
- (5) マクロ経済学の基礎的な概念や用語を適切に使って現実の経済現象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は「オンライン授業」（リアルタイム配信型）で実施する。基本的には一方向の講義形式で行うが、適宜、理解度を測るために簡単な確認問題も行う。また、授業後にはリフレクションシートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済学とは？	マクロ経済学の成立史／本講義の概要／基礎的な数学の復習
第 2 回	生産と所得の関係	GDP、国内総所得
第 3 回	所得と支出の関係	国内総所得、国内総支出、三面等価の原則
第 4 回	財市場の需要と供給	45 度線分析、IS 曲線
第 5 回	財市場における経済政策	財政政策、乗数効果
第 6 回	貨幣市場の需要と供給	貨幣の役割、信用創造、金利、債券
第 7 回	貨幣市場における経済政策	金融政策、LM 曲線
第 8 回	財市場と貨幣市場の相互作用	IS-LM 分析、クラウドディング・アウト、流動性の罫
第 9 回	物価の変動	実質値と名目値
第 10 回	労働市場と物価	古典派の第一公準・第二公準、名目賃金の下方硬直性、AS 曲線
第 11 回	財市場と貨幣市場と労働市場の相互作用	AD-AS 分析
第 12 回	経済成長（1）	ハロッド=ドーマー理論（ケインズ派）
第 13 回	経済成長（2）	ソロー=スワン理論（新古典派）
第 14 回	試験・本講義のまとめと解説	本講義の総括、今後の学修への指針

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：日々、経済ニュースに目を通して疑問点を挙げておき、次回授業後のリフレクションシートにて質問できるようにしておくこと。

事後学習：授業をまとめ理解を深める。授業内で出ず課題に取り組むこと。

必要な学習時間：各回、事前学習と事後学習でそれぞれ 2 時間ずつ。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（1）：リフレクションシート・質問（20 %）
- ②平常点（2）：授業内課題・事後課題（20 %）
- ③期末考査（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度から本授業を担当いたします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（Zoom を使える状態にしておくこと）

【経済学説史】

<専門領域>

経済学説史

<研究テーマ>

マクロ経済学の成立史（ケンブリッジ学派の経済学）

<主要研究業績>

仲北浦淳基（2016）「ロバートソンの最初期の経済学研究と『努力』概念」『経済学論叢』第 68 巻第 2 号、249-275 頁、2016 年 10 月。
仲北浦淳基（2018）「D. H. ロバートソンの『実物』的経済変動論——『産業変動の研究』における『努力』概念——」『経済学史研究』第 49 巻第 2 号、35-55 頁、2018 年 1 月。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental ideas and theories of macroeconomics, including short-run and long-run theories. It also enhances the development of students' skill in reading introductory economics papers and in explaining actual economic phenomena using appropriate technical terms.

実証経済学基礎 A

池上 宗信

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず、統計、確率の基礎を学び、その後、回帰分析、ランダム化比較試験、固定効果、差の差の分析などの実証分析の手法を学ぶ。統計計算ソフト R を用いた演習によって、中心極限定理、推定、仮説検定の理解を深める。

【到達目標】

各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。

各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の間、アイデアを探すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業の予定である。

各講義前の課題として、各自、教科書のうち、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。情報実習室と呼ばれる、各受講生に 1 台ずつデスクトップパソコンが用意された教室を用いる予定である。

授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。

演習問題、試験には統計計算ソフト R を用いた問題が含まれる。

オンライン授業となってしまった場合

- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解くか、課題を提出する。
- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取る。
- 受講生は課題の解答例をフィードバックとして受け取る。
- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用する。
- 中間試験および期末試験を、リモート試験とし、学習支援システム上の課題として試験の解答を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	相関と因果	相関、因果、回帰、予測
第 2 回	統計の基礎 1	R の使い方、母集団と標本、無作為抽出
第 3 回	統計の基礎 2、確率論の基礎 1	確率変数、期待値
第 4 回	確率論の基礎 2	中心極限定理、信頼区間
第 5 回	確率論の基礎 3	周辺分布、条件付分布、独立、条件付期待値
第 6 回	回帰分析 1	最小二乗法、重回帰
第 7 回	まとめと復習、中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	回帰分析 2、仮説検定 1	残差、決定係数、仮説検定、p 値
第 9 回	仮説検定 2、相関と因果	OLS 推定量の漸近分布、t 検定、信頼区間、相関、因果、平均トリートメント効果

第 10 回	内生性 1	外生変数、内生変数、省略変数、セレクション・バイアス
第 11 回	内生性 2、ランダム化比較試験	測定誤差、同時性、平均トリートメント効果
第 12 回	固定効果	パネルデータ、個人固定効果、時間固定効果
第 13 回	差の差の分析	並行トレンドの仮定
第 14 回	まとめと復習、期末試験	第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。オンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを受けるか、課題を提出する。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

星野匡郎、田中久稔 (2016) 『R による実証分析：回帰分析から因果分析へ』オーム社、第 1-8 章、付録

講義スライドと下記の参考書で、教科書を補う。

教科書の第 9-11 章は、この講義ではカバーしない予定である。

【参考書】

西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮 (2019) 『計量経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 % で評価する。

教室内試験を実施できない場合は、リモート試験で代替し、学習支援システム上の課題として試験の解答を提出する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が R のスクリプトを書き、実行するという形式を今年度も継続する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

開発ミクロ経済学

<研究テーマ>

家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険

<主要研究業績>

① “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” *Journal of Risk and Insurance*. Forthcoming.

② “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.

③ “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline and objectives】

We will study introductory statistics first.

Then, we will study econometrics methods such as regression, randomized controlled trial, fixed effects and difference-in-difference.

We will deepen our understanding of basic concepts such as Central Limit Theorem, estimation, statistical test through problem sets with statistical package R.

実証経済学基礎B

河村 真

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学「生産者の理論」の応用計量経済分析（規模の経済性の計測）

【到達目標】

導入科目として、ミクロ経済学の「生産者の理論」の生産要素需要の説明およびその延長線上にある費用関数に関する説明を復習し、理解する。さらに、費用関数の推定および規模の経済性の計測を実習を通じて行い、最小二乗推定量の基本的な理解とパネルデータを用いる際の推定結果の基本的な診断および改善に関する手続きを各自で行えるようにすること。併せて、費用関数の推定、仮説検定に用いる統計学ソフト **stata** の基本的なコマンドを使えるようになることおよび計測結果の出力を各自で行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、ハイフレックス形式で授業を行います。対面授業をオンラインでもリアル配信します。皆さんの都合に応じて、対面授業または自宅等でのオンライン授業を受けるか選択してください。質疑応答は、対面およびオンラインを通じて授業時間内に行います。第10回以降の実習授業では、ハイフレックス形式で行いますが、実習の復習の手助けになるように、授業を録画し、オンデマンドで録画ファイルが閲覧できるようにしておきます。

授業の内容の進め方について説明する。まず、ミクロ経済学の「生産者の理論」における生産要素需要の決定と費用関数の導出を解説する（主にミクロ経済学の復習）。公益事業のデータを用いて、ミクロ経済学の理論で提示されている費用関数と整合的な費用関数の推定を統計ソフト **stata** を計用いて体験してもらう。それに基づき、規模の経済性の計測値を求め、その計測値のミクロ経済学的な解釈を説明する。講義の目的は、簡単なミクロ経済学の理論を用いても、計量経済学による計測結果を政策的な課題の判断材料として提示できることを体験してもらうことにある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と注意
第2回	費用関数および生産関数の計測を通じた応用軽量経済学の研究成果	規模・範囲の経済性の計測、代替弾力性の計測の過去のサーベイ
第3回	利潤最大化行動と生産要素需要関数	ミクロ経済学の「生産者の理論の復習」：利潤最大化行動に基づく生産要素需要の決定の解説
第4回	要素需要と要素価格フロンティア	要素需要の決定と要素価格フロンティアとの対応
第5回	費用関数の性質	要素需要関数と整合的な費用関数の性質
第6回	生産関数と双対な費用関数の性質と関数の特定化	生産関数と双対な費用関数の導出、費用関数の特定化に関する解説
第7回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅰ）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説）
第8回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅰ）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説）

第9回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅱ）	最小二乗推定量に基づく推定結果の改善（系列相関、分散不均一などの簡単な解説）
第10回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅰ）	計量経済学のソフト stata を用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第11回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅰ）	計量経済学のソフト stata を用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第12回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅱ）	fixed effects model および random effects model の推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第13回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅱ）	fixed effects model および random effects model の推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第14回	レポート作成指導	レポート作成の質問等に答える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。受講生より要請があれば、参考文献等含めて知らせる。

【参考書】

奥野正寛、鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ』（モダンエコノミックスシリーズ）岩波書店 計量経済学入門の教科書やそれ以外等は、講義中に示す。

【成績評価の方法と基準】

実習での費用関数に関わる推定及び検定の **stata** プログラミング作業に関する評価に40%及び期末レポートの評価に60%のウェイトを付け、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸出ノートパソコン（**stata** インストール済み）、および、授業支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 応用計量経済学

<研究テーマ> 規制産業の規模の経済性、全要素生産性の計測

<主要研究業績> "Estimates of Optimal Public Capital Stocks in Japan Using a Public Investment Discount Rate Framework", *Empirical Economics* 24, 1999. (根本二郎氏、釜田公良氏と共著) 「大都市公営バス事業の密度の経済とサイズの経済の計測」『季刊理論経済学』44巻3号, pp.269-274, 1993

【Outline and objectives】

The first aim of the course is to understand duality of profit maximizing problem and cost minimizing problem for determining factor demand. By using this duality, cost function could be derived at certain function from production function. Certain cost function could be specified. Then, the cost function would be estimated by OLS estimator, using Japanese Metropolitan Bus operation data, assigned for the students. The estimation is conducted by STATA. Finally, the hypothesis that Japanese Metropolitan bus operation shows scale economy could be statistically tested.

ECN505C1 - 2

統計学基礎 B**菅 幹雄**

サブタイトル：（2020 年度以前入学者用）

備考（履修条件等）：2020 年度以前入学者のみ履修可能

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学の基礎を学び、実証分析へ進めるようになること。

【到達目標】

統計学の問題を正しく解答できるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では Zoom を用いて統計学を講義し、それに関係する例題を R を用いて解く。毎回の授業において、テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、基礎編 (1)	授業の進め方の説明、第 2 章 1 つの変数の記述統計
第 2 回	基礎編 (2)	第 3 章 2 つの変数の記述統計
第 3 回	基礎編 (3)	第 4 章 母集団と標本
		第 5 章 統計的仮説検定
第 4 回	基礎編 (4)	第 6 章 2 つの平均値を比較する
第 5 回	基礎編 (5)	第 7 章 分散分析
第 6 回	応用編 (1)	第 8 章 ベクトル・行列の基礎
第 7 回	応用編 (2)	第 9 章 データフレーム
		第 10 章 外れ値が相関係数に及ぼす影響
第 8 回	応用編 (3)	第 11 章 統計解析で分かること・分からないこと
		第 12 章 二項検定
第 9 回	応用編 (4)	第 13 章 プリ・ポストデザインデータの分析
		第 14 章 質問紙尺度データの処理
第 10 回	応用編 (5)	第 15 章 回帰分析
第 11 回	応用編 (6)	第 16 章 因子分析
第 12 回	応用編 (7)	第 17 章 共分散構造分析
第 13 回	応用編 (8)	第 18 章 人工データの発生
第 14 回	応用編 (9)	第 19 章 検定の多重性と第 1 種の誤りの確率
		第 20 章 検定力分析によるサンプルサイズの決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあとテストを学習支援システム上で実施する。授業の内容をよく復習しておくこと。予習時間と復習時間は各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】

山田剛史, 杉澤武俊, 村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2700 円（税別）

【参考書】

栗原伸一『入門統計学』日本評論社、2400 円（税別）

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度、前々年度に授業を担当していないのでアンケート結果がない。

【学生が準備すべき機器他】

授業は Zoom で実施する。初回の授業の前に自分のパソコンに R をインストールしておくこと（インストール方法は教科書に書いてある）。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>経済統計

<研究テーマ>経済センサス、物価指数

<主要研究業績>『アメリカ経済センサス研究』慶応義塾大学出版会、『物価指数の測定論』日本評論社

【Outline and objectives】

Study the basics of statistics and proceed to the empirical analysis.

経済史 A

牧野 文夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国における古代から中華民国時代の経済の歴史について講義する。特に近年学界で大きなテーマとなっている「大分岐」論争や日本などとの比較経済史の視点を重視する。また後半の数回は受講生が、2020 年に web 公開された『アジア長期経済統計 中国巻』のデータベースを使った研究報告を行う。

【到達目標】

日本人から見た古代から中華民国時代の中国経済の発展を知る。歴史的データを使った実証分析に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン形式の講義とする。各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を学習支援システム（HOPPII）にアップロードしておくので、それをダウンロードし、それぞれの受講生が事前に適切な環境で予習してもらう。それを前提に授業では Zoom ミーティングを通じて議論する。受講生からの質問等には毎回の授業を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概観と経済地理	経済からみた中国 4000 年の歴史の概観と経済地理について
第 2 回	古代から宋時代の経済	産業の発展、貨幣経済の発展について
第 3 回	元、明時代の経済	唐宋変革論、明代の市場経済の発展について
第 4 回	清代の経済	清朝時代の市場経済と経済的停滞
第 5 回	前近代の科学・技術	ジョセフ・ニーダムの問題提起について
第 6 回	アジアにおける朝貢貿易	中国を中心とした貿易システムと western impact
第 7 回	大分岐論争	K. ボメラントの問題提起について
第 8 回	中華民国時代の経済 1	政治情勢の動向、民国期の経済データ、人口、農業と工業の発展
第 9 回	中華民国時代の経済 2	通貨・金融と物価、貿易、財政について
第 10 回	満洲（中国東北）経済の歴史 1	19 世紀後半から 1932 年の満洲国成立までの経済
第 11 回	満洲（中国東北）経済の歴史 2	1932 年の満洲国成立以後の経済
第 12 回	実習研究報告 1	受講生による実証研究の報告と議論（第 1 回）
第 13 回	実習研究報告 2	受講生による実証研究の報告と議論（第 2 回）
第 14 回	総括	中華民国時代までの経済と中華人民共和国時代の経済の連続と断絶について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関する中国国内を含めた外国における研究動向を調べておくこと。

実習に必要な分析ツールを学んでおくこと。

両者合わせて 4 時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

特に使わない。

【参考書】

南亮進・牧野文夫編『アジア長期経済統計 第 3 巻 中国』東洋経済新報社。

南亮進・牧野文夫編『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。

久保亨『中国経済 100 年のあゆみ：統計資料で見る中国近現代経済史』創研出版。

【成績評価の方法と基準】

授業での質疑応答 (30%) および実習報告 (70%) にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインで授業になるので、通信環境に留意してほしい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

経済史、日本経済論

＜研究テーマ＞

日本の経済発展と資産分布

＜主要研究業績＞

牧野文夫・渡邊伸弘「明治初期における東京府日本橋区・京橋区の土地資産分配：地租改正と松方デフレの影響」『経済志林』87 巻 3/4 合併号、69-110 頁、2020 年 3 月。

【Outline and objectives】

Chinese economic history from ancient times to Republican China.

ECN512C1 - 2

経済史 B

杉浦 未樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治から平成（19世紀と20世紀）までの日本における繊維産業の発達を、綿絹毛合繊に製帽業・衣服産業を加えて、多角的にグローバルな視点から位置付ける。1990年代から今日までに刊行された主要文献を読み解くことを通じて、経済史の基本的なアプローチや方法論を学ぶ。さらに史料分析や文献解釈のスキルを向上させる。

【到達目標】

1. 19 - 20 世紀の産業発展を、組織、制度、技術普及、商品化と市場開拓の面から理解する

2. 経済史の基本的な文献解釈、史料調査、分析方法を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義テーマに沿った文献を読み、概略を把握し、討論する。

この授業はオンラインレクチャー形式で行う予定です。

生徒の希望や状況に応じては対面に切り替えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	19、20 世紀の日本の繊維業発展とは	明治から昭和期の日本の繊維業をグローバルエコノミックヒストリーの観点から位置付ける
第 2 回	技術普及の国際比較	清川雪彦. 「日本の経済発展と技術普及」を主なテキストに、日本の繊維業における技術発展をインド、中国と比較する
第 3 回	開港期の交易・工業発展と世界経済	開港期の交易と世界市場の反応を概略する
第 4 回	力織機導入をめぐる議論	綿織物業の機械化の中心となる力織機の導入をめぐる起きた、産業集積や労働配分に関する議論を紹介する。
第 5 回	生産組織：問屋制から工場制へ、労働者の直接管理	岡崎哲二と中林真幸. 『生産組織の経済史』のなかから、1 章「問屋制から工場制へー戦間期日本の織物業」（橋野知子）、4 章「戦前中国紡績企業における企業組織改革ー工頭制度から直接管理へ」（王穎琳）を取り上げる
第 6 回	産地発展論（1）	綿、絹織物業における産地発展の経緯を複数の文献から見て比較する
第 7 回	産地発展論（2）	綿、絹織物業における産地発展の経緯を複数の文献から見て比較する
第 8 回	在来的経済発展（1）	産地を理解したうえで、谷本雅之「日本における在来的経済発展と織物業ー市場形成と家族経済」をテキストに、在来的経済発展を理解する

第 9 回 在来的経済発展（2）産地を理解したうえで、谷本雅之「日本における在来的経済発展と織物業ー市場形成と家族経済」をテキストに、在来的経済発展を理解する

第 10 回 繊維産業と女性労働 Janet.Hunter, Women and the labour market in Japan's industrialising economy: the textile industry before the Pacific War をテキストに、日本の工業化と女性労働の位置づけを考察する

第 11 回 東アジアの中に繊維業発展をみる（1）これまでのテーマを、中国、台湾、朝鮮の発展と連結させながら論じる。

第 12 回 東アジアの中に繊維業発展をみる（2）これまでのテーマを、中国、台湾、朝鮮の発展と連結させながら論じる。帽子に注目し、麦棹の輸出から、製帽業の国際展開までをとり上げる予定である。

第 13 回 衣類の市場形成と産業発展（1）輸入織物によって在来織物業の商品化がどのように進み、衣類の流行やマーケティングに与えた影響をみる

第 14 回 衣類の市場形成と産業発展（2）日本における衣服産業の成立を論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回テキストを読み、要旨をまとめ、論点を発表する。授業時間外で 4 時間程度必要である。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する。毎回輪読テキストがある。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における論点発表 40 %、最終レポート 60 % で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 17 世紀から 20 世紀の英蘭と東アジアとアフリカとの経済関係史。

＜研究テーマ＞ 物流（とくに繊維製品）、移民、都市ネットワーク、女性の財産形成

＜主要研究業績＞

‘The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan’ in Business History, 61-1, 106-121, 2018.

Miki Sugiura ed., Linking Cloth/Clothing Globally, Transformations of Use and Value, c.1700-2000, Tokyo: ICES, Hosei University Publishing, March, 2019. ISBN 978-4-9910044-0-7

Miki Sugiura, Giovanni Favero, and Michael Serruys eds., The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times, Palgrave, 2019.

【Outline and objectives】

This course provides an extensive overview on the multi-faceted development of textile industry of Japan in the 19-20th centuries. Through this course, students will gain basic knowledge on the approach and methods of Global Economic history as well as skills for searching, interpreting, and analyzing historical sources and literature.

計量経済学 A

明城 聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計量経済学の基礎と標準的な分析手法の習得

【到達目標】

統計学の基礎を復習するとともに計量経済学で用いられる手法の理論を学ぶ。特に古典的回帰モデルの推定方法と検定について学ぶとともに、必要となる仮定が成り立つかどうかを判断できる知識をつける。また仮定が成り立たない場合の対応方法についても学習する。（本講義は計量経済学の理論を学ぶので、実際にデータを使った分析を学ぶには合わせて「ミクロ計量分析」を履修することが望ましい）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料や教科書を用いた通常の講義形式で行う。また適宜、練習問題や宿題を行うことで講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容の紹介 ・成績評価
第 2 回	統計学の復習 (1)	・確率の概念 ・確率変数と離散型確率分布
第 3 回	統計学の復習 (2)	・期待値オペレータ ・結合確率分布
第 4 回	統計学の復習 (3)	・連続型確率変数 ・母集団、標本、母数 ・標本抽出
第 5 回	統計学の復習 (4)	・標本平均の統計的性質 ・推定と推定量の性質
第 6 回	計量経済学の基礎 (1)	・計量経済学とは ・最小二乗法 (1)：データの整理、最小二乗法と回帰直線
第 7 回	計量経済学の基礎 (2)	・最小二乗法 (2)：回帰直線の当てはまりの尺度、計算手順のまとめ
第 8 回	計量経済学の基礎 (3)	・単純回帰分析 (1)：単純回帰モデル、推定量の期待値と分散、最良線形不偏推定量と一致性
第 9 回	計量経済学の基礎 (4)	・単純回帰分析 (2)：推定量の分散の推定、単回帰モデルの仮説検定、変数選択と t 検定
第 10 回	計量経済学の基礎 (5)	・重回帰分析 (1)：多重回帰分析、多重回帰分析の推定値の解釈、多重共線性
第 11 回	計量経済学の基礎 (6)	・重回帰分析 (2)：自由度調整済み決定係数、変数の過不足とその影響、定数項を持たない回帰モデル、
第 12 回	計量経済学の基礎 (7)	・モデルの関数形と特殊な変数
第 13 回	計量経済学の基礎 (8)	・F 検定と構造変化の検定
第 14 回	計量経済学の基礎 (9)	・標準的仮定の意味と不均一分散

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配布する。

【参考書】

・ J. H. Stock and M. W. Watson, Introduction to Econometrics, 3rd eds., Pearson
・ 浅野哲・中村二郎「計量経済学」第 2 版、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

・ 期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

実証産業組織論、応用統計学

＜研究テーマ＞

企業合併、規制緩和、および政府補助金等の効果についての構造推定と統計的分析手法の開発

＜主要研究業績＞

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline and objectives】

Standard basic econometrics is covered in this course. Students are required to master basic statistics and econometric skills and utilize them to well understand the empirical data.

計量経済学B

濱秋 純哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ミクロ計量経済学の手法を、理論と応用の両面から解説する。ミクロ計量経済学は、個人・世帯あるいは企業レベルのデータ（個票データ）を分析するために用いられる統計的手法である。個票データを用いる分析では、しばしば被説明変数の定義域に制約がある量的変数（制限従属変数）や離散的な値をとる変数（質的従属変数）が対象となるが、これらの変数に最小二乗法を適用するのは不適切である。この授業では、各変数の性質に応じた手法について、その推定方法や結果の解釈の方法を説明する。

【到達目標】

この授業のテーマは、経済変数を用いた実証分析において問題となる説明変数の内生性への対処法の一つである操作変数法、及び質的従属変数や制限従属変数を扱う際に必要となるミクロ計量経済学の理論とその応用方法を学ぶことである。ミクロ計量経済学の学習を通じて、実証論文を正確に理解する力及び個票データを自力で分析する力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom を通じたりリアルタイム配信型のオンライン授業で、数式による説明だけでなく具体例を交えながらミクロ計量経済学のトピックを解説する。また、授業内容の理解を深めること（及び、計算力の向上とデータ分析のやり方を身に付けること）を狙いとして、数回の宿題を課す。提出された宿題に対するフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ミクロ計量経済学とは何か
第2回	操作変数法（1）	説明変数の内生性
第3回	操作変数法（2）	操作変数の満たすべき性質
第4回	最尤法	最尤法の考え方と推定量の性質
第5回	二値選択モデル（1）	LPM/プロビット/ロジット
第6回	二値選択モデル（2）	限界効果とあてはまりの尺度
第7回	多項選択モデル（1）	多項ロジットの対数尤度関数
第8回	多項選択モデル（2）	多項ロジットの限界効果と IIA
第9回	順序選択モデル	順序選択モデルの対数尤度関数
第10回	区間回帰モデル	区間回帰モデルの対数尤度関数
第11回	トービットモデル（1）	トービットモデルの対数尤度関数
第12回	トービットモデル（2）	トービットモデルの限界効果
第13回	標本選択モデル	標本選択の原因、ヘックマンの二段階推定法
第14回	まとめと期末試験	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計学・計量経済学の基礎的な知識（具体的には計量経済学 A 程度の内容）を有していることを前提とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1. Stock, James H and Mark W. Watson. 2019. "Introduction to Econometrics (4th Edition)," Pearson Education.
2. Winkelmann, Rainer and Stefan Boes. 2009. "Analysis of Microdata," Springer.

【参考書】

1. 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮, 2019 年, 『計量経済学』, 有斐閣。
2. Wooldridge, Jeffrey M. 2019. "Introductory Econometrics: A Modern Approach (7th Edition)," Cengage Learning.
3. Hensher, David A., John M. Rose and William H. Greene. 2015. "Applied Choice Analysis (2nd Edition)," Cambridge University Press.
4. Train, Kenneth E. 2009. "Discrete Choice Methods with Simulation (2nd Edition)," Cambridge University Press.
5. 鹿野繁樹, 2015 年, 『新しい計量経済学 データで因果関係に迫る』, 日本評論社。
6. 末石直也, 2015 年, 『計量経済学 ミクロデータ分析へのいざない』, 日本評論社。
7. 浅野哲・中村二郎, 2009 年, 『計量経済学（第 2 版）』, 有斐閣。
8. Cameron, A. Colin and Pravin K. Trivedi. 2005. "Microeconometrics: Methods and Applications," Cambridge University Press.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）と 4 回の宿題（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

データ分析を行う際に統計ソフトを使えば、自分で計算しなくても推定結果が得られる。しかし、推定結果が意味することを正確に解釈したり、自分の問題意識と整合的なデータ分析を行うための最適な方法を検討したりする際には、自分である程度の計算を行わなくてはならない場面もある。このような力を付けるために授業内で計算を行う時間をとったり、宿題を課したりする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じて資料の配布や宿題のアップロードなどを行う。この際に、受講者に通知のメールが届くようにするので、授業支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
公共経済学・応用計量経済学
＜研究テーマ＞
家計行動のミクロ計量分析
＜主要研究業績＞

- (1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, "The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households," Journal of Population Economics, Vol. 32, No. 1, pp. 309 - 346.
- (2) 上野綾子・濱秋純哉, 2017 年, 「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 - 57 頁。
- (3) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, "Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data," Asian Economic Journal, Vol.28(1), pp.41-62.
- (4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, "How does the first job matter for an individual's career life in Japan," Journal of the Japanese and International Economies, Vol.29, pp.154-169.
- (5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2012, "Changes in the Japanese employment system in the two lost decades," Industrial and Labor Relations Review, Vol. 65, No. 4, pp.810-846.

【Outline and objectives】

This course explains microeconomic methods from both a theoretical and practical perspective. Microeconomics is a statistical approach used to analyze individual- and household-level as well as firm-level (micro)data. Analyses using microdata often focus on limited dependent variables (that is, quantitative variables whose range of possible values is restricted) or on qualitative dependent variables (variables that take discrete values), for which the use of ordinary least squares (OLS) techniques is inappropriate. This course presents the appropriate estimation techniques for these different types of variables and explains how the estimation results are interpreted.

ECN511C1 - 1

社会経済学 A

原 伸子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学 A の目的は、マルクス経済学における経済学批判の方法を理解することです。今年度はデヴィッド・ハーヴェイ著『＜資本論＞入門』を教材に用いながら、マルクス経済学の理論とその現代的意義について学びます。

【到達目標】

- ①資本主義経済の基礎理論を歴史的・理論的に理解すること。
- ②基礎理論と現代資本主義との関連性を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 受講者は与えられた課題に対してレジュメを作成しプレゼンすること。
2. 与えられたテーマに関して、質疑応答を行うこと。
3. 期末にレポートを作成すること。

なお、コロナの状況に対応して、オンライン授業と対面授業を組み合わせる可能性があります。課題などの提出・フィードバックは「授業支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	資本主義の成立と展開
第 2 回	商品と価値 (1)	商品の分析、価値形態論
第 3 回	商品と価値 (2)	商品の分析、交換過程論
第 4 回	貨幣とその諸機能 (1)	価値尺度、流通手段、蓄蔵貨幣
第 5 回	貨幣とその諸機能 (2)	支払い手段、世界貨幣
第 6 回	資本の生成と労働力商品	資本の一般的定式、労働力商品
第 7 回	労働過程と剰余価値生産 (1)	労働過程と価値増殖過程
第 8 回	労働過程と剰余価値生産 (2)	不変資本、可変資本、剰余価値率
第 9 回	労働日と階級闘争の政治学 (1)	労働日
第 10 回	労働日と階級闘争の政治学 (2)	労働日と現代
第 11 回	剰余価値の生産過程 (1)	絶対的剰余価値・相対的剰余価値
第 12 回	剰余価値の生産過程 (2)	特別剰余価値と競争
第 13 回	資本蓄積論 (1)	剰余価値の資本への転化
第 14 回	資本蓄積論 (2) 今学期のまとめ	資本主義的蓄積の一般的傾向、富と貧困

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デヴィッド・ハーヴェイ著、森田誠也・中村好孝訳『＜資本論＞入門』作品社、2011 年。（授業時に適宜、関連文献を指示します）

【参考書】

カール・マルクス著『資本論』（大月書店、岩波書店、新日本新書など）
デヴィッド・ハーベイ著、森田誠也他約『資本の＜謎＞』作品社、2012 年。
デヴィッド・ハーベイ著、渡辺治監訳『新自由主義』作品社、2007 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的貢献度 50 %

期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に授業に参加できる、双方向的授業をめざす。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会経済学、経済学史、ジェンダー経済論

＜研究テーマ＞福祉国家の変容とジェンダー

＜主要研究業績＞

①単著『ジェンダーの政治経済学』（有斐閣、2016 年）

②共編著『現代社会と子どもの貧困』（大月書店、2015 年）

③共著『現代経済学と経済学』（有斐閣、2007 年）など。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to examine the relationship between the Marxian political economy and the global- neoliberal capitalism from the theoretical and methodological point of view. By reading David Harvey's Marx's Capital, the lecture focuses on understand the basic theory of Marxist Economics.

ECN511C1 - 2

社会経済学B

原 伸子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学 B の目的は、マルクス経済学における経済学批判の方法にもとづいて現代資本主義を理論的に分析することです。今年度はデヴィッド・ハーヴェイ『資本のく 謎>』（原題：The Enigma of Capital and the Crises of Capitalism, 2010）を教材に用いて、グローバル資本主義における資本循環と経済危機について学びます。

【到達目標】

1. 社会経済学の歴史・理論・政策を体系的に学ぶ。
2. 経済学批判の方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 受講者は与えられた課題に対してレジュメを作成しプレゼンすること。
2. 与えられたテーマに関して、質疑応答を行うこと。
3. 期末にレポートを作成すること。

なお、コロナの状況に対応して、オンライン授業と対面授業を組み合わせる可能性もあります。また課題などの提出・フィードバックは「授業支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の目的・課題・対象・方法の説明
第 2 回	1 金融恐慌の原因	2018 年リーマン・ショックの原因
第 3 回	2 恐慌の帰結	2018 年リーマン・ショックの波及
第 4 回	3 資本主義的生産関係	本源的蓄積と資本蓄積
第 5 回	4 資本主義的生産メカニズム	労働力商品と失業
第 6 回	5 資本主義的生産と物質代謝	自然の利用とその限界
第 7 回	6 資本主義と市場問題	生産と消費の矛盾
第 8 回	7 産業循環の理論	恐慌論
第 9 回	8 資本主義的生産の領域	資本主義共進化の活動領域
第 10 回	9 資本主義の動態	資本主義の断続的發展
第 11 回	10 資本主義と地理学	資本主義の地理的環境
第 12 回	11 資本主義と空間的分析	資本主義の空間的分析
第 13 回	12 地理的不平等発展の政治経済学	資本主義における時空間編成の矛盾
第 14 回	13 おわりに—オルタナティブ	地理的不平等発展の政治経済学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デヴィッド・ハーヴェイ著、森田誠也訳『資本のく 謎』作品社、2012 年。
(授業時に適宜、関連文献を指示します)

【参考書】

カール・マルクス著『資本論』(大月書店、岩波書店、新日本新書など)
デヴィッド・ハーベイ著、森田誠也他訳『＜資本論＞入門』作品社
デヴィッド・ハーベイ著、渡辺治監訳『新自由主義』作品社、2007 年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：授業への積極的貢献度 50 %
- ・期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケートはとっていないが、対話型の授業を目指していくつもりです。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会経済学、経済学史、ジェンダー経済論

＜研究テーマ＞福祉国家とジェンダーの理論的分析

＜主要研究業績＞

- ・原伸子『ジェンダーの政治経済学』(有斐閣、2016 年)
- ・法政大学大原社会問題研究所/原伸子編著『福祉国家と家族』(法政大学出版局、2012 年)
- ・共著『現代経済と経済学〔新版〕』(有斐閣、2007 年)
- ・共訳、ダンカン・フォーリー著『資本論を理解する』(法政大学出版局、1990 年)

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to examine the relationship between the Marxist political economy and the global- neoliberal capitalism from the theoretical and methodological point of view. By reading David Harvey's The Enigma of Capitalism and the Crises of Capitalism, the lecture focuses on finding the cause and background of global financial crisis in 2008-9 and making clear what is the boundary of capitalism.

ECN514C1 - 1

マクロ経済学 A

森田 裕史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学院レベルのマクロ経済モデルであるミクロ経済学的基础付けを持つ動学的一般均衡モデルを学ぶ。

【到達目標】

動学マクロ経済モデルを用いた研究論文の内容を理解し、自ら経済モデルを設定し、位相図を用いた動学分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

板書、スライドを用いた講義形式。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	ソロー経済成長モデル①	動学マクロ経済モデルの構造について
第 2 回	ソロー経済成長モデル②	ソローモデルの基本方程式の導出、与件の変化と定常状態の変化
第 3 回	ラムゼーモデル①	家計の最適化問題とオイラー方程式の導出
第 4 回	ラムゼーモデル②	位相図と鞍点経路
第 5 回	ラムゼーモデル③	技術ショックと経済の動学について
第 6 回	動的計画法①	Policy function の導出： Value function iteration
第 7 回	動的計画法②	Policy function の導出： Guess and Verify
第 8 回	世代重複モデル①	世代重複モデルの構造
第 9 回	世代重複モデル②	動学的非効率性と賦課方式の年金制度
第 10 回	実物的景気循環モデル①	労働供給を内生化した動学モデル
第 11 回	実物的景気循環モデル②	実物的景気循環モデルの位相図と与件の変化について
第 12 回	サーチモデル①	マッチング関数とサーチモデルの構造
第 13 回	サーチモデル②	サーチモデルの位相図と与件の変化について
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

- [1] 二神孝一、『動学マクロ経済学 成長理論の発展』、日本評論社、2012 年。
- [2] 齋藤誠、『新しいマクロ経済学—クラシカルとケインジアンとの邂逅』、有斐閣、2006 年。
- [3] McCandless, G., "The ABCs of RBC: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models", Harvard University Press, 2008.
- [4] 今井亮一・工藤教孝・佐々木勝・清水崇、『サーチ理論—分権的取引の経済学』、東京大学出版、2007 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題の解答例を試験までに公表することで、受講者が試験対策を行いやすいように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

基本的な数学の知識を身につけていることを前提にして講義を行います。また、受講者は大学院レベルのマクロ経済学の授業であることを事前に理解して履修すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞マクロ経済学、時系列分析

＜研究テーマ＞時系列モデルを用いた金融財政政策の効果についての実証分析

＜主要研究業績＞"Regime Switches in Japan's Fiscal Policy: Markov-Switching VAR Approach," (joint work with Jun-Hyung Ko) forthcoming in The Manchester School.

【Outline and objectives】

In this course, the students study the dynamic (stochastic) general equilibrium model with micro-economic foundation, such as Solow, Ramey, OLG, RBC and Search models.

ECN514C1 - 2

マクロ経済学B

宮崎 憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロの基礎付けのものと確率が含まれるマクロ経済モデルについて講義する。

【到達目標】

この講義を受講すれば、最近のマクロモデルについて論文を理解することができ、自分で確率が含まれるマクロ経済モデルを構築することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レクチャーノートにしたがって講義する。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

授業内もしくは授業後に課題を課し、フィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期前半**

回	テーマ	内容
第 1 回	時系列分析	時系列データの確率的性質について講義する
第 2 回	制約条件付き最適化	制約条件付き最適化について講義する
第 3 回	資本財なし完全競争市場モデル	資本財なし完全競争市場モデルについて講義する
第 4 回	資本財なし独占競争市場モデル	資本財なし独占競争市場モデルについて講義する
第 5 回	資本財あり完全競争市場モデル 1	資本財あり完全競争市場モデルについて均衡条件の導出まで講義する。
第 6 回	資本財あり完全競争市場モデル 2	資本財あり完全競争市場モデルについて対数線形近似の導出まで講義する。
第 7 回	Dynare の使い方	Dynare の使い方について講義する。
第 8 回	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデル 1	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデルについて均衡条件の導出まで講義する。
第 9 回	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデル 2	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデルについて対数線形近似の導出まで講義する。
第 10 回	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデル 1	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデルについて均衡条件の導出まで講義する。
第 11 回	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデル 2	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデルについて対数線形近似の導出まで講義する。
第 12 回	投資の調整費用モデル	投資の調整費用モデルについて講義する。
第 13 回	消費の習慣形成モデル	消費の習慣形成について講義する。
第 14 回	まとめ	講義全体をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しない。

【参考書】

George McCandless (2008), The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models, Harvard University Press.

Jordi Galí (2015), Monetary Policy, Inflation, and the Business Cycle: An Introduction to the New Keynesian Framework and Its Applications, Princeton Univ Press.

Carl E. Walsh (2010), Monetary Theory and Policy, MIT Press.

Jianjun Miao (2014), Economic Dynamics in Discrete Time, MIT Press.

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・期末試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

Dynare について講義する際にはノートパソコン持参することが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

マクロ経済学・計量経済学

＜研究テーマ＞

マクロ経済学・計量経済学

＜主要研究業績＞

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain several macroeconomic models with microeconomic foundations.

ECN513C1 - 1

ミクロ経済学A

平井 俊行

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では中級のゲーム理論、特に完備情報下の静学ゲーム・動学ゲームを中心に扱います。不完備情報下の静学ゲーム・動学ゲームにも触れます。

【到達目標】

- ・ゲーム理論の基礎概念を理解し、数学的に表現できるようになる。
- ・テキストの練習問題レベルの問題を独力で解けるようになる。
- ・ゲーム理論による分析を行っている専門論文を独力で読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

シラバス執筆時点 (2021 年 1 月中旬) では対面授業を予定しています。下記テキストを基に講義をおこないます。講義資料は学習支援システム (Hoppii) を通じて配布するので、授業開始日までに利用できるようにしておいてください。ホームワークについてのフィードバックはオフィスアワーを中心におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス、ゲーム理論の役割
2	完備情報静学ゲーム (1)	標準形ゲーム、戦略間の支配
3	完備情報静学ゲーム (2)	ナッシュ均衡
4	完備情報静学ゲーム (3)	応用 (1) クールノー寡占市場
5	完備情報静学ゲーム (4)	応用 (2) ベルトラン寡占市場、共有地の悲劇
6	完備情報静学ゲーム (5)	混合戦略、ナッシュ均衡の存在
7	完備情報動学ゲーム (1)	完備完全情報の動学ゲーム、後向き帰納法、応用
8	完備情報動学ゲーム (2)	完備不完全情報の 2 段階ゲーム、サブゲーム完全性、応用
9	完備情報動学ゲーム (3)	繰返しゲーム、完全フォーク定理
10	完備情報動学ゲーム (4)	展開形ゲーム、サブゲーム完全なナッシュ均衡
11	不完備情報静学ゲーム (1)	ベイジアンナッシュ均衡
12	不完備情報静学ゲーム (2)	オークション、顕示原理
13	不完備情報動学ゲーム (1)	完全ベイジアン均衡
14	不完備情報動学ゲーム (2)	シグナリングゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学部レベルのミクロ経済学および経済数学（基本的な微分・積分、確率計算等）を前提として講義を進めるので必要に応じて自習しておいてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

【英語】Robert Gibbons (1992) "Game Theory for Applied Economists", Princeton University Press.

【日本語】ロバート・ギボンズ (2020) 「経済学のためのゲーム理論入門」(福岡正夫、須田伸一翻訳) 岩波書店 3200+税

【参考書】

・岡田章 (2011) 「ゲーム理論 新版」有斐閣、3,800 円+税

・岡田章 (2014) 「ゲーム理論・入門 新版-人間社会の理解のために」有斐閣、1900 円+税

・Steven Tadelis (2013) "Game Theory: An Introduction", Princeton University Press.

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %) および 2 回のホームワーク (各 20 %) で評価を決めます。詳細は第 1 回の講義で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当のため特になし。

【担当教員の専門分野等】

以下のリンク先を参照してください。

<https://sites.google.com/site/toshiyukihirai54/research>

【Outline and objectives】

This course deals with Game theory at an intermediate level. The contents are mainly the theory of static and dynamic game under complete information and its applications. As an extension of this subject, the students learn the static game under incomplete information.

ECN513C1 - 2

ミクロ経済学B

小林 克也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、伝統的な価格理論を講義します。学部で授業で扱うミクロ経済学の基本を理解した学生のみならず、計算を用いた中級程度の内容を習得することを目標とします。価格理論の考え方や分析手法は、理論分析だけではなく、実証分析や事例研究をする場合も考え方の基礎となります。この講義では、こうした応用問題を考える際に、立ち返ることが出来る基礎を身につけます。

【到達目標】

教科書で扱われる消費者理論、生産者理論、市場機構の理論を言葉と図、数式を用いて自分で説明を出来ることが目標です。加えて比較静学分析で使う簡単な計算が自分で出来ることが目標です。受講者には、高校から大学1年で扱う微分（偏微分、全微分など）、行列と行列式の簡単な計算を出来ることが求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。10回程度、計算を中心とした問題を宿題として出す予定です。受講者のみなさんを毎回順番に指名してホワイトボードに宿題の解答を書いてもらい、答え合わせをします。その後、宿題の答案を提出してもらい、私が確認をして、必要に応じてコメントを記してお返しします。質問は授業中や授業の前の時間でするようにして下さい。その場で私が答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	消費者理論 1	選好と効用関数
第2回	消費者理論 2	宿題の確認。MRS、MRS 遞減、準凹関数、行列と行列式の計算。クラメールの公式。
第3回	消費者理論 3	宿題の確認。縁付きヘッセ行列、古典的なラグランジュ乗数法と2階条件。
第4回	消費者理論 4	宿題の確認。通常の需要と補償需要。比較静学の考え方。
第5回	消費者理論 5	宿題の確認。所得効果と代替効果。スルツキー方程式。
第6回	消費者理論 6	宿題の確認。スルツキー方程式の別アプローチ。包絡線定理の考え方。
第7回	消費者理論 7	宿題の確認。弾力性。同次関数。
第8回	企業の理論 1	宿題の確認。利潤最大化。2階条件とヘッセ行列。
第9回	企業の理論 2	宿題の確認。比較静学。長期と短期。ルシャトリエの原理。
第10回	最適化問題	宿題の確認。制約条件付き最適化問題とクーンタッカー条件。
第11回	競争均衡 1	宿題の確認。配分、パレート効率率。
第12回	競争均衡 2	宿題の確認。エッジワースボックス。厚生経済学の第1定理。コア。
第13回	独占と寡占市場。	宿題の確認。独占、寡占。
第14回	まとめと試験	まとめをした上で試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

微分の簡単な計算と行列と行列式の計算が出来ない人は、復習をしておく必要があります。これらの計算を授業では多用します。こうした計算の復習で1時間、または毎回の宿題と授業の復習、テキストの関連部分の精読で3時間の学習を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは次を使います。

西村和雄 (1990)『ミクロ経済学』東洋経済新報社

Varian, H. (1992), Microeconomic Analysis 3rd ed., W W Norton & Co Inc.

主に前者を用い、後者は補完的にみなさんが自主的に利用して下さい。

【参考書】

もう少し自分で上級の勉強をしたい人向けに以下をあげます。

Mas-Colell, A., Whinston, M., and Green, J. (1995), Microeconomic Theory, Oxford University Press

Jehle, G. and Reny, P. (2011), Advanced Microeconomic Theory (3rd Edition), Prentice Hall

前者はミクロ経済学のいろいろな分野が書いてあります。前者が難しいという人は後者の方が読みやすいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で宿題として出す練習問題で50%、授業の理解度を確かめるための期末試験で50%の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

2015年度にこの授業を担当して以降、学部1年生の講義が続いたために、間が開いてしまい、私自身が内容を忘れてしまっています。当時は難しいとちょうど良いと2通りの意見がありました。当時の水準を維持して、講義をする予定です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

詳細は私の website をご覧下さい。

<http://www.t.hosei.ac.jp/~katsuyak/>

【Outline and objectives】

In this course, I give a lecture on the traditional price theory. The purpose of this course is that students who learned the basics of microeconomics in the undergraduate lectures learn the intermediate contents with the calculations. The view of the price theory and its analytical methods are also the basis of econometric analyses and case studies. In this course, I hope that students acquire such bases.

ECN522C1 - 1

応用マクロ経済学 A

森田 裕史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではベイズ推計を用いた時系列分析の手法を学習する。

【到達目標】

ベイズ推定の方法、及び、各種の時系列モデルの構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

板書を用いた講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	ベイズ推計 (1)	確率論の復習
第 2 回	ベイズ推計 (2)	事後分布の計算方法
第 3 回	線形回帰モデルのベイズ推計 (1)	事前共役であるケースの事後分布
第 4 回	線形回帰モデルのベイズ推計 (2)	事前共役でないケースの事後分布
第 5 回	線形回帰モデルのベイズ推計 (3)	Matlab を用いた線形回帰モデルのベイズ推定
第 6 回	VAR モデル (1)	VAR モデルとは
第 7 回	VAR モデル (2)	構造 VAR モデル
第 8 回	VAR モデル (3)	Matlab を用いた VAR モデルのベイズ推定
第 9 回	状態空間モデル (1)	カルマンフィルターとカルマンスムーザー
第 10 回	状態空間モデル (2)	Matlab を用いた状態空間モデルのベイズ推定
第 11 回	マルコフ転換モデル (1)	マルコフ転換モデルの構造
第 12 回	マルコフ転換モデル (2)	Matlab を用いたマルコフ転換モデルのベイズ推定
第 13 回	平滑推移モデル (1)	平滑推移モデルの構造
第 14 回	平滑推移モデル (2)	Matlab を用いた平滑推移モデルのベイズ推定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

Kim, C-J., Nelson, C.R. (1999). State-Space Models with Regime Switching. The MIT Press.

【成績評価の方法と基準】

授業で取り上げた手法を用いて自ら分析を行った結果をまとめたタームペーパーに基づいて成績を評価する。(100 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Matlab を PC にインストールしておいて下さい。

【その他の重要事項】

この授業では、ベイズ推計を用いた実証分析の手法を講義します。ベイズ推計についての事前知識は不要ですが、統計学や計量経済学の知識を理解した上で授業を履修して下さい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞マクロ経済学・時系列分析

＜研究テーマ＞日本の金融財政政策の効果に関する分析

＜主要研究業績＞ Morita, H., "The Effects of Anticipated Fiscal Policy Shock on Macroeconomic Dynamics in Japan," The Japanese Economic Review Vol.68 No.3 September, pp.364-393, 2017.

【Outline and objectives】

In this course, the students learn the method of time series analysis using Bayesian estimation.

ECN522C1 - 2

応用マクロ経済学B

宮崎 憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では DSGE モデルの様々なモデル，特に THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) モデルについて学ぶ。

【到達目標】

最近の DSGE モデルの先行研究を理論的に理解し，その数値計算法を習熟することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テーマごとに学術論文を輪読する。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	On DSGE	Christiano, L. J., Eichenbaum, M. S., & Trabandt, M. (2018). On DSGE Models. <i>Journal of Economic Perspectives</i> , 32(3), 113 – 140.
第 2 回	RANK with capital utilization	Greenwood, J., Hercowitz, Z., & Huffman, G. W. (1988). Investment, Capacity Utilization, and the Real Business Cycle. <i>The American Economic Review</i> , 78(3), 402 – 417.
第 3 回	RANK with sticky wage	Yun, T. (1996). Nominal price rigidity, money supply endogeneity, and business cycles. <i>Journal of Monetary Economics</i> , 37(2), 345 – 370.
第 4 回	Medium Scaled RANK 1	Christiano, L. J., Eichenbaum, M., & Evans, C. L. (2005). Nominal Rigidities and the Dynamic Effects of a Shock to Monetary Policy. <i>Journal of Political Economy</i> , 113(1), 1 – 45
第 5 回	Medium Scaled RANK 2	Smets, F., & Wouters, R. (2007). Shocks and Frictions in US Business Cycles: A Bayesian DSGE Approach. <i>American Economic Review</i> , 97(3), 586 – 606.
第 6 回	RANK with Bank sector	Gertler, M., & Karadi, P. (2011). A model of unconventional monetary policy. <i>Journal of Monetary Economics</i> , 58(1), 17 – 34.

第 7 回	TANK & Monetary Policy	Galí, J., López-Salido, J. D., & Vallés, J. (2004). Rule-of-Thumb Consumers and the Design of Interest Rate Rules. <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 36(4), 739 – 763.
第 8 回	TANK & Fiscal Policy	Galí, J., López - Salido, J. D., & Vallés, J. (2007). Understanding the Effects of Government Spending on Consumption. <i>Journal of the European Economic Association</i> , 5(1), 227 – 270.
第 9 回	TANK with Sticky Wages	Colciago, A. (2011). Rule-of-Thumb Consumers Meet Sticky Wages. <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 43(2/3), 325 – 353.
第 10 回	TANK with Limited Asset Market Partitions	Bilbiie, F. O. (2008). Limited asset markets participation, monetary policy and (inverted) aggregate demand logic. <i>Journal of Economic Theory</i> , 140(1), 162 – 196.
第 11 回	THANK & Monetary Policy	Bilbiie, F. O. (2019). Monetary Policy and Heterogeneity: An Analytical Framework, forthcoming
第 12 回	THANK & Fiscal Policy	Bilbiie, F. O. (2018). The New Keynesian Cross, <i>Journal of Monetary Economics</i> , forthcoming
第 13 回	THANK with Capital	Bilbiie, F. O. (2020). Capital and Income Inequality: An Aggregate-Demand Complementarity, mimeograph
第 14 回	GHH-CARA Utility	Bilbiie, F. O. (2020). A GHH-CRRA Utility for Macro: Complementarity, Income, and Substitution, mimeograph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定した論文を読んでおく。本授業の予習・復習時間は、あわせて各回 5 時間とする。

【テキスト（教科書）】

授業内に指定する

【参考書】

授業内に指定する

【成績評価の方法と基準】

課題報告 (70%), 平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

経済政策・日本経済

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline and objectives】

This lecture studies several DSGE models including THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) models.

ECN521C1 - 1

応用ミクロ経済学 A

平井 俊行

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマーケットデザインの基礎理論について学びます。特に、オークションとマッチングの理論を中心に扱います。

【到達目標】

オークションとマッチングの理論についての基礎理論を習得し、独力で専門論文を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中盤までは以下に指定するテキストの基礎理論寄りの章を基に担当者が講義します。中間試験を経て、終盤に残りの応用寄りの章から履修者自身がトピックを選択し、プレゼンテーションをしてもらいます。履修者が希望する場合はテキストではなく、テキストに参考文献として掲載されている専門論文を発表しても構いません。(あまりに短いものは除く) プレゼンテーションの枠確保のため、履修者数によっては内容を変更することがあります。また、他の履修者のプレゼンテーションに対する講評もおこなってもらいます。これらの講評は報告者にフィードバックされます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・イントロダクション	講義の説明とテキスト第 1 章
第 2 回	基本的なオークション (1)	テキスト第 2 章 1-3 節
第 3 回	基本的なオークション (2)	テキスト第 2 章 4-5 節
第 4 回	基本的なオークション (3)	テキスト第 2 章 6-7 節
第 5 回	VCG オークション	テキスト第 4 章
第 6 回	基本的なマッチングモデル (1)	テキスト第 9 章 1-3 節
第 7 回	基本的なマッチングモデル (2)	テキスト第 9 章 4-5 節
第 8 回	研修医マッチング	テキスト第 10 章 1-2 節
第 9 回	配分マッチング問題 (1)	テキスト第 11 章 1-2(前半) 節
第 10 回	配分マッチング問題 (2)	テキスト第 11 章 2(後半)-3 節
第 11 回	中間試験と第 10 回までのまとめ	中間試験と第 10 回までのまとめ
第 12 回	プレゼンテーション (1)	学生によるプレゼンテーション
第 13 回	プレゼンテーション (2)	学生によるプレゼンテーション
第 14 回	プレゼンテーション (3)	学生によるプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ギョーム・ハーリンジャー（著）、栗野盛光（訳）「マーケットデザイン - オークションとマッチングの理論・実践」（2020） 中央経済社 4800 円＋税

【参考書】

特になし。興味があれば、テキストに引用されている論文を自発的に読んでください。

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40 %、プレゼンテーション 40 %、講義への参加（主に他の履修者のプレゼンへの講評）20 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や連絡を学習支援システム (Hoppii) を通じておこないます。

【その他の重要事項】

学部レベルのゲーム理論および経済数学の知識を前提とします。

【担当教員の専門分野等】

<https://sites.google.com/site/toshiyukihirai54/research>

【Outline and objectives】

This course studies the basic theory of market design. In particular, we mainly treat auction and matching.

ECN521C1 - 2

応用ミクロ経済学B

小林 克也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、応用ミクロ経済学の立場で公的部門に焦点を当てながら、基本的なモデルについて説明をします。みなさんが応用理論の論文を自分で読めるようになるために必要な考え方を学びます。

【到達目標】

授業の中で取り上げる各分野で、基本的な理論モデルの考え方について、理解することが目標です。モデルの中で計算過程も経済上の意味を持ちますので、それも含めて理解するよう努めて下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での講義形式で進めます。講義の区切りごとに、あわせて5回の宿題を出します。みなさんが提出したものに私がコメントを書いてお返ししますが、解答を次の授業の最初にみなさんに質問をしながら板書して答えを確認します。みなさんの質問は授業中かその前後に私がお話しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	自然独占産業と公的規制 (1)	自然独占
第2回	自然独占産業と公的規制 (2)	ピークロード料金
第3回	自然独占産業と公的規制 (3)	ラムゼイ料金
第4回	公共選択 (1)	意思決定のルール
第5回	公共選択 (2)	直接民主制、中位投票者の定理、投票のパラドックス
第6回	公共選択 (3)	間接民主制、投票の棄権
第7回	公共選択 (4)	レントシーキングとコンテスト
第8回	公共選択 (5)	公約、選挙を通じた競争
第9回	公共選択 (6)	投票による規律付け投票による規律付けの限界
第10回	公共選択 (7)	ゲリマンダリング
第11回	公共選択 (8)	社会厚生関数の考え方
第12回	課税	ラムゼイルールの考え方
第13回	地方分権	住民移動と地方公共財
第14回	まとめと試験	まとめをした上で試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

微分の計算をして最適化問題を解くので、基本的な計算をあらかじめ理解をしておいて下さい。ミクロ経済学AとBで扱う計算や経済学の概念を用いるので、これらの講義をあわせて履修して下さい。価格理論やゲーム理論の概念も授業で用います。これらの復習やこの授業の復習、宿題の解答に各回とも4時間程度の学習が標準です。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いませんが、以下の参考書の該当する部分を参照しながら講義します。

【参考書】

小西秀樹 (2009)『公共選択の経済分析』東京大学出版会

井堀利宏 (1996)『公共経済の理論』有斐閣

を部分的に参照します。その他論文は授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

宿題として出す練習問題を50%、最後に実施する期末試験を50%として成績を付けます。

【学生の意見等からの気づき】

初めて担当するので、アンケートを実施していません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

詳細は私の website をご覧下さい。

<http://www.t.hosei.ac.jp/~katsuyak/>

【Outline and objectives】

In this course, I explain basic models, focusing on public sectors from the standpoint of the applied microeconomics. You learn the skills to read papers of applied theory on your own.

ECN563C1 - 1

開発経済論 A

池上 宗信

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済学の主要な実証分析手法と論文を学ぶ。
 先行研究をサーベイするのではなく、特定の論文に焦点をあて、その論文の先行研究の不備、間、貢献、データ、手法を学ぶ。
 実証分析手法として、クラスター頑健標準誤差、ランダム化比較試験、差の差の分析、不連続回帰、操作変数法を学ぶ。
 これらの手法を用いて、人的資本、信用、市場、制度、紛争に関する問を研究した論文を学ぶ。

【到達目標】

各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
 各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の間、アイデアを探ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業の予定である。
 各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。
 各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。
 情報実習室と呼ばれる、各受講生に 1 台ずつデスクトップパソコンが用意された教室を用いる予定である。
 授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。
 授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。
 演習問題、試験には統計計算ソフト R を用いた問題が含まれる。
 オンライン授業となってしまう場合
 ・ 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解くか、課題を提出する。
 ・ 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取る。
 ・ 受講生は課題の解答例をフィードバックとして受け取る。
 ・ 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用する。
 ・ 中間試験および期末試験を、リモート試験とし、学習支援システム上の課題として試験の解答を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	教育	学力追跡と成績、Duflo, Dupas, and Kremer (2011), ランダム化比較試験、クラスター、不均一分散
第 2 回	信用	アドバース・セレクション、モラル・ハザード, Karlan and Zinman (2009), 2 段階ランダム化
第 3 回	差の差の分析	並行トレンドの仮定
第 4 回	人的資本	所得と男子女子比率、Qian (2008), 差の差の分析
第 5 回	健康	マラリアと所得, Bleakley (2010), 差の差の分析

第 6 回	市場	携帯電話と魚市場、Jensen (2007), 差の差の分析
第 7 回	まとめと復習、中間試験	第 1 回から第 7 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	不連続回帰	連続性条件、局所回帰
第 9 回	制度 1	投票と貧困対策、Fujiwara (2015), 不連続回帰
第 10 回	制度 2	地方分権と貧困削減、Litschig and Morrison (2013), 不連続回帰
第 11 回	操作変数法	内生変数、外生変数、操作変数
第 12 回	制度 3	植民地と経済成長、Acemoglu, Johnson, and Robinson (2001), 操作変数法
第 13 回	紛争	食料援助と紛争、Nunn and Qian (2014), 操作変数法
第 14 回	まとめと復習、期末試験	第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。
 オンライン授業となってしまう場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを受けるか、課題を提出する。
 授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

- ・ 高野久紀 (2014,2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号
- ・ Acemoglu, Daron, Simon Johnson, and James A. Robinson. (2001). “The colonial originsof comparative development: An empirical investigation.” *American Economic Review* 91(5).
- ・ Bleakley, Hoyt. (2010). “Malaria in the Americas: A retrospective analysis of childhood exposure.” *American Economic Journal: Applied Economics* 2:1 - 45.
- ・ Duflo, Esther, Pascaline Dupas, and Michael Kremer. (2011). “Peer effects, teacher incentives, and the impact of tracking: Evidence from a randomized evaluation in Kenya.” *American Economic Review* 101(5): 1739 - 1774.
- ・ Fujiwara, Thomas. (2015). “Voting Technology, Political Responsiveness, and Infant Health: Evidence From Brazil.” *Econometrica* 83(2): 423 - 464.
- ・ Jensen, Robert. (2007). “The Digital Provide” *Quarterly Journal of Economics* 122(3): 879 - 924.
- ・ Karlan, Dean, and Jonathan Zinman. (2009). “Observing Unobservables: Identifying Information Asymmetries With a Consumer Credit Field Experiment.” *Econometrica* 77(6): 1993 - 2008.
- ・ Litschig, Stepan, and Kevin M. Morrison. (2013). “The impact of intergovernmental transfers on education outcomes and poverty reduction.” *American Economic Journal: Applied Economics* 5(4): 206 - 240.
- ・ Nunn, Nathan, and Nancy Qian. (2014). “US Food Aid and Civil Conflict.” *American Economic Review* 104(6): 1630 - 66.
- ・ Qian, Nancy. (2008). “Missing women and the price of tea in China: The effect of sex-specific earnings on sex imbalance.” *Quarterly Journal of Economics* 123(3): 1251 - 1285.

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%、平常点 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は 2020 年度は開講されなかった。
 R を用いた演習は、2019 年度の講義にはなかった、今回からの新しい試みである。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
 開発ミクロ経済学
 <研究テーマ>

家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険

<主要研究業績>

① “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” *Journal of Risk and Insurance*. Forthcoming.

② “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.

③ “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline and objectives】

We will study major empirical methods and papers in Development Economics.

As the major empirical methods, we will study cluster robust standard errors, randomized control trial, difference in difference, regression discontinuity design, and instrument variable method.

We will study papers using these empirical methods and analyzing questions related to human capital, credit, market, institution, and conflict.

ECN542C1 - 1

金融ファイナンス論A

胥 鵬

サブタイトル：（2021 年度以降入学者）

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんだろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスク資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステムチック・リスクの意味について考え、分散投資の考え方を理解してもらうことをめざす。さらに、日々の株価を用いて様々な経済研究が可能だと理解してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し、修士論文作成へのステップアップを目指す。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変	日々の株価の変動と株価
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつき
4	二株を追う者は何を得る？	2 銘柄の分散投資の収益率
5	リスクとリターンのトレードオフ	複数銘柄の分散投資
6	C A P M	資本市場線、証券市場線とベータ
7	ハイリスク・ハイリターン	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4～5時間を標準とします。予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【テキスト（教科書）】

齊藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済＜研究テーマ＞ MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

＜主要研究業績＞

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記（6,7章）白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

Finance theory begins and ends with risk. However, what is the definition of risk? The starting point for defining risk is the standard deviation, which represents the variability of the rate of return, and the lecture focuses on the correlation between the rates of return on two stocks and diversified investment. Then, the efficient portfolio frontier is derived from risky assets. Furthermore, risk-free asset will be explained in an easy-to-understand manner, and the definition of risk in equilibrium and the relationship between risk and return will be explained using the concept of the capital market line and the security market line including risk-free asset.

ECN542C1 - 2

金融ファイナンス論B

胥鵬

サブタイトル：（2021 年度以降入学者）

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス基礎Bでは、配当、値上がり益、株式分割併合などと株価の調整後終値について解説し、株式投資収益率データを用いて個別銘柄のリスクを計測する分析を中心に講義する。その上で、株価の値動きが偶然による結果かどうかについて判断する分析方法を解説する。経営業績はもちろん、財務政策、投資戦略と吸収合併、金融政策と財政政策などが株価に影響を及ぼす。つまり、日々変動する株価が経済理論を検証するデータの宝庫になる。株価を動かす情報に関連する経済理論を検証するさまざまな応用について解説する。さらに、株式の派生証券のオプション理論について学ぶ。

【到達目標】

金融ファイナンス基礎Bでは、Aの中で習った理論を下敷きにして、事後の株価データに基づいて、株式のリスクの計測分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある増減収・増減益などの企業業績変動、金融政策と財政政策の意味について考え、情報と株価との関連から経済理論を検証する方法を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し、修士論文作成へのステップアップを目指す。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	リスクの計測	CAPMとマーケット・モデルのアルファ、ベータとシグマ
第2回	異常収益率	マーケット・モデル、異常収益率の分布と検定
第3回	イベントスタディー	業績変動、増資などの株価に対する効果を分析する方法について学ぶ
第4回	経済政策と株価	クラスターが伴うイベントスタディーについて学ぶ
第5回	株価と経済分析	金融ファイナンスだけではなく、株価が経済政策実証分析データの宝庫
第6回	オプション理論	簡単な二項モデルでオプション理論を学ぶ
第7回	多期間オプション理論	簡単な二項モデルから、ブラックショールズモデルまで拡張する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4～5時間を標準とします。予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記、白桃書房 2020 年

【参考書】

随時専門誌論文を授業支援システムにアップロードする

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

【学生の意見等からの気づき】

早口だができるだけゆっくり話すように

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参。留学生は、Excel は必ず日本語バージョンを大学からダウンロードして使ってください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融・中国経済

<研究テーマ> 研究開発と企業銀行関係など

<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記（6,7 章）白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiom, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

In course B, the lecture will focus on the analysis of measuring the risk of individual stocks using return on equity data, explaining dividends, gains on stock price, stock splits and reverse stock splits, and adjusted closing prices of stocks. The lecture will then focus on the analysis to measure the risk of individual stocks using return on equity data. The lecture will then explain the analysis method to determine whether stock price movements are the result of chance or not. In addition to business performance, financial policies, investment strategies and mergers and acquisitions, monetary and fiscal policies, and other factors affect stock prices. In other words, stock prices, which fluctuate on a daily basis, become a treasure trove of data to test economic theories. I will explain various applications that test economic theories related to the information that drives stock prices. In addition, we will learn about the option theory of stock derivatives.

ECN542C1 - 1

金融システム論 A

胥 鵬

サブタイトル：（2020 年度以前入学者）

備考（履修条件等）：（2020 年度以前入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんだろうか？リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスク資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステムチック・リスクの意味について考え、分散投資の考え方を理解してもらうことをめざす。さらに、日々の株価を用いて様々な経済研究が可能だと理解してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQ などの学内データベースの活用方法を紹介し、修士論文作成へのステップアップを目指す。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつき
4	二株を追う者は何を得る？	2 銘柄の分散投資の収益率
5	リスクとリターンのトレードオフ	複数銘柄の分散投資
6	C A P M	資本市場線、証券市場線とベータ
7	ハイリスク・ハイリターン	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4～5時間を標準とします。予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【テキスト（教科書）】

齊藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることもある。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済＜研究テーマ＞ MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

＜主要研究業績＞

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記（6,7章）白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

Finance theory begins and ends with risk. However, what is the definition of risk? The starting point for defining risk is the standard deviation, which represents the variability of the rate of return, and the lecture focuses on the correlation between the rates of return on two stocks and diversified investment. Then, the efficient portfolio frontier is derived from risky assets. Furthermore, risk-free asset will be explained in an easy-to-understand manner, and the definition of risk in equilibrium and the relationship between risk and return will be explained using the concept of the capital market line and the security market line including risk-free asset.

ECN542C1 - 2

金融システム論B

胥鵬

サブタイトル：（2020年度以前入学者）

備考（履修条件等）：（2020年度以前入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス基礎Bでは、配当、値上がり益、株式分割併合などと株価の調整後終値について解説し、株式投資収益率データを用いて個別銘柄のリスクを計測する分析を中心に講義する。その上で、株価の値動きが偶然による結果かどうかについて判断する分析方法を解説する。経営業績はもちろん、財務政策、投資戦略と吸収合併、金融政策と財政政策などが株価に影響を及ぼす。つまり、日々変動する株価が経済理論を検証するデータの宝庫になる。株価を動かす情報に関連する経済理論を検証するさまざまな応用について解説する。さらに、株式の派生証券のオプション理論について学ぶ。

【到達目標】

金融ファイナンス基礎Bでは、Aの中で習った理論を下敷きにして、事後の株価データに基づいて、株式のリスクの計測分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある増減収・増減益などの企業業績変動、金融政策と財政政策の意味について考え、情報と株価との関連から経済理論を検証する方法を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し、修士論文作成へのステップアップを目指す。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	リスクの計測	CAPMとマーケット・モデルのアルファ、ベータとシグマ
第2回	異常収益率	マーケット・モデル、異常収益率の分布と検定
第3回	イベントスタディー	業績変動、増資などの株価に対する効果を分析する方法について学ぶ
第4回	経済政策と株価	クラスターが伴うイベントスタディーについて学ぶ
第5回	株価と経済分析	金融ファイナンスだけではなく、株価が経済政策実証分析データの宝庫
第6回	オプション理論	簡単な二項モデルでオプション理論を学ぶ
第7回	多期間オプション理論	簡単な二項モデルから、ブラックショールズモデルまで拡張する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4～5時間を標準とします。予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記、白桃書房 2020 年

【参考書】

随時専門誌論文を授業支援システムにアップロードする

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

【学生の意見等からの気づき】

早口だができるだけゆっくり話すように

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参。留学生は、Excel は必ず日本語バージョンを大学からダウンロードして使ってください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>企業金融・中国経済

<研究テーマ>研究開発と企業銀行関係など

<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記（6,7 章）白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

In course B, the lecture will focus on the analysis of measuring the risk of individual stocks using return on equity data, explaining dividends, gains on stock price, stock splits and reverse stock splits, and adjusted closing prices of stocks. The lecture will then focus on the analysis to measure the risk of individual stocks using return on equity data. The lecture will then explain the analysis method to determine whether stock price movements are the result of chance or not. In addition to business performance, financial policies, investment strategies and mergers and acquisitions, monetary and fiscal policies, and other factors affect stock prices. In other words, stock prices, which fluctuate on a daily basis, become a treasure trove of data to test economic theories. I will explain various applications that test economic theories related to the information that drives stock prices. In addition, we will learn about the option theory of stock derivatives.

ECN554C1 - 1

財政学 A

小黒 一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】

財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

（1）前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

（2）後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

（3）参加者に、参考文献の報告を求める。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、基本的に授業は Zoom 等の遠隔システムを利用して行う予定である。初回のガイダンスを含め、リンクは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	財政規律と予算制度（1）	ガイダンス
2	財政規律と予算制度（2）	OECD 諸国の財政動向
3	財政規律と予算制度（3）	財政赤字と予算制度①（財政赤字の政治経済学、予算・予算制度・予算マネジメント）
4	財政規律と予算制度（4）	財政赤字と予算制度②（予算制度の分析）
5	財政規律と予算制度（5）	日本の予算制度の問題①（財政悪化と財政再建の過程）
6	財政規律と予算制度（6）	日本の予算制度の問題②（財政ルール、中期財政フレーム）
7	財政規律と予算制度（7）	日本の予算制度の問題③（意思決定システム）
8	財政規律と予算制度（8）	日本の予算制度の問題④（中央省庁等改革と予算編成過程）
9	財政規律と予算制度（9）	OECD 主要国の予算制度改革①（アメリカ、イギリス、ニュージーランド）
10	財政規律と予算制度（10）	OECD 主要国の予算制度改革②（オーストラリア、カナダ）
11	財政規律と予算制度（11）	OECD 主要国の予算制度改革③（フランス、ドイツ、イタリア）
12	財政規律と予算制度（12）	OECD 主要国の予算制度改革④（スウェーデン、オランダ）
13	財政規律と予算制度（13）	予算制度の国際比較①（政治的コミットメント、財政ルール）
14	財政規律と予算制度（14）	予算制度の国際比較②（中期財政フレーム、意思決定システム、予算・財政の透明性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各 2 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社、2011

【参考書】

- ① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
- ② Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
- ③ Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
- ④ Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ⑤ Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
- ⑥ 井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社, 1998
- ⑦ 井堀利宏『課税の理論』有斐閣, 2003
- ⑧ 山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社, 2013

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告（70 %）＋レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

感染症対策のため、基本的に Zoom を利用したオンラインで授業を行うことを予定している。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

- ① Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
- ② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
- ③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
- ④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese public finance, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese fiscal policy at a much deeper level.

ECN554C1 - 2

財政学B

小黒 一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】

財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- （1）前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- （2）後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- （3）参加者に、参考文献の報告を求める。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、基本的に授業は Zoom 等の遠隔システムを利用して行う予定である。初回のガイダンスを含め、リンクは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	財政と政治（1）	ガイダンス
2	財政と政治（2）	選好と制度
3	財政と政治（3）	選挙競争
4	財政と政治（4）	利益団体
5	財政と政治（5）	選挙ルールと選挙競争
6	財政と政治（6）	制度と説明責任、政治レジーム
7	財政と政治（7）	動学的政治問題
8	財政と政治（8）	資本課税との関係
9	財政と政治（9）	公的債務との関係
10	財政と政治（10）	成長との関係
11	財政と政治（11）	金融政策の信認
12	財政と政治（12）	選挙サイクル
13	財政と政治（13）	制度とインセンティブ
14	財政と政治（14）	国際政治の調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各 2 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002

【参考書】

- ① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
- ② Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
- ③ Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
- ④ Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ⑤ Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
- ⑥ 井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社, 1998

⑦井堀利宏『課税の理論』有斐閣, 2003

⑧山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社, 2013

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告 (70 %) + レポート (30 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

感染症対策のため、基本的に Zoom を利用したオンラインで授業を行うことを予定している。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015

② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013

③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013

④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of relationship between public finance and politics, by using the approaches of public economics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese fiscal policy at a much deeper level.

ECN523C1 - 1

統計学 A

阿部 俊弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として多変量解析の基本的手法に焦点を当て、データの例と分析手法を考えていきます。回帰モデルや統計的分布のパラメータ推定法をいくつかを調べ、最尤法を用います。また、統計学はデータを意識した学問であることから、統計的ソフトウェア R を用いてデータ分析手法も身に付け、実践力を付けていきます。

【到達目標】

回帰分析の概念を理解し、最尤法によるパラメータ推定を理解する。また、多変量解析の手法や実データに対してどの統計手法を用いれば良いか理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、R を用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要と準備	統計ソフト R について
第 2 回	単回帰分析の導入	最小二乗法による回帰係数の推定
第 3 回	単回帰モデルの評価	区間推定と検定による検証
第 4 回	最尤法の理論	最尤法によるパラメータ推定
第 5 回	最尤法の応用	回帰モデルへの最尤法の適用
第 6 回	重回帰モデルの理論	重回帰モデルと回帰係数の推定
第 7 回	重回帰モデルの変数選択	AIC を用いたモデル選択
第 8 回	重回帰モデルの評価	区間推定と検定による検証
第 9 回	統計的分類手法としての判別分析	判別分析の理論
第 10 回	判別分析を用いた評価	予測と誤判別率
第 11 回	データ分類の実際	データを用いた分類
第 12 回	ロジスティック回帰モデルの理論	データの例とモデルの導入
第 13 回	ロジスティック回帰分析の実際	データを用いた分析と手法の比較
第 14 回	データの分類手法	統計的手法とその他の分類手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 賢一 (著)・下平 英寿 (編集) (2020) 『R で学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』
配布資料も用いながら講義を行う。

【参考書】

宮田庸一 (著) (2012) 『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

【成績評価の方法と基準】

通常の課題レポート (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・統計ソフトウェアの R を使用します。
- ・レポート提出のために、Microsoft Word か TeX を使用します。
- ・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞統計科学

＜研究テーマ＞方向統計学・EM アルゴリズム

＜主要研究業績＞

[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. Statistical Papers, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.

[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.

[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". International Statistical Review, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.

[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.

[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution. To appear.

【Outline and objectives】

In this course, we mainly focus on basic methods of multivariate analysis and consider the theory and its illustrative examples. We also investigate parameter estimation for probability distributions, and apply the method of maximum likelihood as statistical inference. In addition, we will use a popular statistical software R to investigate a behavior of the statistical model.

ECN523C1 - 2

統計学 B

阿部 俊弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では前半は様々な多変量解析の手法を調査し、その手法の理論と実践を身に着けていきます。また、様々なところで耳にすることも多い「シミュレーション」は様々な状況で使われています。ここでは、疑似乱数を用いて解析的に解くことは難しいような問題に対して「真の解はどこにありそうなのか？」という解決法について取り組んでいきます。

【到達目標】

様々な多変量解析の概念を調査し、高度な手法を身に着けていく。また、統計的分布の疑似乱数の生成を行い、乱数を用いた予測を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、R を用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要と準備	様々な多変量解析の手法の概観
第 2 回	主成分分析の理論	データの例と主成分分析の理論
第 3 回	主成分分析の適用	主成分分析の解釈
第 4 回	主成分分析の注意点	データの標準化
第 5 回	クラスター分析の理論	データの例とクラスター分析の理論
第 6 回	クラスター分析の応用	実データの群分けと解釈
第 7 回	クラスター分析に関する話題	クラスター分析の注意点
第 8 回	正準相関分析の理論	データの例と正準相関分析の理論
第 9 回	正準相関分析の応用	データへの理論の適用
第 10 回	ブートストラップ法の基本	リサンプリングとブートストラップ標本
第 11 回	ブートストラップ法の応用	ブートストラップ法の適用
第 12 回	疑似乱数	疑似乱数を使うことの利点
第 13 回	様々な統計的分布と疑似乱数	統計的分布とそれに対応する疑似乱数
第 14 回	疑似乱数による理論の検証	様々な統計理論のシミュレーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 賢一 (著)・下平 英寿 (編集) (2020) 『R で学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』

【参考書】

宮田庸一 (著) (2012) 『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

永田靖・棟近雅彦 (共著) (2001) 『多変量解析法入門』、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

通常の課題レポート (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・統計ソフトウェアの R を使用します。
- ・レポート提出のために、Microsoft Word または TeX を使用します。
- ・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>統計科学

<研究テーマ>方向統計学・EM アルゴリズム

<主要研究業績>

- [1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. Statistical Papers, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.
- [2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.
- [3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". International Statistical Review, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.
- [4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.
- [5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution. To appear.

【Outline and objectives】

In this course, we introduce various illustrative examples and theory in multivariate analysis. The term "simulation", which is often heard in our real life, is used in various situations. As examples of that, we will tackle to a problem which is difficult to solve analytically. As a result, we will consider a solution to the problem "Where is the true solution likely?" by using pseudo-random numbers.

ECN544C1 - 1

企業経済学 A

砂田 充

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）の基本モデルを学習する。

【到達目標】

産業組織論・企業経済学の基本的なモデルを自ら構築・解析できる能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を使った講義形式がメイン。学生による報告を求める場合もある。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。オンライン授業（リアルタイム配信型）を予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	産業組織論の基本概念	「産業」と「市場」/SCP 分析/集中度
第 3 回	完全競争と経済厚生	厚生経済学の基本定理/完全競争均衡の最適性
第 4 回	独占市場	独占市場均衡と厚生/独占による厚生損失
第 5 回	寡占市場：数量競争①	推測的変動/製品差別化とクールノー競争
第 6 回	寡占市場：数量競争②	マーケットシェアの決定/市場構造と利益率/集中度と厚生
第 7 回	寡占市場：価格競争①	価格競争型寡占モデル/製品差別化とベルトラン競争
第 8 回	寡占市場：価格競争②	供給制約と価格競争/エッジワースの批判
第 9 回	寡占市場：価格競争③	生産能力決定と価格競争/ベルトラン・パラドクス
第 10 回	寡占市場：価格競争④	参入阻止戦略
第 11 回	製品差別化①	垂直的差別化/水平的差別化/独占的競争
第 12 回	製品差別化②	Hotelling モデル/最小差別化定理
第 13 回	製品差別化③	最小差別化定理と最適価格/2 段階モデルと最適解
第 14 回	コンテストブル・マーケット	コンテストブル・マーケット理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ミクロ経済学の基礎について復習を行うこと。また、基本的な数学（1 次関数、2 次関数、微分、積分、最適化、連立方程式等）について不安がある場合は、各自、事前に復習を行うこと。事前に配布される講義資料を使い十分な予習（2 時間程度）を行ったうえで授業に臨み、講義後は復習（2 時間程度）を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣、2001 年）。
丸山雅祥『経営の経済学【新版】』（有斐閣、2011 年）。

Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010.
 Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
 Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ. Press, 2004.
 Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press, 1996.
 Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988.

【成績評価の方法と基準】

平常点（70～95%）、期末試験（5～30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

【その他の重要事項】

履修者の理解度を踏まえて内容を変更する場合があります。

【担当教員の専門分野等】

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学

【Outline and objectives】

This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics. The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on the topics as follows: monopoly, oligopoly with or without capacity constraint, market structure and market power, vertical and horizontal product differentiation, and so on. Students are expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics.

ECN551C1 - 1

環境経済論 A

松波 淳也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、大学院修士課程レベルの標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

当面オンライン授業を行う。環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第14回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN551C1 - 2

環境経済論 B

松波 淳也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、大学院修士課程レベルの標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

当面オンライン授業を行う。現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観 -	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義、経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて -	廃棄物経済学の主要アプローチ、廃棄物経済学の整備に向けて、最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル -	廃棄物経済学の誕生、廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系 -	循環型社会形成推進基本法等、個別リサイクル法、3 R の優先順位、2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法 -	家庭ごみの有料化、埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金、特定製品への税・課徴金、デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政 -	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開、短期的政策、中長期的政策の位置づけ、地域特性に即したきめ細かい政策、環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面 -	動脈経済と静脈経済、経済成長と動脈部門・静脈部門、静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会 -	ゼロエミッション思想、逆工場の考え方、「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果 -	市場リサイクルの条件、動脈と静脈の相互関係、規制と公共関与、企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則 -	汚染者支払い原則 PPP、汚染者負担原則、ピグー税と負担の帰着
第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPR の物理的責任と金銭的責任

第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済, 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法: 再論, 容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法, PC リサイクル・システム, 携帯電話リサイクル・システム, 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グズとバズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN553C1 - 2

経済政策 B

濱秋 純哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、変数間の「因果関係」を特定するための統計的手法への社会的な関心が高まっている。たとえば、政府は 2017 年度の「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」や内閣府「経済財政白書」で「証拠に基づく政策立案（Evidence Based Policy Making; EBPM）」に言及し、GDP 等の公的統計の整備とともに、就労支援施策や教育政策（少人数学級等）等の政策の因果効果を実証分析で明らかにする試みを始めた。経済学の分野では、以前から因果関係の特定に大きな注意が払われていたが、種々の個票データの利用可能性の高まりとともに、より精緻な分析を行うことが可能になった。このような流れを受け、この授業では経済政策を評価するための因果推論の手法について学ぶ。

【到達目標】

受講者が、政策評価のための統計的手法を用いてデータ分析ができるようになることを目的とする。評価の対象となる経済政策として、主に社会保障政策を念頭に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom を通じたりアルタイム配信型のオンライン授業で政策評価のための統計的手法を説明する。各受講者には、授業と平行して政策評価のための統計的手法を用いた研究計画を作成してもらう。受講者が少数であれば、授業内で研究計画の妥当性について議論することを通じてフィードバックを行う（研究計画の報告会の開催などを予定）。受講者が多ければ、研究計画に対して「学習支援システム」を通じてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要の説明
第 2 回	研究テーマの見つけ方	研究テーマをどのように見つけるか？
第 3 回	RCT と自然実験	RCT と自然実験の具体例
第 4 回	因果関係の推定 (1)	平均処置効果
第 5 回	因果関係の推定 (2)	操作変数法と局所的平均処置効果
第 6 回	差の差分分析 (DID) (1)	政策の効果を受ける群と受けない群の変化の差を比較する手法
第 7 回	差の差分分析 (DID) (2)	DID 推定のための諸条件
第 8 回	差の差分分析 (DID) (3)	差の差の差分分析 (Triple-Difference)
第 9 回	イベントスタディ分析	DID とイベントスタディ分析の違いとは？
第 10 回	合成コントロール法 (SCM)	DID と SCM の違いとは？
第 11 回	回帰不連続デザイン (RDD) (1)	同質的な対象者に生じた不連続な政策の変化を利用する手法
第 12 回	回帰不連続デザイン (RDD) (2)	RDD のための諸条件
第 13 回	回帰不連続デザイン (RDD) (3)	Sharp RDD と Fuzzy RDD
第 14 回	研究計画の最終報告会	受講者による研究計画の報告とその検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、統計学・計量経済学の基礎的な知識を持っていることが望まれる。具体的には、計量経済学 A/B の知識を前提とする。また、社会保障制度の知識（2020 年度の経済政策 A の授業程度の知識）もあると授業の理解が深まる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストには依拠せず、教員が作成した授業資料に沿って講義を進める。

【参考書】

1. 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮, 2019 年, 『計量経済学』, 有斐閣。
2. 安井翔太（著）・株式会社ホクソエム（監修）, 2020 年, 『効果検証入門』, 技術評論社。
3. Angrist, Joshua D. and Pischke Jörn-Steffen. 2009. “Mostly Harmless Econometrics: An Empiricist’s Companion,” Princeton University Press.

【成績評価の方法と基準】

研究計画の作成・報告（100%）によって評価する。研究計画の作成には、先行研究の整理、分析対象となる政策の理解、検証する仮説の設定、分析に用いる統計的手法とデータの選択、予想される困難への対処の検討などの作業が必要となり、これらをいかに緻密に行えたかが評価基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規開講科目につき過去にアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

授業内でデータ演習を行う可能性があり、その場合には STATA や R などの統計ソフトをインストールしたパソコンが必要となる。

【その他の重要事項】

受講者として想定しているのは、これから政策評価の手法を用いて修士論文や博士論文を執筆する修士 2 年生以上の院生である。実証経済学基礎 A でも因果推論の手法が扱われるが、経済政策 B ではより実践的な内容を扱う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共経済学・応用計量経済学

<研究テーマ>

家計行動のミクロ計量分析

<主要研究業績>

(1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, “The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households,” *Journal of Population Economics*, Vol. 32, No. 1, pp. 309 – 346.

(2) 上野綾子・濱秋純哉, 2017 年, 「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 – 57 頁。

(3) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, “Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data,” *Asian Economic Journal*, Vol.28(1), pp.41-62.

(4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, “How does the first job matter for an individual’s career life in Japan,” *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol.29, pp.154-169.

(5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2012, “Changes in the Japanese employment system in the two lost decades,” *Industrial and Labor Relations Review*, Vol. 65, No. 4, pp.810-846.

【Outline and objectives】

In recent years, there has been a growing interest in statistical methods to identify causal relationships among variables. For example, both the Basic Policy on Economic and Fiscal Management and Reform 2017 and the Cabinet Office’s Annual Report on the Japanese Economy and Public Finance mention “evidence-based policy-making” (EBPM), and along with the compilation of official statistics such as GDP statistics, the government has started to empirically examine the causal effects of policies such as employment support measures and education policies (such as the introduction of smaller classes in schools).

Meanwhile, in the field of economics, researchers have been focusing on the identification of causal relationships for quite some time, but with the increasing availability of various types of microdata, more detailed analyses have become possible. Against this background, this course seeks to provide an understanding of what causal relationships are and introduces statistical methods for making causal inferences.

経済地理学 A

近藤 章夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、研究の到達点や今後の課題について議論する。

【到達目標】

経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文を読解できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第 2 回	経済学と地理・空間 (1)	主要論文の輪読
第 3 回	経済学と地理・空間 (2)	主要論文の輪読
第 4 回	経済学と地理・空間 (3)	主要論文の輪読
第 5 回	都市と集積 (1)	主要論文の輪読
第 6 回	都市と集積 (2)	主要論文の輪読
第 7 回	都市と集積 (3)	主要論文の輪読
第 8 回	イノベーションとネットワーク (1)	主要論文の輪読
第 9 回	イノベーションとネットワーク (2)	主要論文の輪読
第 10 回	イノベーションとネットワーク (3)	主要論文の輪読
第 11 回	空間経済の理論と実証 (1)	主要論文の輪読
第 12 回	空間経済の理論と実証 (2)	主要論文の輪読
第 13 回	空間経済の理論と実証 (3)	主要論文の輪読
第 14 回	経済地理学のフロンティアとまとめ	主要論文の輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Brakman, S., et al. (2019) 『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World (3rd edition)』Cambridge University Press

Clark, G. L., et al. (2018) 『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press

Combes, P. P., et al. (2008) 『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press

Cooke, P. et al. (2013) 『Handbook of Regional Innovation and Growth』Edward Elgar Pub

松原宏 (2006) 『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会

佐藤泰裕ほか (2011) 『空間経済学』有斐閣

その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加が評価の中心となる。

平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

①共著 (2015) 『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著 (2012) 『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著 (2007) 『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline and objectives】

Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research and future challenges.

ECN574C1 - 1

労働経済学A

酒井 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く力を養います。

【到達目標】

学生は、この講義を通して、基本的な労働供給・労働需要・市場均衡の理論を理解します。更に、人的資本理論や補償賃金格差といった理論についても学習し、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付けることを最終的な目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業形式でおこないます。

中間課題等については、基本的に、授業内で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働経済学とは、
第2回	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
第3回	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
第4回	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
第5回	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
第6回	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
第7回	市場均衡	競争均衡、買手独占
第8回	実証分析の方法（1）	回帰分析
第9回	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
第10回	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用 （「同一労働同一賃金」等）
第11回	人的資本投資（1）	教育投資モデル、 シグナリング・モデル
第12回	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊訓練
第13回	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、 グループ間賃金格差
第14回	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義で使用した資料をよく復習することが求められます。また、授業内で示された文献にも、極力、目を通すことが望まれます。本講義の準備・復習に必要な時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

Borjas, G 『Labor Economics 8th Edition』（McGraw Hill Higher Education, 2019 年）

川口大司『労働経済学 理論と実証をつなぐ』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

中間課題（50%）と期末レポート（50%）によって評価する予定である。剽窃等の不正行為については厳しく対処する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が関心のあるトピックを把握するように努めたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 労働経済学、社会保障論

<研究テーマ> 就業と社会保障

<主要研究業績>

『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保障』（慶應義塾大学出版会、2020 年）

"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"(共著)
Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline and objectives】

In this course, we study labor economics with an emphasis on applied microeconomic theory and empirical analysis. We also study the statistics related to the labor economics, such as Labor Force Survey and so on. Topics to be covered include: labor supply and demand, compensating wage differential, immigration, human capital investment, signaling model, and regression.

ECN574C1 - 2

労働経済学B

酒井 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論Aで学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説します。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討します。（取り上げるトピックの例、「介護離職」、「長時間労働」、「待機児童」等）また、コロナ禍における労働市場のセーフティネットについても議論します。

【到達目標】

学生が、働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できるようになることを最終的な目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業形式でおこないます。
中間課題等については、基本的に、授業内で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
第2回	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
第3回	人事の経済学（2）	相対評価、 後払い賃金
第4回	労働市場における差別	差別の経済理論、 男女間賃金格差
第5回	失業（1）	日本の失業の概観
第6回	失業（2）	失業を説明する理論
第7回	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析、 労働災害の現状
第8回	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
第9回	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、 仕事の二極化
第10回	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
第11回	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、 介護離職問題
第12回	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
第13回	両立支援制度	女性の就業と保育サービス・育児休業
第14回	社会保険料事業主負担の帰着問題	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料をよく復習する必要があります。また、指示された文献（学術論文等）についても目を通すことが望まれます。本講義の準備・復習に必要な学習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保障』（慶應義塾大学出版会、2020年）

Boeri, T., and J. van Ours (2021) The Economics of Imperfect Labor Markets 3rd Edition, Princeton Univ Pr

【成績評価の方法と基準】

中間課題（50%）と期末レポート（50%）によって評価する予定です。剽窃等の不正行為については厳しく対処します。

【学生の意見等からの気づき】

・修士論文等の作成の役に立つように、実証分析で何が解っており、何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 労働経済学、社会保障論

<研究テーマ> 就業と社会保障

<主要研究業績>

"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"(共著) Journal of Human Capital 13(2), pp. 260-292, 2019.

"Are Elderly Workers More Likely to Die in Occupational Accidents? Evidence from Both Industry-aggregated Data and Administrative Individual-level Data in Japan"(共著) Japan and The World Economy 48, pp. 79-89, 2018.

【Outline and objectives】

Based on conceptual frameworks studied in the Labor Economics A, we study the link between those frameworks and public policies in the real world. Topics to be covered include: unemployment insurance, personnel economics, parental leave, child care, informal care and so on.

ECN561C1 - 1

国際貿易論 A

田村 晶子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

貿易データにより国際貿易の現状を把握した上で、どのような貿易パターンが貿易の利益をもたらすかを、貿易理論により学ぶ。また、貿易の利益の分配上の対立についても学ぶ。

【到達目標】

伝統的な比較優位理論を理解し、貿易の利益がどのように生じるかを理解できる。貿易を制限する貿易政策の費用と便益、地域貿易協定の経済効果を学ぶ。また、貿易利益を分配する上での対立を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにはば沿いながら、参考文献を適宜に用いて、パワーポイントで講義する。授業内容の理解を深めるため、中間レポート、期末レポートを、受講者全員が授業内で報告し、議論をおこなう。初回（4月8日）はオンライン授業を行います。初回授業で受講生の意向を確認した上で、2回目以降は対面授業を行う可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	貿易データベースの解説
2)	貿易の歴史と現状	貿易データによる現状把握
3)	技術と比較優位①	リカードモデル
4)	技術と比較優位②	多数財のモデル
5)	要素比率と比較優位①	ヘクシャー・オリーンモデル
6)	要素比率と比較優位②	データによる検証
7)	中間レポート報告	中間レポートの報告と討論
8)	貿易政策のツール①	関税の費用と便益
9)	貿易政策のツール②	輸入割当の費用と便益
10)	地域貿易協定	地域貿易協定の経済効果
11)	貿易利益の分配①	貿易利益の事例
12)	貿易利益の分配②	分配上の対立
13)	貿易利益の分配③	敗者への補償
14)	期末レポート報告	期末レポートの報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Elhanan Helpman, Understanding Global Trade, Belknap Press, 2011 (翻訳本：ヘルプマン著『グローバル貿易の針路をよむ』本多/井尻/前野/羽田/訳, 文真堂, 2012)

Krugman, Obstfeld, and Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th edition, Global Edition, Pearson, 2014 (翻訳：クルグマン・オブズフェルド・メリッツ (山形浩生、守岡校訳)『クルグマン国際経済学理論と政策（原書第 10 版）上:貿易編』丸善出版、2017)

【参考書】

清田耕造・神事直人著『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

講義への積極的参加による平常点（20％）、中間レポートの報告（30％）、期末レポートの報告（50％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため、該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

【担当教員の専門分野等】

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html>

【Outline and objectives】

Students grasp the status quo of international trade using the data, then learn the standard trade theory and understand the trade pattern which makes gain from trade. Students also learn the cost and benefit of trade policy, and conflict concerning the distribution of the gain from the trade.

ECN561C1 - 2

国際貿易論 B

田村 晶子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

規模の経済と産業内貿易に注目した新貿易理論、企業の異質性に着目した、新・新貿易理論の基本を理解し、貿易、直接投資（企業の海外進出）、アウトソーシングの選択について学びます。

【到達目標】

規模の経済に注目した新貿易理論を理解し、産業内貿易を説明できる。企業の異質性に着目した、新・新貿易理論の基本を理解し、企業の貿易と直接投資（企業の海外進出）、アウトソーシングの選択を説明できる。また、直接投資（企業の海外進出）のパターンを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにはば沿いながら、参考文献も適宜に用いて、パワーポイントで講義する。授業内容の理解を深めるために、中間レポートと期末レポートを、受講者全員が授業内で報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1)	新貿易理論①	規模の経済と貿易
2)	新貿易理論②	独占的競争と貿易
3)	輸出対非輸出企業①	輸出企業の特徴は何か
4)	輸出対非輸出企業②	企業の異質性と実証分析
5)	失業と不平等①	貿易と労働市場の摩擦
6)	失業と不平等②	賃金への影響
7)	中間レポートの報告	中間レポートの報告と討論
8)	水平的直接投資	伝統的な理論と水平的直接投資
9)	垂直的直接投資	垂直的直接投資の実証
10)	複合型直接投資	複合型直接投資の理論
11)	内部化の意思決定①	直接投資の選択
12)	内部化の意思決定②	企業内貿易の分析
13)	日本企業の海外進出	日本企業の現状
14)	期末レポート報告	期末レポートの報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Elhanan Helpman, Understanding Global Trade, Belknap Press, 2011 (翻訳本：ヘルプマン著『グローバル貿易の針路をよむ』本多/井尻/前野/羽田/訳, 文真堂, 2012)

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 11th edition, Global edition, Pearson Education, 2017 年 (翻訳：クルグマン・オブズフェルド・メリッツ著『クルグマン国際経済学理論と政策：上 貿易編（原著第 10 版）』丸善出版、2017 年)

【参考書】

清田耕造著『拡大する直接投資と日本企業』、エヌティティ出版、2015

富浦英一著『アウトソーシングの国際経済学』、日本評論社、2014

田中鮎夢『新々貿易理論とは何か：企業の異質性と 21 世紀の国際経済』、ミネルヴァ書房 2015

清田耕造・神事直人著『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

講義への積極的参加による平常点（20％）、中間レポートの報告（30％）、期末レポートの報告（50％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外の科目のため、該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

【担当教員の専門分野等】

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html>

【Outline and objectives】

Students study the new trade theory considering economies of scale and intra-industry trade. Students also study the new-new trade theory considering firm's heterogeneity and learn firm's choice among trade, foreign direct investment and outsourcing in the global competition.

応用計量経済学 A

明城 聡

サブタイトル：(2021 年度以降入学者)

備考 (履修条件等)：(2021 年度以降入学者用)

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証分析を行うために必要な計量経済学の応用と、統計パッケージ R を利用した分析方法を学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージ R を用いた基本的な計量分析の手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・ R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・一般化古典的回帰モデル
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・ R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・ Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・ Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】

(1) 小暮厚之、「R による統計データ分析入門」朝倉書店、2009 年

(2) 福地純一郎、伊藤有希、「R による計量経済分析」朝倉書店、2011 年

(3) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポートにて評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント (ID およびパスワード) を確認しておくこと。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline and objectives】

Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

ECN573C1 - 1

ミクロ計量分析A

明城 聡

サブタイトル：(2020 年度以前入学者)

備考(履修条件等)：(2020 年度以前入学者用)

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

実証分析を行うために必要な計量経済学の応用と、統計パッケージ R を利用した分析方法を学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージ R を用いた基本的な計量分析の手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・ R について
3	R の設定 (2)	・ 基本的な設定 ・ 基本コマンド ・ 統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ ファイル操作 ・ オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・ 基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・ 行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・ 行列演算
8	線形回帰分析(クロスセクション・データ 1)	・ クロスセクション・データ ・ 一般化古典的回帰モデル
9	線形回帰分析(クロスセクション・データ 2)	・ R での回帰分析 ・ 散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析(クロスセクション・データ 3)	・ 不均一分散の検定 ・ 不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析(パネルデータ 1)	・ パネルデータ ・ Pooled OLS
12	線形回帰分析(パネルデータ 2)	・ 固定効果モデル ・ 変量効果モデル
13	線形回帰分析(パネルデータ 3)	・ Hausman 検定
14	まとめ	・ 授業のまとめと復習 ・ 課題レポートについて

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】

(1) 小暮厚之、「R による統計データ分析入門」朝倉書店、2009 年

(2) 福地純一郎、伊藤有希、「R による計量経済分析」朝倉書店、2011 年

(3) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポートにて評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント(ID およびパスワード)を確認しておくこと。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline and objectives】

Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

OTR501C1 - 1

日本語 I A

清水 由美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、①フォーマルな場でテーマに沿って意見交換をする。②専門分野の論文を書くために最低限必要な日本語の基礎を固め、まとまった内容の文章を書くことに慣れる。

【到達目標】

- (1) 初級レベルの日本語のミスをなくす。
- (2) 中・上級レベルの文型と語彙を使いこなせるようになる。
- (3) 賛否の分かれるテーマについて、授業での話し合いにふさわしい日本語で意見交換ができるようになる。また、司会者として、そのような話し合いを運営できるようになる。
- (4) 事実・他者の意見・自分の意見をきちんと分けて、説得力のある意見文を書けるようになる。
- (5) 自分の書いた文章の間違いに気づく力を身につけ、よりよい表現を使いこなせるようになる。
- (6) 日本の新聞の投書欄に、意見文を投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

◇オンデマンドでの資料配信・課題提出・フィードバックを基本とする。

◇学期中に4回、同時双方向での話し合いの場を設ける。※ Zoomを使うか、Hoppiiの授業内掲示板（＝文字でのチャット）を使うかは、初日に学生へのアンケートを行って決める。

【授業の進め方】

1. ディスカッション（＝意見交換）
 - ①賛否の分かれそうなテーマ（学期中に4つ扱う予定）について、必要な情報を集める。＝予習
 - ②クラスでテーマに関するキーワードや概念について、情報を交換し、お互いに理解を確認する。 ※ Hoppiiの授業内掲示板を利用
 - ③内容を理解したうえで、自分の意見をまとめる。司会を担当する学生は、ディスカッションの流れを予想し、進行の計画を立てる。＝予習
 - ④司会の進行指示に従って、ディスカッションする。 ※ Hoppiiの授業内掲示板あるいは Zoomなどの会議アプリを利用
 - ⑤ディスカッションの中で見られた口頭表現の問題点や、司会進行について、意見や感想を交換する。＝振り返り
2. 意見文執筆
 - ⑥ディスカッションの内容に基づいて、自分の意見を 500 字程度の文章にまとめる。＝宿題
 - ⑦お互いの意見文を読み合い、質問や助言をし、評価もする。
 - ⑧自分の書いた原稿と、講師による修正案を読みくらべ、日本語の問題点を見つける。＝宿題
3. 意見文投稿
 - ⑨学期末に自分の書いた意見文から最もよいと思うもの1点を選び、実際に日本の新聞の投書欄に投稿する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介 ・日本語能力の確認 ・ディスカッションの形態についてのアンケート

第2回	ディスカッション①-1	・ディスカッションにおける司会者の役割を知る。 ・簡単なテーマについてディスカッションをしてみる。 ・ディスカッション②以降のテーマ選定＝宿題
第3回	ディスカッション①-2	・意見文のモデルを読み、構成を分析する。 ・意見文を書いてみる。
第4回	ディスカッション①-3	・ディスカッションの日本語表現について振り返る。 ・意見文を読み合い、質問や助言を受けて、書いたものを完成させる。
第5回	ディスカッション②-1	・テーマ②についての情報交換と理解確認 ・ディスカッションの準備
第6回	ディスカッション②-2	・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆＝宿題
第7回	ディスカッション②-3	・ディスカッションの日本語表現について振り返る。 ・意見文を読み合い、質問や助言をする。 ・意見文の完成＝宿題
第8回	ディスカッション③-1	・テーマ③についての情報交換と理解確認 ・ディスカッションの準備
第9回	ディスカッション③-2	・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆＝宿題
第10回	ディスカッション③-3	・ディスカッションの日本語表現について振り返る。 ・意見文を読み合い、質問や助言をする。 ・意見文の完成＝宿題
第11回	ディスカッション④-1	・テーマ④についての情報交換と理解確認 ・ディスカッションの準備
第12回	ディスカッション④-2	・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆＝宿題
第13回	ディスカッション④-3	・ディスカッションの日本語表現について振り返る。 ・意見文を読み合い、質問や助言をする。 ・意見文の完成＝宿題
第14回	「ベスト意見文」を選んで投書する	これまで書いた意見文から自薦・他薦でいちばんよいものを選び、さらに推敲を重ねて完成させ、新聞に投書する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。
- ・ディスカッションの司会を担当する回は、それ以上の時間が必要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※これは秋学期の日本語ⅡBでテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への参加貢献（ディスカッションなどでの発言・司会）＝40%
- ・課題文（4回）＝40%
- ・最終課題（新聞への投書）＝20%

【学生の意見等からの気づき】

・先学期はすべてオンデマンド（非同期）で、ディスカッションも授業内掲示板を利用して文字によるチャットだけで行った。やはり場を共有して音声でやりとりしたいという声があった一方で、顔出しはしたくない、住環境の制約から声も出しにくいという学生もいた。今学期も、初めにアンケートで学生の希望を聞いて、授業形態を決める。

・ディスカッションという形式そのものに不慣れな学生もいるため、「意見を述べ合う」という活動の練習を、初めの回で丁寧に行う。
・日本語表現の間違いを自覚する力が不足していることがわかったので、自分の書いた原稿と講師による修正案との違いをさがす作業を、課すことにした。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布・課題提出・意見交換などに学習支援システム Hoppii を利用する。
・ディスカッションの形態は初回のアンケートの結果を見て決めるが、いずれにしてもパソコンがあったほうが参加しやすいと思われる。

【その他の重要事項】

・日本語Ⅱ A（発表のための話しことばの基礎）も受講すること。また、秋学期には日本語Ⅰ B（口頭発表の訓練）とⅡ B（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
・2021 年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語Ⅲ A・Ⅲ B を受講すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法
＜主要研究業績＞
・『すばらしき日本語』（2020 年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018 年、中公文庫）
・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009 年、研究社）

【Outline and objectives】

Basic Japanese for academic speaking and writing.

OTR501C1 - 2

日本語Ⅰ B

清水 由美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするために、視覚資料を作成し、それを使って口頭発表をするための訓練を行う。
※春学期の日本語Ⅱ A では、口頭発表の「部分練習」を行った。このⅠ B では、まとまりのある一つの発表全体の練習をする。

【到達目標】

（１）自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするための視覚資料（おもに PPT スライド）を作成できるようになる。
（２）わかりやすく説得力のある発表をするための日本語表現と話し方を身につける。
（３）作成した視覚資料を用いて 10 分程度の口頭発表をし、それに対する質疑に応じられるようになる。
（４）ほかの受講生の発表を聞き、内容について質問や意見交換ができるようになる。
（５）自分の書いた文章および自分の口頭発表の形式や内容について、問題点に気づき、修正できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】**【授業の形態】**

◇オンデマンドでの資料配信・課題提出・フィードバックを基本とする。
◇学期中に 4 回、同時双方向での話し合いの場を設ける。※ Zoom を使うか、Hoppii の授業内掲示板（＝文字でのチャット）を使うかは、初日に学生へのアンケートを行って決める。状況が許せば、対面での発表会を行う。

【授業の進め方】

（１）視覚資料（スライド）の作成
①大枠のテーマについて自分で話題を見つけ、アウトラインを考えてスライドを作成する。
②講師の助言を参考に、スライドを完成させ、発表ノートを準備する。
③講師の助言を参考に、発表ノートを完成させる。
（２）口頭発表
④作成したスライドと発表ノートを使って、3～5 分程度の口頭発表を行う（あるいは録音して発表動画を作成する）。
⑤ほかの受講生の発表を聞き（あるいは動画を視聴し）、内容についての質疑と、形式についてのコメントをする。発表者は、質疑に応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・授業の形態について、アンケート ・近況報告（いつどこで何がどうしたか、なぜそうなったかを、わかりやすく、かつ聞き手の興味を引き付けるように話す）

第 2 回	・スライドに使う日本語表現の確認（箇条書きの復習など） ・対照的な事象をわかりやすく述べる	「コロナ禍／オンライン授業で得たもの、失ったもの」スライド作成
第 3 回	・言いたいことに合わせて、情報提示の効果的な順番を考える ・対比を明確に伝える話し方を意識する ・箇条書きのスライドを見せながら話す	「コロナ禍／オンライン授業で得たもの、失ったもの」スライドの修正と発表ノートの作成、音声録音
第 4 回	「コロナ禍／オンライン授業で得たもの、失ったもの」発表会	・互いの発表を聞き（視聴し）、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第 5 回	事実と伝聞（引用）をきちんと分ける	「気になるニュース」を 1 つ取り上げて、スライドと発表ノートを作成
第 6 回	引用のマナーを守って話す	「気になるニュース」スライドの修正と発表（音声録音）
第 7 回	「気になるニュース」発表会	・互いの発表を聞き（視聴し）、質疑応答をする。 ※司会進行も、学生が分担する。
第 8 回	スライドの見やすさを意識する	「おもしろいデータ」を 1 つ取り上げ、紹介のためのスライドと発表ノートを作成
第 9 回	数字の意味を伝える話し方の確認（日本語Ⅱ A で練習したことの復習）	「おもしろいデータ」スライドの修正と発表（音声録音）
第 10 回	「おもしろいデータ」発表会	・互いの発表を聞き（視聴し）、質疑応答をする。 ※司会進行も、学生が分担する。
第 11 回	・他者の意見を簡潔にまとめて紹介する ・他者の意見に対する賛否を述べる	「最近話題になっている考え方」（講師が選定）を紹介し、それについての意見を述べるスライドと発表ノートの作成
第 12 回	他者の意見と自分の意見をはっきり分けて話す	「最近話題になっている考え方」スライドの修正と発表（音声録音）
第 13 回	最終発表「日本の〇〇に対する違和感」の準備	テーマに沿って話題を決める ⇒ アウトラインを作成 ⇒ 講師の助言を受けてスライド作成・発表の準備
第 14 回	・最終発表会「日本の〇〇に対する違和感」 ・授業評価アンケート	・互いの発表を聞き（視聴し）、質疑応答をする。 ※司会進行も、学生が分担する。 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題について、どうすればわかりやすく伝えることができるかを考えてスライドと発表ノートを作成し、実際に時計と鏡を見ながら、声に出して話す練習をしていくこと。各回 1 時間程度必要。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要な資料や課題の説明は、オンラインで配信する。

【参考書】

『大学・大学院 留学生の日本語 4 論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※日本語Ⅱ B（レポート作成）で教科書として使用する本である。書くためのテキストではあるが、数字の述べ方などの基本は発表にも役立つので、入手して参照すること。

【成績評価の方法と基準】

- ・各回の課題（提出と内容）＝ 50 %
- ・授業への参加貢献（発表会での発言など）＝ 20 %
- ・最終発表（資料と口頭発表）＝ 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・口頭発表と視覚資料作成の基礎は、春学期の特別講義Ⅱ A で行った。秋学期のⅡ B では、課題の内容を各自の興味に即したものにしつつ、日本語の精度を高め、「聞く人に届く発表」をめざす。
- ・2020 年度は口頭発表の時間でありながら、すべてをオンライン・オンデマンドで行った。対面で実施したいという不満もあった一方、文字だけのチャットでもできることは多く、オンデマンドのほうがむしろ落ち着いて学習できたという声もあった。今学期の実施形態については、初回のアンケートの結果を見て、決めることとしたい。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業内容の伝達や課題の指示は、学習支援システム Hoppii で行う。
PC の利用が望ましい。

【その他の重要事項】

- ・春学期の日本語Ⅱ A（＝口頭発表と視覚資料作成の基礎）を、必ず受講しておくこと。
- ・話しことばと書きことばの違いを明確に意識するためにも、日本語Ⅱ B（＝レポート作成）を同時に受講することが望ましい。
- ・2021 年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語Ⅲ A・Ⅲ B を受講すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語、日本語教育

<研究テーマ>母語話者が意識化しにくい文法、やさしい日本語

<主要研究業績>

- ・『すばらしき日本語』（2020 年、ポプラ新書）
- ・『日本語びいき』（2018 年、中公文庫）
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009 年、研究社）

【Outline and objectives】

Advanced Japanese for academic presentation.

OTR501C1 - 1

日本語ⅡA

清水 由美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、①口頭発表のための視覚資料（スライド、レジュメ）を作成し、②それを使って口頭発表をするための基礎的な訓練を行う。

※このⅡAでは、口頭発表に必要なさまざまな要素を個別に取り上げて、部分的な練習を行う。ひとまとまりの発表全体の練習は、秋学期の日本語ⅠBで行う。

【到達目標】

- (1) 書き言葉と話し言葉の違いが大きい日本語の特性を理解し、両者を適切に使いこなせるようになる。
- (2) 視覚資料（レジュメやスライド）の作成に必要な日本語表現と、提示のし方を身につける。
- (3) 口頭発表に必要な日本語表現と、適切な話し方を身につける。
- (4) 作成した視覚資料を使って、3分程度の口頭発表ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

◇オンデマンドでの資料配信・課題提出・フィードバックを基本とする。

◇学期中に少なくとも2回、口頭発表の場を設ける。※Zoomを使うか、Hoppiiの授業内掲示板（＝動画配信と文字でのチャット）を使うかは、初日に学生へのアンケートを行って決める。

【授業の進め方】

- ①ひとまとまりの口頭発表の「部分練習」として、注意すべき点ごとにスライド作成と発表原稿の作成を課す。
 - ②講師のフィードバックを受けて、各回の課題のスライドを完成させ、口頭発表の音声録音して発表動画を作成する。
 - ③クラスで発表を視聴し、質疑応答やコメントをする。
- ※学期中に少なくとも2回、同時双方向での発表の場を設け、質疑応答も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・日本語能力の確認 ・授業形態についてのアンケート
第2回	話しことばと書きことばの違い①	2種類の自己紹介 ・クラスの前で話す ・スライドにまとめる
第3回	話しことばと書きことばの違い②	友人紹介（準備） ・インタビューとメモ作成 ・スライドにまとめる ・スライドを見て話す
第4回	話しことばと書きことばの違い③	友人紹介（発表） ・スライドを見て話す
第5回	画像を説明する①	写真に写っているものをわかりやすく解説する（＝スライドの作成と発表ノートの準備）
第6回	画像を説明する②	聞き手の興味をひきつけるための情報の取捨と提示の順番を考える（＝発表ノートの完成と口頭表現）

第7回	項目を列挙する①	・箇条書きの形式を学ぶ ・箇条書きされたリストを文章化する
第8回	項目を列挙する②	箇条書きされたリストをわかりやすく口頭で伝える
第9回	数字の意味を伝える①	データ紹介のスライドを作成
第10回	数字の意味を伝える②	データの「意味」を伝える発表ノートを作成
第11回	数字の意味を伝える③	作成したスライドを使って口頭発表
第12回	因果関係を整理して述べる①	時系列に沿ってスライドを作成
第13回	因果関係を整理して述べる②	作成したスライドを使って口頭発表
第14回	期末試験とまとめ	・学期中に学んだことが理解できているかどうかを確認するための筆記試験 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回、課題のための資料を配布する。

【参考書】

- ①『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習 言い換え、書き換え』（鎌田美千子・仁科浩美、スリーエーネットワーク）
 - ②『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
- ※②は、秋学期の日本語ⅡBでテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】

- ・話し合いへの参加貢献 20 %
- ・各回の課題 50 %
- ・期末試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

先学期はすべてオンデマンド（非同期）で実施、口頭発表と質疑応答も授業内掲示板を利用して文字によるチャットだけで行った。やはり場を共有して音声でやりとりしたいという声があった一方で、顔出しはしたくない、住環境の制約から声も出しにくいという学生もいた。今学期も、初めにアンケートで学生の希望を聞いて、授業形態を決める。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料配布・課題提出・意見交換などに学習支援システム Hoppii を利用する。
- ・口頭発表の形態は初回のアンケートの結果を見て決めるが、いずれにしてもパソコンがあったほうが参加しやすいと思われる。

【その他の重要事項】

- ・日本語ⅠA（ディスカッションとアカデミック・ライティングの基礎）も受講すること。また、秋学期には日本語ⅠB（口頭発表の実践訓練）とⅡB（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
- ・2021年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語義ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>日本語教育、日本語文法
- <研究テーマ>母語話者が意識化しにくい文法
- <主要研究業績>
- ・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
- ・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline and objectives】

Basic Japanese for academic presentation.

OTR501C1 - 2

日本語ⅡB

清水 由美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、日本語で専門分野のレポート・論文を書くために必要な文章の構成を学び、実際にレポートを書き上げる。

【到達目標】

- (1) わかりやすく説得力のあるレポート・論文を書くための、日本語の表現や文章構成を身につける。
- (2) 論理的構成の資料を、十分な速さで目的に沿って読み、理解できるようにする。
- (3) 自分の研究テーマや関心のある問題について、明解で説得力のあるレポート（図表や資料を別にして 3,000 字程度）を書く。
- (4) ほかの人が書いた文章を、一定の速さで、かつ、批判的に読むことができるようになる。
- (5) 自分の書いた日本語の問題点に気づき、それを修正することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

◇オンデマンドでの資料配信・課題提出・フィードバックを基本とする。

◇学期中に 2 回程度、同時双方向での話し合いの場を設ける。※ Zoom を使うか、Hoppii の授業内掲示板（＝文字でのチャット）を使うかは、初日に学生へのアンケートを行って決める。状況が許せば、対面で行う。

【授業の進め方】

典型的な論文構成の流れに沿って、序論から結論および参考文献リストにいたるまでの、各部でよく使われる日本語の文型・表現と展開パターンを学ぶ。各回の授業の流れは、原則として以下のとおり。最後に 3,000 字程度のレポートを書いて提出する。

- (1) テキストの指定範囲と補足資料の読解・視聴【予習先行型授業】
 - (2) 予習確認クイズとフィードバック、質疑応答
 - (3) 課題文の作成・提出
 - (4) 提出した課題文のフィードバック：講師による修正案と読みくらべ、自分が書いた文章の問題点を見つける訓練
- ※各回の課題文の目的は「形式の習得」で、その内容は自由である。各自、最終レポートのテーマを早めに決め、そのテーマに沿った内容で少しずつ課題文を書いていくことを勧める。最後に全体をまとめて 1 本の論文とすればよいからである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	・オリエンテーション ・テーマを考える	・授業の目的と進め方の説明 ・レポートのテーマを考える【＝宿題】 ・授業形態についてのアンケート
第 2 回	・テキスト 1、2 課： 作文の基本 ・テーマ相談会	・レポートや論文における書きこ とばの基本を確認する。 ・テーマについて助言し合う。

第 3 回	・テキスト 11 課：引用 ※論文執筆のマナーとして、「引用」はとても重要なので、先に 11 課を学習する。	・引用のマナーを学ぶ ・文献リスト作成＝宿題 ・引用文を書く＝宿題
第 4 回	・テキスト 3 課：課題の提示 ・前回宿題のフィードバック	・課題の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 5 回	・テキスト 4 課：目的の提示 ・前回宿題のフィードバック	・目的の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 6 回	・テキスト 5 課：定義と分類 ・前回宿題のフィードバック	・定義と分類の文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 7 回	・テキスト 6 課：図表の提示 ・前回宿題のフィードバック	・必要な図表を探し（作成し）、提示する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 8 回	・テキスト 7 課：変化の形容 ・前回課題のフィードバック	・データを説明する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 9 回	・テキスト 8 課：対比と比較 ・前回課題のフィードバック	・対比／比較を含む文章を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 10 回	・テキスト 9 課：原因の考察 ・前回課題のフィードバック	・原因を考察する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 11 回	・テキスト 10 課：列挙 ・前回課題のフィードバック	・序論～本論の中で列挙を含む文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 12 回	・テキスト 12 課：同意と反論 ・前回課題のフィードバック	・先行研究を要約して引用し、それに対する意見を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 13 回	・テキスト 13-14 課：帰結、結論の提示 ・前回課題のフィードバック	・帰結あるいは結論を含む文章を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 14 回	・レポート提出前最終相談会 ・レポート提出 ・授業評価アンケート	・おおよその完成稿を持ち寄り、お互いに読み合い、助言し合う。 ・レポートの完成と提出 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）

※各回の予習確認クイズは、このテキストの内容から出題する。必ず手もとに用意し、事前に指定された個所を期日までに読んでおくこと。

【参考書】

必要があれば、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・予習確認クイズ＝ 20 %
- ・授業への参加貢献（Hoppii 掲示板への発言など）＝ 10 %
- ・各回の課題文＝ 50 %
- ・最終レポート＝ 20 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はすべてオンライン・オンデマンドで行った。同時双方向でのやりとりは一切なく、テーマについての相談会などはできなかったが、各回の課題については対面授業よりもむしろ十分なフィードバックができ、学生が自己の日本語についての問題点を意識化するのに役立ったようだった。今年度も対面授業ができるかどうかかわからないが、オンデマンドでの利点を最大限生かしたい。

【学生が準備すべき機器他】

課題の指示・提出・フィードバックに、学習支援システム Hoppii を利用する。

【その他の重要事項】

- ・春学期の日本語ⅠA・ⅡA修了と同程度の日本語力を有する学生を対象とする。
- ・日本語ⅠB（口頭発表と視覚資料作成）の同時受講が望ましい。書きことばと話しことばの違いを意識化するためである。
- ・2021 年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】

- ＜専門領域＞日本語、日本語教育
- ＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法、やさしい日本語
- ＜主要研究業績＞
 - ・『すばらしき日本語』（2020 年、ポプラ新書）
 - ・『日本語びいき』（2018 年、中公文庫）
 - ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009 年、研究社）

【Outline and objectives】

Advanced Japanese for academic writing.

OTR502C1 - 1

日本語ⅢA

大場 理恵子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文作成に活かす（対象：留学生）。

【到達目標】

- （1）論文で使用されている文型・表現・語彙を理解し、自分の修士論文執筆に活用できるようになる。
- （2）自分の修士論文の概要を他者が理解できるように、適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- 以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoom によるオンライン授業を行います。
- ①講義と演習によって他者の論文で使用されている日本語の文型・表現・語彙などを分析し、発表する。
 - ②各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
 - ③学科での修論発表ワークショップに備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論の構想を書く
第 2 回	論文の構成・引用の仕方	①専門論文の構成を分析・理解する ②専門分野の引用の仕方を理解する
第 3 回	論文表現の分析＜序論－研究対象と背景＞	①序論の研究対象と背景の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第 4 回	論文表現の分析＜序論－先行研究の提示＞	①前回の分析を発表する ②序論の先行研究の提示部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第 5 回	論文表現の分析＜序論－研究目的と研究行動の概略＞	①前回の分析を発表する ②序論の研究目的と研究行動の概略部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第 6 回	論文表現の分析＜本論－研究方法＞	①本論の研究目的と研究行動の概略部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第 7 回	論文表現の分析＜本論－考察＞	①前回の分析を発表する ②本論の考察部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第 8 回	ワークショップ用発表練習 1	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 9 回	ワークショップ用発表練習 2	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する

第10回	ワークショップ用発表練習 3	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第11回	ワークショップ用発表練習 4	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第12回	論文表現の分析<結論>	①結論部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第13回	論文表現の分析<結論>	①前回の分析を発表する ②文献リストの書き方を理解する
第14回	まとめ	前期の学習をふりかえり、夏休みの目標を決める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

- ①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
- ②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】

- ①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009 年、2700 円
- ②適宜プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20 %）授業内課題（30 %）宿題を含む平常点（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

修論作成につながる内容以外にも、日本語運用に関する授業（ビジネス場面におけるコミュニケーション等）を学生のニーズに応じて行います。また、修士 2 年生同士のコミュニケーションの機会になるような場を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出のために学習支援システムを利用します。また、Zoom 授業受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）と Wi-Fi 環境を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・今年度修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1 年生は受講できません）
- ・秋学期の日本語Ⅲ B を受講することによって各自の修論完成に繋がるため、連続して受講すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語教育・日本語表現教育
<研究テーマ>日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育
<主要研究業績>
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房、2005
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房、2012

【Outline and objectives】

You can acquire the Japanese language skills for master's thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master's thesis writing.

OTR502C1 - 2

日本語Ⅲ B

大場 理恵子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文を作成・修正する（対象：留学生）

【到達目標】

- (1) 論文で使用される文型・表現・語彙を適切に使用し、自分の修士論文を執筆する。
- (2) 自分の修士論文の概要を他者が理解できるように適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoom によるオンライン授業を行います。

- ①各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
- ③学科での修論発表ワークショップおよび修論審査に備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論執筆の進捗と今後の計画を確認する
第 2 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 3 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 4 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 5 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 6 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 7 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 8 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する

第 9 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 10 回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 11 回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 12 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 13 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 14 回	まとめ	学習を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】

- ①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009 年、2700 円
②適宜プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（50 %）宿題を含む平常点（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

修論作成につなげる内容以外にも、日本理解および日本語運用に関する授業内容を学生のニーズに応じて行います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出のために学習支援システムを利用します。また、Zoom 授業が可能なパソコン（カメラ・マイク含む）と Wi-Fi 環境を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・今年度修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1 年生は受講できません）
- ・春学期の日本語Ⅲ A を受講しておくことが必要。未受講の場合は初回に相談すること

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語教育・日本語表現教育

<研究テーマ>日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育

<主要研究業績>

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房、2005

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房、2012

【Outline and objectives】

You can acquire the Japanese proficiency required for master's thesis writing and oral presentation.

ECN522C1 - 3

応用マクロ経済学 D A

森田 裕史

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではベイズ推計を用いた時系列分析の手法、及び、経済分析への応用方法を学習する。

【到達目標】

ベイズ推計の方法、及び、各種時系列モデルの構造を理解し、実際の経済問題に対して応用できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

板書を用いた講義を行うとともに、適宜、Matlab を用いた実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	ベイズ推計 (1)	確率論の復習
第 2 回	ベイズ推計 (2)	事後分布の計算方法
第 3 回	線形回帰モデルのベイズ推計 (1)	事前共役であるケースの事後分布
第 4 回	線形回帰モデルのベイズ推計 (2)	事前共役でないケースの事後分布
第 5 回	線形回帰モデルのベイズ推計 (3)	Matlab を用いた線形回帰モデルのベイズ推定
第 6 回	VAR モデル (1)	VAR モデルとは
第 7 回	VAR モデル (2)	構造 VAR モデル
第 8 回	VAR モデル (3)	Matlab を用いた VAR モデルのベイズ推定
第 9 回	状態空間モデル (1)	カルマンフィルタとカルマンスムーザー
第 10 回	状態空間モデル (2)	Matlab を用いた状態空間モデルのベイズ推定
第 11 回	マルコフ転換モデル (1)	マルコフ転換モデルの構造
第 12 回	マルコフ転換モデル (2)	Matlab を用いたマルコフ転換モデルのベイズ推定
第 13 回	平滑推移モデル (1)	平滑推移モデルの構造
第 14 回	平滑推移モデル (2)	Matlab を用いた平滑推移モデルのベイズ推定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

Kim, C-J, Nelson, C.R. (1999). State-Space Models with Regime Switching. The MIT Press.

【成績評価の方法と基準】

授業で取り上げた手法を用いて自ら分析を行った結果をまとめたタームペーパーに基づいて成績を評価する。(100 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Matlab を PC にインストールしておいて下さい。

【その他の重要事項】

この授業では、ベイズ推計を用いた実証分析の手法を講義します。ベイズ推計についての事前知識は不要ですが、統計学や計量経済学の知識を理解した上で授業を履修して下さい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞マクロ経済学・時系列分析

＜研究テーマ＞日本の金融財政政策の効果に関する分析

＜主要研究業績＞Morita, H., "The Effects of Anticipated Fiscal Policy Shock on Macroeconomic Dynamics in Japan," The Japanese Economic Review Vol.68 No.3 September, pp.364-393, 2017.

【Outline and objectives】

In this course, the students learn the method and applications of time series analysis using Bayesian estimation.

ECN522C1 - 4

応用マクロ経済学D B

宮崎 憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では DSGE モデルの様々なモデル、特に THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) モデルについて学び、自身でモデルを作成できるようになる。

【到達目標】

最近の DSGE モデルの先行研究を理論的に理解し、その数値計算法を習熟することができ、モデルの改善を模索できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テーマごとに学術論文を輪読する。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	On DSGE	Christiano, L. J., Eichenbaum, M. S., & Trabandt, M. (2018). On DSGE Models. Journal of Economic Perspectives, 32(3), 113 - 140.
第 2 回	RANK with capital utilization	Greenwood, J., Hercowitz, Z., & Huffman, G. W. (1988). Investment, Capacity Utilization, and the Real Business Cycle. The American Economic Review, 78(3), 402 - 417.
第 3 回	RANK with sticky wage	Yun, T. (1996). Nominal price rigidity, money supply endogeneity, and business cycles. Journal of Monetary Economics, 37(2), 345 - 370.
第 4 回	Medium Scaled RANK 1	Christiano, L. J., Eichenbaum, M., & Evans, C. L. (2005). Nominal Rigidities and the Dynamic Effects of a Shock to Monetary Policy. Journal of Political Economy, 113(1), 1 - 45
第 5 回	Medium Scaled RANK 2	Smets, F., & Wouters, R. (2007). Shocks and Frictions in US Business Cycles: A Bayesian DSGE Approach. American Economic Review, 97(3), 586 - 606.
第 6 回	RANK with Bank sector	Gertler, M., & Karadi, P. (2011). A model of unconventional monetary policy. Journal of Monetary Economics, 58(1), 17 - 34.

第 7 回	TANK & Monetary Policy	Galí, J., López-Salido, J. D., & Vallés, J. (2004). Rule-of-Thumb Consumers and the Design of Interest Rate Rules. <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 36(4), 739 – 763.	【Outline and objectives】 This lecture studies several DSGE models including THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) models.
第 8 回	TANK & Fiscal Policy	Galí, J., López - Salido, J. D., & Vallés, J. (2007). Understanding the Effects of Government Spending on Consumption. <i>Journal of the European Economic Association</i> , 5(1), 227 – 270.	
第 9 回	TANK with Sticky Wages	Colciago, A. (2011). Rule-of-Thumb Consumers Meet Sticky Wages. <i>Journal of Money, Credit and Banking</i> , 43(2/3), 325 – 353.	
第 10 回	TANK with Limited Asset Market Partitions	Bilbiie, F. O. (2008). Limited asset markets participation, monetary policy and (inverted) aggregate demand logic. <i>Journal of Economic Theory</i> , 140(1), 162 – 196.	
第 11 回	THANK & Monetary Policy	Bilbiie, F. O. (2019). Monetary Policy and Heterogeneity: An Analytical Framework, forthcoming	
第 12 回	THANK & Fiscal Policy	Bilbiie, F. O. (2018). The New Keynesian Cross, <i>Journal of Monetary Economics</i> , forthcoming	
第 13 回	THANK with Capital	Bilbiie, F. O. (2020). Capital and Income Inequality: An Aggregate-Demand Complementarity, mimeograph	
第 14 回	GHH-CARA Utility	Bilbiie, F. O. (2020). A GHH-CRRA Utility for Macro: Complementarity, Income, and Substitution, mimeograph	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定した論文を読んでおく。本授業の予習・復習時間は、あわせて各回 5 時間とする。

【テキスト（教科書）】

授業内に指定する

【参考書】

授業内に指定する

【成績評価の方法と基準】

課題報告 (70%), 平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

経済政策・日本経済

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

応用ミクロ経済学D A

平井 俊行

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマーケットデザインの基礎理論について学びます。特に、オークションとマッチングの理論を中心に扱います。

【到達目標】

オークションとマッチングの理論についての基礎理論を習得し、独力で専門論文を読めるようになること・研究テーマを見つけられるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中盤までは以下に指定するテキストの基礎理論寄りの章を基に担当者が講義します。中間試験を経て、終盤に残りの応用寄りの章から履修者自身がトピックを選択し、プレゼンテーションをしてもらいます。履修者が希望する場合はテキストではなく、テキストに参考文献として掲載されている専門論文を発表しても構いません。（あまりに短いものは除く）プレゼンテーションの枠確保のため、履修者数によっては内容を変更することがあります。また、他の履修者のプレゼンテーションに対する講評もおこなってもらいます。これらの講評は報告者にフィードバックされます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・イントロダクション	講義の説明とテキスト第1章
第2回	基本的なオークション (1)	テキスト第2章 1-3 節
第3回	基本的なオークション (2)	テキスト第2章 4-5 節
第4回	基本的なオークション (3)	テキスト第2章 6-7 節
第5回	VCG オークション	テキスト第4章
第6回	基本的なマッチングモデル (1)	テキスト第9章 1-3 節
第7回	基本的なマッチングモデル (2)	テキスト第9章 4-5 節
第8回	研修医マッチング	テキスト第10章 1-2 節
第9回	配分マッチング問題 (1)	テキスト第11章 1-2(前半) 節
第10回	配分マッチング問題 (2)	テキスト第11章 2(後半)-3 節
第11回	中間試験と第10回までのまとめ	中間試験と第10回までのまとめ
第12回	プレゼンテーション (1)	学生によるプレゼンテーション
第13回	プレゼンテーション (2)	学生によるプレゼンテーション
第14回	プレゼンテーション (3)	学生によるプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ギョーム・ハーリンジャー（著）、栗野盛光（訳）「マーケットデザイン-オークションとマッチングの理論・実践」（2020）中央経済社 4800 円＋税

【参考書】

特になし。テキストに引用されている論文を自発的に読んでください。

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40 %、プレゼンテーション 40 %、講義への参加（主に他の履修者のプレゼンへの講評）20 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と連絡を学習支援システム（Hoppii）を通じておこないます。

【その他の重要事項】

学部レベルのゲーム理論および経済数学の知識を前提とします。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ ゲーム理論・ミクロ経済学・公共経済学
 ＜研究テーマ＞ 公共財供給問題や情報財取引についての協力ゲーム理論分析・マッチング理論
 ＜主要研究業績＞ 以下のリンク先を参照してください。
<https://sites.google.com/site/toshiyukihiirai54/research>

【Outline and objectives】

This course studies the basic theory of market design. In particular, we mainly treat auction and matching.

応用ミクロ経済学D B

小林 克也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、応用ミクロ経済学の立場で公的部門に焦点を当てながら、基本的なモデルについて説明をします。みなさんが応用理論の論文を自分で読めるようになるために必要な考え方を学びます。その上で博士課程の方は自分の研究に考え方を生かすことが目標です。

【到達目標】

授業の中で取り上げる各分野で、基本的な理論モデルの考え方について、理解することが目標です。モデルの中で計算過程も経済上の意味を持ちますので、それも含めて理解するよう努めて下さい。博士課程の方は論文を書くなかで、モデルの考え方を反映させることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での講義形式で進めます。講義の区切りごとに、あわせて5回の宿題を出します。みなさんが提出したものに私がコメントを書いてお返ししますが、解答を次の授業の最初にみなさんに質問をしながら板書して答えを確認します。みなさんの質問は授業中かその後に私がお話しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	自然独占産業と公的規制 (1)	自然独占
第2回	自然独占産業と公的規制 (2)	ピークロード料金
第3回	自然独占産業と公的規制 (3)	ラムゼイ料金
第4回	公共選択 (1)	意思決定のルール
第5回	公共選択 (2)	直接民主制、中位投票者の定理、投票のパラドックス
第6回	公共選択 (3)	間接民主制、投票の棄権
第7回	公共選択 (4)	レントシーキングとコンテスト
第8回	公共選択 (5)	公約、選挙を通じた競争
第9回	公共選択 (6)	投票による規律付け投票による規律付けの限界
第10回	公共選択 (7)	ゲリマンダリング
第11回	公共選択 (8)	社会厚生関数の考え方
第12回	課税	ラムゼイルールの考え方
第13回	地方分権	住民移動と地方公共財
第14回	まとめと試験	まとめをした上で試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

微分の計算をして最適化問題を解くので、基本的な計算をあらかじめ理解をしておいて下さい。ミクロ経済学 A と B で扱う計算や経済学の概念を用いるので、これらの講義をあわせて履修して下さい。価格理論やゲーム理論の概念も授業で用います。これらの復習やこの授業の復習、宿題の解答に各回とも4時間程度の学習が標準です。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いませんが、以下の参考書の該当する部分を参照しながら講義します。

【参考書】

小西秀樹 (2009)『公共選択の経済分析』東京大学出版会
 井堀利宏 (1996)『公共経済の理論』有斐閣

を部分的に参照します。その他論文は授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

宿題として出す練習問題を 50%、最後に実施する期末試験を 50%として成績を付けます。採点の際、博士課程の方については、論文で用いられるような厳密性を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

初めて担当するので、アンケートを実施していません。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

詳細は私の [website](http://www.t.hosei.ac.jp/~katsuyak/) をご覧ください。

<http://www.t.hosei.ac.jp/~katsuyak/>

【Outline and objectives】

In this course, I explain basic models, focusing on public sectors from the standpoint of the applied microeconomics. You learn the skills to read papers of applied theory on your own.

ECN563C1 - 3

開発経済論 D A

池上 宗信

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済学の主要な実証分析手法と論文を学ぶ。
先行研究をサーベイするのではなく、特定の論文に焦点をあて、その論文の先行研究の不備、間、貢献、データ、手法を学ぶ。
実証分析手法として、クラスター頑健標準誤差、ランダム化比較試験、差の差の分析、不連続回帰、操作変数法を学ぶ。
これらの手法を用いて、人的資本、信用、市場、制度、紛争に関する問を研究した論文を学ぶ。

【到達目標】

各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。

各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の間、アイデアを探ることができるようになる。

各自の研究分野における先行研究を理解し、あらたな 1 実証研究論文のプロポーザルを執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業の予定である。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。

情報実習室と呼ばれる、各受講生に 1 台ずつデスクトップパソコンが用意された教室を用いる予定である。

授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。

演習問題、試験には統計計算ソフト R を用いた問題が含まれる。

オンライン授業となってしまった場合

- ・ 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解くか、課題を提出する。
- ・ 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取る。
- ・ 受講生は課題の解答例をフィードバックとして受け取る。
- ・ 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用する。
- ・ 中間試験および期末試験を、リモート試験とし、学習支援システム上の課題として試験の解答を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	教育	学力追跡と成績、Duflo, Dupas, and Kremer (2011), ランダム化比較試験、クラスター、不均一分散
第 2 回	信用	アドバース・セレクション、モラル・ハザード, Karlan and Zinman (2009), 2 段階ランダム化
第 3 回	差の差の分析	並行トレンドの仮定
第 4 回	人的資本	所得と男子女子比率、Qian (2008), 差の差の分析

第 5 回	健康	マラリアと所得, Bleakley (2010), 差の差の分析
第 6 回	市場	携帯電話と魚市場、Jensen (2007), 差の差の分析
第 7 回	まとめと復習、中間試験	第 1 回から第 7 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	不連続回帰	連続性条件、局所回帰
第 9 回	制度 1	投票と貧困対策、Fujiwara (2015), 不連続回帰
第 10 回	制度 2	地方分権と貧困削減、Litschig and Morrison (2013), 不連続回帰
第 11 回	操作変数法	内生変数、外生変数、操作変数
第 12 回	制度 3	植民地と経済成長、Acemoglu, Johnson, and Robinson (2001), 操作変数法
第 13 回	紛争	食料援助と紛争、Nunn and Qian (2014), 操作変数法
第 14 回	まとめと復習、期末試験	第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている文章をリーディング・アサシメントとし、各講義の前に予習として読む。
オンライン授業となってしまう場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを受けるか、課題を提出する。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

- 高野久紀 (2014,2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号
- Acemoglu, Daron, Simon Johnson, and James A. Robinson. (2001). "The colonial origins of comparative development: An empirical investigation." *American Economic Review* 91(5).
- Bleakley, Hoyt. (2010). "Malaria in the Americas: A retrospective analysis of childhood exposure." *American Economic Journal: Applied Economics* 2:1 - 45.
- Duflo, Esther, Pascaline Dupas, and Michael Kremer. (2011). "Peer effects, teacher incentives, and the impact of tracking: Evidence from a randomized evaluation in Kenya." *American Economic Review* 101(5): 1739 - 1774.
- Fujiwara, Thomas. (2015). "Voting Technology, Political Responsiveness, and Infant Health: Evidence From Brazil." *Econometrica* 83(2): 423 - 464.
- Jensen, Robert. (2007). "The Digital Divide." *Quarterly Journal of Economics* 122(3): 879 - 924.
- Karlan, Dean, and Jonathan Zinman. (2009). "Observing Unobservables: Identifying Information Asymmetries With a Consumer Credit Field Experiment." *Econometrica* 77(6): 1993 - 2008.
- Litschig, Stepan, and Kevin M. Morrison. (2013). "The impact of intergovernmental transfers on education outcomes and poverty reduction." *American Economic Journal: Applied Economics* 5(4): 206 - 240.
- Nunn, Nathan, and Nancy Qian. (2014). "US Food Aid and Civil Conflict." *American Economic Review* 104(6): 1630 - 66.
- Qian, Nancy. (2008). "Missing women and the price of tea in China: The effect of sex-specific earnings on sex imbalance." *Quarterly Journal of Economics* 123(3): 1251 - 1285.

【成績評価の方法と基準】

中間試験 30%、期末試験 30%、期末レポート 20%、平常点 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は 2020 年度は開講されなかった。

R を用いた演習は、2019 年度の講義にはなかった、今回からの新しい試みである。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

開発ミクロ経済学

<研究テーマ>

家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険

<主要研究業績>

① "Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?" *Journal of Risk and Insurance*. Forthcoming.

② "Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia." *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.

③ "Poverty Traps and the Social Protection Paradox" in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline and objectives】

We will study major empirical methods and papers in Development Economics.

As the major empirical methods, we will study cluster robust standard errors, randomized control trial, difference in difference, regression discontinuity design, and instrument variable method.

We will study papers using these empirical methods and analyzing questions related to human capital, credit, market, institution, and conflict.

ECN542C1 - 3

金融ファイナンス論D A

胥 鵬

サブタイトル：（2021 年度以降入学者）

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスク資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンを説明する。博士後期課程学生は、英文文献を中心に学習しながら、国内外の最新の論文に接して、自分の研究への応用を考える。

【到達目標】

この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステムチック・リスクの意味について考え、分散投資の考え方を理解してもらうことをめざす。さらに、日々の株価を用いて様々な経済研究が可能だと理解してもらう。博士後期課程学生は、株式収益率などのデータを用いて研究エッセイを作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し、研究論文作成へのステップアップを目指す。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつき
4	二株を追う者は何を得る？	2 銘柄の分散投資の収益率
5	リスクとリターンのトレードオフ	複数銘柄の分散投資
6	C A P M	資本市場線、証券市場線とベータ
7	ハイリスク・ハイリターン	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4～5時間を標準とします。予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。博士後期課程学生はユニークな研究エッセイが必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
<研究テーマ> M B O、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

Finance theory begins and ends with risk. However, what is the definition of risk? The starting point for defining risk is the standard deviation, which represents the variability of the rate of return, and the lecture focuses on the correlation between the rates of return on two stocks and diversified investment. Then, the efficient portfolio frontier is derived from risky assets. Furthermore, risk-free asset will be explained in an easy-to-understand manner, and the definition of risk in equilibrium and the relationship between risk and return will be explained using the concept of the capital market line and the security market line including risk-free asset.

金融ファイナンス論D B

胥 鵬

サブタイトル：（2021 年度以降入学者）

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス基礎 D B では、配当、値上がり益、株式分割併合などと株価の調整後終値について解説し、株式投資収益率データを用いて個別銘柄のリスクを計測する分析を中心に講義する。その上で、株価の値動きが偶然による結果かどうかについて判断する分析方法を解説する。経営業績はもちろん、財務政策、投資戦略と吸収合併、金融政策と財政政策などが株価に影響を及ぼす。つまり、日々変動する株価が経済理論を検証するデータの宝庫になる。株価を動かす情報に関連する経済理論を検証するさまざまな応用について解説する。さらに、株式の派生証券のオプション理論について学ぶ。博士後期課程学生は、英文文献を中心に学習しながら、国内外の最新の論文に接して、自分の研究への応用を考える。

【到達目標】

金融ファイナンス基礎 B では、A の中で習った理論を下敷きにして、事後の株価データに基づいて、株式のリスクの計測分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある増減収・増減益などの企業業績変動、金融政策と財政政策の意味について考え、情報と株価との関連から経済理論を検証する方法を理解してもらうことをめざす。

博士後期課程学生は、株式収益率などのデータを用いて研究エッセイを作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQ などの学内データベースの活用方法を紹介し、修士論文作成へのステップアップを目指す。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	リスクの計測	CAPM とマーケット・モデルのアルファ、ベータとシグマ
第 2 回	異常収益率	マーケット・モデル、異常収益率の分布と検定
第 3 回	イベントスタディー	業績変動、増資などの株価に対する効果を分析する方法について学ぶ
第 4 回	経済政策と株価	クラスターが伴うイベントスタディーについて学ぶ
第 5 回	株価と経済分析	金融ファイナンスだけではなく、株価が経済政策実証分析データの宝庫
第 6 回	オプション理論	簡単な二項モデルでオプション理論を学ぶ

第 7 回 多期間オプション理論 簡単な二項モデルから、ブラックショールズモデルまで拡張する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4～5 時間を標準とします。予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【参考書】

随時専門誌論文を授業支援システムにアップロードする

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。博士後期課程学生はユニークな研究エッセイが必須。

【学生の意見等からの気づき】

早口だができるだけゆっくり話すように

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参。留学生は、Excel は必ず日本語バージョンを大学からダウンロードして使ってください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融・中国経済

<研究テーマ> 研究開発と企業銀行関係など

<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

In course B, the lecture will focus on the analysis of measuring the risk of individual stocks using return on equity data, explaining dividends, gains on stock price, stock splits and reverse stock splits, and adjusted closing prices of stocks. The lecture will then focus on the analysis to measure the risk of individual stocks using return on equity data. The lecture will then explain the analysis method to determine whether stock price movements are the result of chance or not. In addition to business performance, financial policies, investment strategies and mergers and acquisitions, monetary and fiscal policies, and other factors affect stock prices. In other words, stock prices, which fluctuate on a daily basis, become a treasure trove of data to test economic theories. I will explain various applications that test economic theories related to the information that drives stock prices. In addition, we will learn about the option theory of stock derivatives.

ECN542C1 - 3

金融システム論 D A

胥 鵬

サブタイトル：（2020 年度以前入学者）

備考（履修条件等）：（2020 年度以前入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスク資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。博士後期課程学生は、英文文献を中心に学習しながら、国内外の最新の論文に接して、自分の研究への応用を考える。

【到達目標】

この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステムチック・リスクの意味について考え、分散投資の考え方を理解してもらうことをめざす。さらに、日々の株価を用いて様々な経済研究が可能だと理解してもらう。博士後期課程学生は、株式収益率などのデータを用いて研究エッセイを作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し、研究論文作成へのステップアップを目指す。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつき
4	二株を追う者は何を得る？	2 銘柄の分散投資の収益率
5	リスクとリターンのトレードオフ	複数銘柄の分散投資
6	C A P M	資本市場線、証券市場線とベータ
7	ハイリスク・ハイリターン	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4～5 時間を標準とします。予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。博士後期課程学生はユニークな研究エッセイが必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞ M B O、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

＜主要研究業績＞

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

Finance theory begins and ends with risk. However, what is the definition of risk? The starting point for defining risk is the standard deviation, which represents the variability of the rate of return, and the lecture focuses on the correlation between the rates of return on two stocks and diversified investment. Then, the efficient portfolio frontier is derived from risky assets. Furthermore, risk-free asset will be explained in an easy-to-understand manner, and the definition of risk in equilibrium and the relationship between risk and return will be explained using the concept of the capital market line and the security market line including risk-free asset.

金融システム論 D B

胥 鵬

サブタイトル：（2020 年度以前入学者）

備考（履修条件等）：（2020 年度以前入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス基礎 D Bでは、配当、値上がり益、株式分割併合などと株価の調整後終値について解説し、株式投資収益率データを用いて個別銘柄のリスクを計測する分析を中心に講義する。その上で、株価の値動きが偶然による結果かどうかについて判断する分析方法を解説する。経営業績はもちろん、財務政策、投資戦略と吸収合併、金融政策と財政政策などが株価に影響を及ぼす。つまり、日々変動する株価が経済理論を検証するデータの宝庫になる。株価を動かす情報に関連する経済理論を検証するさまざまな応用について解説する。さらに、株式の派生証券のオプション理論について学ぶ。博士後期課程学生は、英文文献を中心に学習しながら、国内外の最新の論文に接して、自分の研究への応用を考える。

【到達目標】

金融ファイナンス基礎 Bでは、Aの中で習った理論を下敷きにして、事後の株価データに基づいて、株式のリスクの計測分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある増減収・増減益などの企業業績変動、金融政策と財政政策の意味について考え、情報と株価との関連から経済理論を検証する方法を理解してもらうことをめざす。

博士後期課程学生は、株式収益率などのデータを用いて研究エッセイを作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し、修士論文作成へのステップアップを目指す。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	リスクの計測	CAPMとマーケット・モデルのアルファ、ベータとシグマ
第 2 回	異常収益率	マーケット・モデル、異常収益率の分布と検定
第 3 回	イベントスタディー	業績変動、増資などの株価に対する効果を分析する方法について学ぶ
第 4 回	経済政策と株価	クラスターが伴うイベントスタディーについて学ぶ
第 5 回	株価と経済分析	金融ファイナンスだけではなく、株価が経済政策実証分析データの宝庫
第 6 回	オプション理論	簡単な二項モデルでオプション理論を学ぶ

第 7 回 多期間オプション理論 簡単な二項モデルから、ブラックショールズモデルまで拡張する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4～5 時間を標準とします。予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【参考書】

随時専門誌論文を授業支援システムにアップロードする

【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。博士後期課程学生はユニークな研究エッセイが必須。

【学生の意見等からの気づき】

早口だができるだけゆっくり話すように

【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参。留学生は、Excel は必ず日本語バージョンを大学からダウンロードして使ってください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融・中国経済

<研究テーマ> 研究開発と企業銀行関係など

<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline and objectives】

In course B, the lecture will focus on the analysis of measuring the risk of individual stocks using return on equity data, explaining dividends, gains on stock price, stock splits and reverse stock splits, and adjusted closing prices of stocks. The lecture will then focus on the analysis to measure the risk of individual stocks using return on equity data. The lecture will then explain the analysis method to determine whether stock price movements are the result of chance or not. In addition to business performance, financial policies, investment strategies and mergers and acquisitions, monetary and fiscal policies, and other factors affect stock prices. In other words, stock prices, which fluctuate on a daily basis, become a treasure trove of data to test economic theories. I will explain various applications that test economic theories related to the information that drives stock prices. In addition, we will learn about the option theory of stock derivatives.

財政学D A

小黑 一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】

財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

（１）前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

（２）後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

（３）参加者に、参考文献の報告を求める。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、基本的に授業は Zoom 等の遠隔システムを利用して行う予定である。リンクは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	財政規律と予算制度 (1)	ガイダンス
2	財政規律と予算制度 (2)	OECD 諸国の財政動向
3	財政規律と予算制度 (3)	財政赤字と予算制度①（財政赤字の政治経済学、予算・予算制度・予算マネジメント）
4	財政規律と予算制度 (4)	財政赤字と予算制度②（予算制度の分析）
5	財政規律と予算制度 (5)	日本の予算制度の問題①（財政悪化と財政再建の過程）
6	財政規律と予算制度 (6)	日本の予算制度の問題②（財政ルール、中期財政フレーム）
7	財政規律と予算制度 (7)	日本の予算制度の問題③（意思決定システム）
8	財政規律と予算制度 (8)	日本の予算制度の問題④（中央省庁等改革と予算編成過程）
9	財政規律と予算制度 (9)	OECD 主要国の予算制度改革①（アメリカ、イギリス、ニュージーランド）
10	財政規律と予算制度 (10)	OECD 主要国の予算制度改革②（オーストラリア、カナダ）
11	財政規律と予算制度 (11)	OECD 主要国の予算制度改革③（フランス、ドイツ、イタリア）
12	財政規律と予算制度 (12)	OECD 主要国の予算制度改革④（スウェーデン、オランダ）
13	財政規律と予算制度 (13)	予算制度の国際比較①（政治的コミットメント、財政ルール）

- 14 財政規律と予算制度 予算制度の国際比較②（中期財政フレーム、意思決定システム、予算・財政の透明性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社、2011

【参考書】

- ① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
- ② Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
- ③ Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
- ④ Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ⑤ Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
- ⑥ 井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社、1998
- ⑦ 井堀利宏『課税の理論』有斐閣、2003
- ⑧ 山重慎二・加藤久和・小黑一正編『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告（70 %）＋レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

- ① Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
- ② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
- ③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
- ④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of relationship between Japanese fiscal system and demographic change.

This will also help you to understand the future direction of Japanese fiscal reform at a much deeper level.

財政学D B

小黒 一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】

財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

（１）前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

（２）後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

（３）参加者に、参考文献の報告を求める。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、基本的に授業は Zoom 等の遠隔システムを利用して行う予定である。リンクは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	財政と政治（１）	ガイダンス
2	財政と政治（２）	選好と制度
3	財政と政治（３）	選挙競争
4	財政と政治（４）	利益団体
5	財政と政治（５）	選挙ルールと選挙競争
6	財政と政治（６）	制度と説明責任、政治レジーム
7	財政と政治（７）	動学的政治問題
8	財政と政治（８）	資本課税との関係
9	財政と政治（９）	公的債務との関係
10	財政と政治（10）	成長との関係
11	財政と政治（11）	金融政策の信認
12	財政と政治（12）	選挙サイクル
13	財政と政治（13）	制度とインセンティブ
14	財政と政治（14）	国際政治の調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002

【参考書】

- ① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
- ② Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
- ③ Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
- ④ Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ⑤ Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
- ⑥ 井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社, 1998
- ⑦ 井堀利宏『課税の理論』有斐閣, 2003

⑧ 山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社, 2013

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告（70 %）＋レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

① Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015

② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013

③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013

④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of relationship between Japanese fiscal system and politics.

This will also help you to understand the future direction of Japanese fiscal reform at a much deeper level.

ECN523C1 - 3

統計学 D A

阿部 俊弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として多変量解析の基本的手法に焦点を当て、データの例と分析手法を考えていきます。回帰モデルや統計的分布のパラメータ推定法をいくつかを調べ、最尤法を用います。また、統計学はデータを意識した学問であることから、統計的ソフトウェア R を用いてデータ分析手法も身に付け、実践力を付けていきます。

【到達目標】

回帰分析の概念を理解し、最尤法によるパラメータ推定を理解する。また、多変量解析の手法や実データに対してどの統計手法を用いれば良いか理解する。博士後期課程の研究にも対応できるよう、統計的ソフトウェアを使った実データ分析により、問題解決を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、R を用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要と準備	統計ソフト R について
第 2 回	単回帰分析の導入	最小二乗法による回帰係数の推定
第 3 回	単回帰モデルの評価	区間推定と検定による検証
第 4 回	最尤法の理論	最尤法によるパラメータ推定
第 5 回	最尤法の応用	回帰モデルへの最尤法の適用
第 6 回	重回帰モデルの理論	重回帰モデルと回帰係数の推定
第 7 回	重回帰モデルの変数選択	AIC を用いたモデル選択
第 8 回	重回帰モデルの評価	区間推定と検定による検証
第 9 回	統計的分類手法としての判別分析	判別分析の理論
第 10 回	判別分析を用いた評価	予測と誤判別率
第 11 回	データ分類の実例	データを用いた分類
第 12 回	ロジスティック回帰モデルの理論	データの例とモデルの導入
第 13 回	ロジスティック回帰分析の実例	データを用いた分析と手法の比較
第 14 回	データの分類手法	統計的手法とその他の分類手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 賢一（著）・下平 英寿（編集）(2020)『R で学ぶ統計的データ解析（データサイエンス入門シリーズ）』
配布資料も用いながら講義を行う。

【参考書】

宮田庸一（著）(2012)『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

【成績評価の方法と基準】

通常の課題レポート (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・統計ソフトウェアの R を使用します。
- ・レポート提出のために、Microsoft Word か TeX を使用します。
- ・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞統計科学

＜研究テーマ＞方向統計学・EM アルゴリズム

＜主要研究業績＞

[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. Statistical Papers, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.

[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.

[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". International Statistical Review, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.

[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.

[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution. To appear.

【Outline and objectives】

In this course, we mainly focus on basic methods of multivariate analysis and consider the theory and its illustrative examples. We also investigate parameter estimation for probability distributions, and apply the method of maximum likelihood as statistical inference. In addition, we will use a popular statistical software R to investigate a behavior of the statistical model.

統計学D B

阿部 俊弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では前半は様々な多変量解析の手法を調査し、その手法の理論と実践を身に付けていきます。また、様々なところで耳にすることも多い「シミュレーション」は様々な状況で使われています。ここでは、疑似乱数を用いて解析的に解くことは難しいような問題に対して「真の解はどこにありそうなのか？」という解決法について取り組んでいきます。

【到達目標】

様々な多変量解析の概念を調査し、高度な手法を身に付けていく。また、統計的分布の疑似乱数の生成を行い、乱数を用いた予測を行う。博士後期課程の研究にも対応できるよう、乱数を用いたシミュレーションの実装をした問題解決を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、Rを用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要と準備	様々な多変量解析の手法の概観
第2回	主成分分析の理論	データの例と主成分分析の理論
第3回	主成分分析の適用	主成分分析の解釈
第4回	主成分分析の注意点	データの標準化
第5回	クラスター分析の理論	データの例とクラスター分析の理論
第6回	クラスター分析の応用	実データの群分けと解釈
第7回	クラスター分析に関する話題	クラスター分析の注意点
第8回	正準相関分析の理論	データの例と正準相関分析の理論
第9回	正準相関分析の応用	データへの理論の適用
第10回	ブートストラップ法の基本	リサンプリングとブートストラップ標本
第11回	ブートストラップ法の応用	ブートストラップ法の適用
第12回	疑似乱数	疑似乱数を使うことの利点
第13回	様々な統計的分布と疑似乱数	統計的分布とそれに対応する疑似乱数
第14回	疑似乱数による理論の検証	様々な統計理論のシミュレーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 賢一（著）・下平 英寿（編集）(2020)『R で学ぶ統計的データ解析（データサイエンス入門シリーズ）』

【参考書】

宮田庸一（著）(2012)『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション
永田靖・棟近雅彦（共著）(2001)『多変量解析法入門』、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

通常の課題レポート (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・統計ソフトウェアの R を使用します。
- ・レポート提出のために、Microsoft Word または TeX を使用します。
- ・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞統計科学

＜研究テーマ＞方向統計学・EM アルゴリズム

＜主要研究業績＞

[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. Statistical Papers, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.

[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.

[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". International Statistical Review, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.

[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.

[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution. To appear.

【Outline and objectives】

In this course, we introduce various illustrative examples and theory in multivariate analysis. The term "simulation", which is often heard in our real life, is used in various situations. As examples of that, we will tackle to a problem which is difficult to solve analytically. As a result, we will consider a solution to the problem "Where is the true solution likely?" by using pseudo-random numbers.

ECN544C1 - 3

企業経済学D A

砂田 充

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別、カルテル、合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。また、関連する実証の先行研究についても受講者と議論する予定である。

【到達目標】

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力および実証の産業組織論の学術論文を読解する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を使った講義形式がメイン。学生による報告を求める場合もある。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。オンライン授業（リアルタイム配信型）を予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	産業組織論の基本概念	「産業」と「市場」/SCP分析/集中度
第3回	完全競争と経済厚生	厚生経済学の基本定理/完全競争均衡の最適性
第4回	独占市場	独占市場均衡と厚生/独占による厚生損失
第5回	寡占市場：数量競争①	推測的変動/製品差別化とクールノー競争
第6回	寡占市場：数量競争②	マーケットシェアの決定/市場構造と利益率/集中度と厚生
第7回	寡占市場：価格競争①	価格競争型寡占モデル/製品差別化とベルトラン競争
第8回	寡占市場：価格競争②	供給制約と価格競争/エッジワースの批判
第9回	寡占市場：価格競争③	生産能力決定と価格競争/ベルトラン・パラドクス
第10回	寡占市場：価格競争④	参入阻止戦略
第11回	製品差別化①	垂直的差別化/水平的差別化/独占的競争
第12回	製品差別化②	Hotellingモデル/最小差別化定理
第13回	製品差別化③	最小差別化定理と最適価格/2段階モデルと最適解
第14回	コンテストブル・マーケット	コンテストブル・マーケット理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ミクロ経済学の基礎について復習を行うこと。また、基本的な数学（1次関数、2次関数、微分、積分、最適化、連立方程式等）について不安がある場合は、各自、事前に復習を行うこと。事前に配布される講義資料を使い十分な予習（2時間程度）を行ったうえで授業に臨み、講義後は復習（2時間程度）を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣、2001年）。丸山雅祥『経営の経済学 [新版]』（有斐閣、2011年）。

Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010.

Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.

Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ. Press, 2004.

Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press, 1996.

Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988.

【成績評価の方法と基準】

平常点（70～95%）、期末試験（5～30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

履修者の理解度を踏まえて内容を変更する場合があります。

【担当教員の専門分野等】

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学

【Outline and objectives】

This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics. The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on the topics as follows: monopoly, oligopoly with or without capacity constraint, market structure and market power, vertical and horizontal product differentiation, and so on. Students are expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics.

環境経済論 D A

松波 淳也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最先端の環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、大学院博士課程レベルの最先端の環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

環境経済論 D B

松波 淳也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最先端の廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的發展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、大学院博士課程レベルの最先端の環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義、経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学的主要アプローチ、廃棄物経済学の整備に向けて、最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生、廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等、個別リサイクル法、3 R の優先順位、2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化、埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金、特定製品への税・課徴金、デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開、短期的政策、中長期的政策の位置づけ、地域特性に即したきめ細かい政策、環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済、経済成長と動脈部門・静脈部門、静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想、逆工場の考え方、「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件、動脈と静脈の相互関係、規制と公共関与、企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP、汚染者負担原則、ピグー税と負担の帰着
第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPR の物理的責任と金銭的責任

第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済、不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論、容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法、PC リサイクル・システム、携帯電話リサイクル・システム、小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 DA を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

環境経済学

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

経済政策 D B

濱秋 純哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、変数間の「因果関係」を特定するための統計的手法への社会的な関心が高まっている。たとえば、政府は 2017 年度の「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」や内閣府「経済財政白書」で「証拠に基づく政策立案（Evidence Based Policy Making; EBPM）」に言及し、GDP 等の公的統計の整備とともに、就労支援施策や教育政策（少人数学級等）等の政策の因果効果を実証分析で明らかにする試みを始めた。経済学の分野では、以前から因果関係の特定に大きな注意が払われていたが、種々の個票データの利用可能性の高まりとともに、より精緻な分析を行うことが可能になった。このような流れを受け、この授業では経済政策を評価するための因果推論の手法について学ぶ。

【到達目標】

受講者が、政策評価のための統計的手法を用いてデータ分析できるようになることを目的とする。評価の対象となる経済政策として、主に社会保障政策を念頭に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom を通じリアルタイム配信型のオンライン授業で政策評価のための統計的手法を説明する。各受講者には、授業と平行して政策評価のための統計的手法を用いた研究計画を作成してもらう。受講者が少数であれば、授業内で研究計画の妥当性について議論することを通じてフィードバックを行う（研究計画の報告会の開催などを予定）。受講者が多ければ、研究計画に対して「学習支援システム」を通じてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要の説明
第 2 回	研究テーマの見つけ方	研究テーマをどのように見つけるか？
第 3 回	RCT と自然実験	RCT と自然実験の具体例
第 4 回	因果関係の推定 (1)	平均処置効果
第 5 回	因果関係の推定 (2)	操作変数法と局所的平均処置効果
第 6 回	差の差分分析 (DID) (1)	政策の効果を受ける群と受けない群の変化の差を比較する手法
第 7 回	差の差分分析 (DID) (2)	DID 推定のための諸条件
第 8 回	差の差分分析 (DID) (3)	差の差の差分分析 (Triple-Difference)
第 9 回	イベントスタディ分析	DID とイベントスタディ分析の違いとは？
第 10 回	合成コントロール法 (SCM)	DID と SCM の違いとは？
第 11 回	回帰不連続デザイン (RDD) (1)	同質的な対象者に生じた不連続な政策の変化を利用する手法
第 12 回	回帰不連続デザイン (RDD) (2)	RDD のための諸条件
第 13 回	回帰不連続デザイン (RDD) (3)	Sharp RDD と Fuzzy RDD
第 14 回	研究計画の最終報告会	受講者による研究計画の報告とその検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、統計学・計量経済学の基礎的な知識を持っていることが望まれる。具体的には、計量経済学 A/B の知識を前提とする。また、社会保障制度の知識（2020 年度の経済政策 A の授業程度の知識）もあると授業の理解が深まる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストには依拠せず、教員が作成した授業資料に沿って講義を進める。

【参考書】

1. 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮, 2019 年, 『計量経済学』, 有斐閣。
2. 安井翔太 (著)・株式会社ホクソエム (監修), 2020 年, 『効果検証入門』, 技術評論社。
3. Angrist, Joshua D. and Pischke Jörn-Steffen. 2009. "Mostly Harmless Econometrics: An Empiricist's Companion," Princeton University Press.

【成績評価の方法と基準】

研究計画の作成・報告 (70%) と政策評価の手法を用いた最新の海外学術論文の内容報告 (30%) によって評価する (博士課程の院生が受講した場合、授業計画を変更して論文の内容報告の時間を設ける)。研究計画の作成には、先行研究の整理、分析対象となる政策の理解、検証する仮説の設定、分析に用いる統計的手法とデータの選択、予想される困難への対処の検討などの作業が必要となり、これらをいかに緻密に行えたかが評価基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規開講科目につき過去にアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

授業内でデータ演習を行う可能性があり、その場合には STATA や R などの統計ソフトをインストールしたパソコンが必要となる。

【その他の重要事項】

受講者として想定しているのは、これから政策評価の手法を用いて修士論文や博士論文を執筆する修士 2 年生以上の院生である。実証経済学基礎 A でも因果推論の手法が扱われるが、経済政策 B ではより実践的な内容を扱う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共経済学・応用計量経済学

<研究テーマ>

家計行動のミクロ計量分析

<主要研究業績>

(1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, "The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households," Journal of Population Economics, Vol. 32, No. 1, pp. 309 - 346.

(2) 上野綾子・濱秋純哉, 2017 年, 「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金、労働時間、離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 - 57 頁。

(3) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, "Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data," Asian Economic Journal, Vol.28(1), pp.41-62.

(4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, "How does the first job matter for an individual's career life in Japan," Journal of the Japanese and International Economies, Vol.29, pp.154-169.

(5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2012, "Changes in the Japanese employment system in the two lost decades," Industrial and Labor Relations Review, Vol. 65, No. 4, pp.810-846.

【Outline and objectives】

In recent years, there has been a growing interest in statistical methods to identify causal relationships among variables. For example, both the Basic Policy on Economic and Fiscal Management and Reform 2017 and the Cabinet Office's Annual Report on the Japanese Economy and Public Finance mention "evidence-based policy-making" (EBPM), and along with the compilation of official statistics such as GDP statistics, the government has started to empirically examine the causal effects of policies such as employment support measures and education policies (such as the introduction of smaller classes in schools).

Meanwhile, in the field of economics, researchers have been focusing on the identification of causal relationships for quite some time, but with the increasing availability of various types of microdata, more detailed analyses have become possible. Against this background, this course seeks to provide an understanding of what causal relationships are and introduces statistical methods for making causal inferences.

ECN564C1 - 3

経済地理学 D A

近藤 章夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、研究の到達点や今後の課題について議論する。

【到達目標】

経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文を読解できるようになることと、研究領域のフロンティアを拡張していく能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第 2 回	経済学と地理・空間 (1)	主要論文の輪読
第 3 回	経済学と地理・空間 (2)	主要論文の輪読
第 4 回	経済学と地理・空間 (3)	主要論文の輪読
第 5 回	都市と集積 (1)	主要論文の輪読
第 6 回	都市と集積 (2)	主要論文の輪読
第 7 回	都市と集積 (3)	主要論文の輪読
第 8 回	イノベーションとネットワーク (1)	主要論文の輪読
第 9 回	イノベーションとネットワーク (2)	主要論文の輪読
第 10 回	イノベーションとネットワーク (3)	主要論文の輪読
第 11 回	空間経済の理論と実証 (1)	主要論文の輪読
第 12 回	空間経済の理論と実証 (2)	主要論文の輪読
第 13 回	空間経済の理論と実証 (3)	主要論文の輪読
第 14 回	経済地理学のフロンティアとまとめ	主要論文の輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Brakman, S., et al. (2019) 『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World (3rd edition)』Cambridge University Press

Clark, G. L., et al. (2018) 『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press

Combes, P. P., et al. (2008) 『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press
Cooke, P. et al. (2013) 『Handbook of Regional Innovation and Growth』Edward Elgar Pub

松原宏 (2006) 『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会

佐藤泰裕ほか (2011) 『空間経済学』有斐閣

その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加が評価の中心となる。

平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

①共著 (2015) 『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著 (2012) 『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著 (2007) 『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline and objectives】

Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research and future challenges.

ECN574C1 - 3

労働経済学 D A

酒井 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く力を養うと同時に、労働経済学における高度な分析をおこなう下地とします。

【到達目標】

学生は、この講義を通して、基本的な労働供給・労働需要・市場均衡の理論を理解します。更に、人的資本理論や補償賃金格差といった理論についても学習し、働き方を巡る様々な現象について、何が解っており何が解っていないのかを把握したうえで、この分野の発展に貢献しようとする研究をおこなうための実証上の作業仮説を立てられるようになることを最終目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業形式でおこないます。

中間課題等については、基本的に、授業内で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	労働経済学とは
第 2 回	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
第 3 回	労働供給行動 (1)	静学的労働供給モデル
第 4 回	労働供給行動 (2)	静学的労働供給モデルの応用
第 5 回	労働需要行動 (1)	短期・長期の労働需要
第 6 回	労働需要行動 (2)	調整費用モデル等
第 7 回	市場均衡	競争均衡、買手独占
第 8 回	実証分析の方法 (1)	回帰分析
第 9 回	実証分析の方法 (2)	セレクション・バイアスの概念とその対処
第 10 回	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
第 11 回	人的資本投資 (1)	教育投資モデル、シグナリング・モデル
第 12 回	人的資本投資 (2)	一般的訓練と企業特殊的訓練
第 13 回	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
第 14 回	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義で使用した資料をよく復習することが求められます。また、授業内で示された文献にも、極力、目を通すことが望まれます。本講義の準備・復習に必要な時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

Borjas, G 『Labor Economics 8th Edition』(McGraw Hill Higher Education, 2019 年)

川口大司『労働経済学理論と実証をつなぐ』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

中間課題（50%）と期末レポート（50%）によって評価する予定です。いずれについても、研究者の養成という目標に沿って評価をおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

学生が関心のあるトピックを把握するように努めたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 労働経済学，社会保障論

＜研究テーマ＞ 就業と社会保険

＜主要研究業績＞

『日本のセーフティーネット格差労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）

"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"(共著) Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline and objectives】

In this course, we study labor economics with an emphasis on applied microeconomic theory and empirical analysis. We also study the statistics related to the labor economics, such as Labor Force Survey and so on. Topics to be covered include: labor supply and demand, compensating wage differential, immigration, human capital investment, signaling model, and regression.

ECN574C1 - 4

労働経済学 D B

酒井 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論 A で学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説します。特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討します。（取り上げるトピックの例，「介護離職」，「長時間労働」，「待機児童」等）また，コロナ禍における労働市場のセーフティーネットについても議論します。

【到達目標】

学生が，働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に貢献しうる高度な実証研究をおこなえるようになることを最終目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は，対面授業形式でおこないます。

中間課題等については，基本的に，授業内で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
第 2 回	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
第 3 回	人事の経済学（2）	相対評価， 後払い賃金
第 4 回	労働市場における差別	差別の経済理論， 男女間賃金格差
第 5 回	失業（1）	日本の失業の概観
第 6 回	失業（2）	失業を説明する理論
第 7 回	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析， 労働災害の現状
第 8 回	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
第 9 回	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因， 仕事の二極化
第 10 回	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
第 11 回	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因， 介護離職問題
第 12 回	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
第 13 回	両立支援制度	女性の就業と保育サービス・育児休業
第 14 回	社会保険料事業主負担の帰着問題	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は，講義資料をよく復習する必要があります。また，指示された文献（学術論文等）についても目を通すことが望まれます。本講義の準備・復習に必要な学習時間は，4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティーネット格差労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）

Boeri, T., and J. van Ours (2021) The Economics of Imperfect Labor Markets 3rd Edition, Princeton Univ Pr

【成績評価の方法と基準】

中間課題（50%）と期末レポート（50%）によって評価する予定です。いずれについても、研究者の養成という目標に沿って評価をおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

論文等の執筆の役に立つように、実証分析で何が解っており、何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 労働経済学、社会保障論

＜研究テーマ＞ 就業と社会保険

＜主要研究業績＞

"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"(共著) Journal of Human Capital 13(2), pp. 260-292, 2019.

"Are Elderly Workers More Likely to Die in Occupational Accidents? Evidence from Both Industry-aggregated Data and Administrative Individual-level Data in Japan"(共著) Japan and The World Economy 48, pp. 79-89, 2018.

【Outline and objectives】

Based on conceptual frameworks studied in the Labor Economics A, we study the link between those frameworks and public policies in the real world. Topics to be covered include: unemployment insurance, personnel economics, parental leave, child care, informal care and so on.

ECN561C1 - 3

国際貿易論 D A

田村 晶子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

貿易の利益やその分配上の対立、貿易政策について、標準的な貿易理論学んだ上で、最先端の研究論文を読み、自分なりの考察をレポートにまとめる。

【到達目標】

比較優位理論の最先端の研究を理解し、貿易の利益がどのように生じるかを自らの理論で考察できる。また、貿易政策と貿易利益を分配する上での対立を理解し、その解決策を模索する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにはほぼ沿いながら、参考文献を適宜に用いて、パワーポイントで講義する。授業内容の理解を深めるため、中間レポート、期末レポートを、受講者全員が授業内で報告し、議論をおこなう。初回（4月8日）はオンライン授業を行います。初回授業で受講生の意向を確認した上で、2回目以降は対面授業を行う可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	貿易データベースの解説
2)	貿易の歴史と現状	貿易データによる現状把握
3)	技術と比較優位①	リカードモデル
4)	技術と比較優位②	多数財のモデル
5)	要素比率と比較優位①	ヘクシャー・オリーオンモデル
6)	要素比率と比較優位②	データによる検証
7)	中間レポート報告	中間レポートの報告と討論
8)	貿易政策のツール①	関税の費用と便益
9)	貿易政策のツール②	輸入割当の費用と便益
10)	地域貿易協定	地域貿易協定の経済効果
11)	貿易利益の分配①	貿易利益の事例
12)	貿易利益の分配②	分配上の対立
13)	貿易利益の分配③	敗者への補償
14)	期末レポート報告	期末レポートの報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Elhanan Helpman, Understanding Global Trade, Belknap Press, 2011 (翻訳本：ヘルプマン著『グローバル貿易の針路をよむ』本多/井尻/前野/羽田/訳, 文真堂, 2012)

Krugman, Obstfeld, and Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th edition, Global Edition, Pearson, 2014 (翻訳：クルグマン・オブスフェルド・メリッツ (山形浩生、守岡校訳)『クルグマン国際経済学 理論と政策 [原書第10版] 上:貿易編』丸善出版、2017)

【参考書】

清田耕造・神事直人著『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017年

【成績評価の方法と基準】

講義への積極的参加による平常点（20%）、中間レポートの報告（30%）、期末レポートの報告（50%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため、該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

【担当教員の専門分野等】

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html>

【Outline and objectives】

Students learn the standard trade theory and understand the trade pattern which makes gain from trade. Students also learn the cost and benefit of trade policy, and conflict concerning the distribution of the gain from the trade.

ECN561C1 - 4

国際貿易論 D B

田村 晶子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

規模の経済と産業内貿易に注目した新貿易理論、企業の異質性に着目した新・新貿易理論の最先端の論文を読み、貿易、直接投資、アウトソーシングの選択について、研究レポートを作成します。

【到達目標】

規模の経済に注目した新貿易理論の最先端の研究を理解し、産業内貿易を説明できる。企業の異質性に着目した、新・新貿易理論の最先端の研究を理解し、企業の貿易と直接投資（企業の海外進出）、アウトソーシングの選択を説明でき、独自の研究レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストには沿いながら、参考文献も適宜に用いて、パワーポイントで講義する。授業内容の理解を深めるために、中間レポートと期末レポートを、受講者全員が授業内で報告し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1)	新貿易理論①	規模の経済と貿易
2)	新貿易理論②	独占的競争と貿易
3)	輸出対非輸出企業①	輸出企業の特徴は何か
4)	輸出対非輸出企業②	企業の異質性と実証分析
5)	失業と不平等①	貿易と労働市場の摩擦
6)	失業と不平等②	賃金への影響
7)	中間レポートの報告	中間レポートの報告と討論
8)	水平的直接投資	伝統的な理論と水平的直接投資
9)	垂直的直接投資	垂直的直接投資の実証
10)	複合型直接投資	複合型直接投資の理論
11)	内部化の意思決定①	直接投資の選択
12)	内部化の意思決定②	企業内貿易の分析
13)	日本企業の海外進出	日本企業の現状
14)	期末レポート報告	期末レポートの報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Elhanan Helpman, Understanding Global Trade, Belknap Press, 2011 (翻訳本：ヘルプマン著『グローバル貿易の針路をよむ』本多/尻井/前野/羽田/訳, 文眞堂, 2012)

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 11th edition, Global edition, Pearson Education, 2017 年 (翻訳クルグマン・オブスフェルド・メリッツ著『クルグマン国際経済学 理論と政策：上 貿易編（原著第 10 版）』丸善出版、2017 年)

【参考書】

清田耕造著『拡大する直接投資と日本企業』、エヌティティ出版、2015
富浦英一著『アウトソーシングの国際経済学』、日本評論社、2014
田中祐夢『新々貿易理論とは何か：企業の異質性と 21 世紀の国際経済』、ミネルヴァ書房 2015
清田耕造・神事直人著『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

講義への積極的参加による平常点（20％）、中間レポートの報告（30％）、期末レポートの報告（50％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外の科目のため、該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

【担当教員の専門分野等】

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html>

【Outline and objectives】

Students study the new trade theory considering economies of scale and intra-industry trade. Students also study the new-new trade theory considering firm's heterogeneity and learn firm's choice among trade, foreign direct investment and outsourcing in the global competition.

ECN573C1 - 3

応用計量経済学 D A

明城 聡

サブタイトル：（2021 年度以降入学者）

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証分析を行うために必要な計量経済学の応用と、統計パッケージ R を使った分析手法について学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージ R を用いた基本的な計量分析の手法を学習する。博士後期課程の学生は論文執筆に必要なプログラミング能力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・ R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・一般化古典的回帰モデル
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・ R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・ Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・ Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】

(1) 小暮厚之、「R による統計データ分析入門」朝倉書店、2009 年

(2) 福地純一郎、伊藤有希、「R による計量経済分析」朝倉書店、2011 年

(3) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポートにて評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント (ID およびパスワード) を確認しておくこと。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

実証産業組織論、応用統計学

＜研究テーマ＞

構造推定を用いた市場分析

＜主要研究業績＞

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline and objectives】

Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

ECN573C1 - 3

ミクロ計量分析 D A

明城 聡

サブタイトル：(2020 年度以前入学者)

備考 (履修条件等)：(2020 年度以前入学者用)

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証分析を行うために必要な計量経済学の応用と、統計パッケージ R を使った分析手法について学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージ R を用いた基本的な計量分析の手法を学習する。博士後期課程の学生は論文執筆に必要なプログラミング能力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・一般化古典的回帰モデル
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】

(1) 小暮厚之、「R による統計データ分析入門」朝倉書店、2009 年

(2) 福地純一郎、伊藤有希、「R による計量経済分析」朝倉書店、2011 年

(3) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年

【成績評価の方法と基準】

課題レポートにて評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント (ID およびパスワード) を確認しておくこと。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

実証産業組織論、応用統計学

＜研究テーマ＞

構造推定を用いた市場分析

＜主要研究業績＞

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline and objectives】

Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

ECN601C1 - 1

経済学演習 I A (代表シラバス)

経済学専攻教員

備考 (履修条件等)：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果 (発見と含義) についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will prepare writing a master's thesis by acquiring basic knowledge on writing a thesis. Furthermore, students are expected to develop critical thinking and analytical skills through reading and reporting reference literature. Students will further acquire the methods of searching and composing a thesis and how to make presentations.

ECN601C1 - 2

経済学演習 I B（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will further prepare for writing a master's thesis by acquiring practical knowledge on writing a thesis. Students will focus on narrowing down his/her research theme through reading and reporting applied literature. Students are expected to deepen the understanding on analytical method.

ECN701C1 - 1

経済学演習Ⅲ A（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第 1 論文の第 1 稿の執筆を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	研究テーマの確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
2 回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
3 回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
4 回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
5 回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
6 回	文献サーベイと研究報告⑤	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
7 回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
8 回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
9 回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
10 回	研究報告④	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
11 回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
12 回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
13 回	論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める。
14 回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士 2 年次の講義科目（専攻分野コースワーク 2 年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field. Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Participants will start writing the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation.

ECN701C1 - 2

経済学演習Ⅲ B（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第 1 論文の第 1 稿を年度末までに完成させるよう努力する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1 回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
2 回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
3 回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
4 回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
5 回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
6 回	文献サーベイと研究報告⑤	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
7 回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
8 回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
9 回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
10 回	研究報告④	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
11 回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
12 回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
13 回	論文テーマ・分析結果の再検討	これまでの指摘に基づき、論文の改訂を進める
14 回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士 2 年次の講義科目（専攻分野コースワーク 2 年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field. Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year.

ECN601C1 - 1

論文指導 I A

松波 淳也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）からなる。

【学生の意見等からの気づき】

学生により、論文執筆に必要な準備状況が異なるため、学生に合わせた個別対応が必要になる。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞環境経済学

＜研究テーマ＞循環型社会形成，SDGs

＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第6章所収，2019年

・「国際的循環型社会形成の可能性」，『大原社会問題研究所雑誌』580，2007年

・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/4，2005年

【Outline and objectives】

In this course students will prepare writing a master's thesis by acquiring basic knowledge on writing a thesis. Furthermore, students are expected to develop critical thinking and analytical skills through reading and reporting reference literature. Students will further acquire the methods of searching and composing a thesis and how to make presentations.

ECN601C1 - 2

論文指導 I B

松波 淳也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し，論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。平常点評価、発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）からなる。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に応じた、きめ細かい指導が必要となる。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞環境経済学

＜研究テーマ＞循環型社会形成，SDGs

＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」,
星野智編著『グローバル・エコロジー』, 中央大学出版部, 第 6 章所
収, 2019 年

・「国際的循環型社会形成の可能性」, 『大原社会問題研究所雑誌』580,
2007 年

・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/4, 2005 年

【Outline and objectives】

In this course students will further prepare for writing a master's thesis by acquiring practical knowledge on writing a thesis. Students will focus on narrowing down his/her research theme through reading and reporting applied literature. Students are expected to deepen the understanding on analytical method.

ECN602C1 - 1

論文指導Ⅱ A

酒井 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部分について第 1 稿を作成する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期前半**

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第 7 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞労働経済学，社会保障論

＜研究テーマ＞就業と社会保険

＜主要研究業績＞

『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）

"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"(共著)
Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline and objectives】

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis. Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

ECN602C1 - 2

論文指導ⅡB

酒井 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第7回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 労働経済学、社会保障論

<研究テーマ> 就業と社会保険

<主要研究業績>

『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会、2020年）

"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"(共著)
Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline and objectives】

In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis. Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.

ECN602C1 - 1

論文指導Ⅱ A

小黒 一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
1	修士論文について	学位論文としての修士論文
2	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
3	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
4	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
5	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
6	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の学生・研究者の指摘に基づく改善点をまとめる
7	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含義）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

第1回ワークショップでの集団指導を目指して、指導教員や他の出席している院生に対して研究報告を行い、修士論文に向けて研究を深める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

① Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, *Economic Modelling*, 44, 252-265, 2015

② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, *The Economic Review*, 64(2), 147-159, 2013

③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, *Studies in Applied Economics*, 6, 1-15, 2013

④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, *Applied Economics*, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline and objectives】

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis. Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

論文指導ⅡB

小黒 一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
1	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
2	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
3	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
4	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
5	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
6	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
7	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

第2回ワークショップでの集団指導を目指して、指導教員や他の出席している院生に対して研究報告を行い、修士論文に向けて研究を深める。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

財政学、公共経済学

＜研究テーマ＞

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

＜主要研究業績＞

①) Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, *Economic Modelling*, 44, 252-265, 2015

② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, *The Economic Review*, 64(2), 147-159, 2013

③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, *Studies in Applied Economics*, 6, 1-15, 2013

④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, *Applied Economics*, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline and objectives】

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis. Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

ECN602C1 - 1

論文指導Ⅱ A

鈴木 豊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期前半**

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第7回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis. Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

論文指導ⅡB

鈴木 豊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第7回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis. Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.

論文指導ⅡA

濱秋 純哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	研究テーマ、分析方法の再検討	改善点をまとめる
第7回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含義）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

第1回ワークショップでの集団指導を目指して、指導教員や他の出席している院生に対して研究報告を行い、修士論文に向けて研究を深める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共経済学・応用計量経済学

<研究テーマ>

家計行動のミクロ計量分析

<主要研究業績>

(1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, “The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households,” *Journal of Population Economics*, Vol. 32, No. 1, pp. 309 – 346.

(2) 上野綾子・濱秋純哉, 2017 年, 「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金, 労働時間, 離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 – 57 頁。

(3) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, “Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data,” *Asian Economic Journal*, Vol.28(1), pp.41-62.

(4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, “How does the first job matter for an individual’s career life in Japan,” *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol.29, pp.154-169.

(5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2012, “Changes in the Japanese employment system in the two lost decades,” *Industrial and Labor Relations Review*, Vol. 65, No. 4, pp.810-846.

【Outline and objectives】

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master’s thesis, and make a research report that can be the base of a thesis. Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

ECN602C1 – 2

論文指導ⅡB

濱秋 純哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 7 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

第 2 回ワークショップでの集団指導を目指して、指導教員や他の出席している院生に対して研究報告を行い、修士論文に向けて研究を深める。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

公共経済学・応用計量経済学

＜研究テーマ＞

家計行動のミクロ計量分析

＜主要研究業績＞

(1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, and Keiko Murata 2019, “The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households,” *Journal of Population Economics*, Vol. 32, No. 1, pp. 309 – 346.

(2) 上野綾子・濱秋純哉, 2017 年, 「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金, 労働時間, 離職率に与えた影響」, 『医療経済研究』, Vol.29, No.1, 33 – 57 頁。

(3) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2014, "Intergenerational transfers and asset inequality in Japan: Empirical evidence from new survey data," Asian Economic Journal, Vol.28(1), pp.41-62.

(4) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2013, "How does the first job matter for an individual's career life in Japan," Journal of the Japanese and International Economies, Vol.29, pp.154-169.

(5) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Saeko Maeda, Keiko Murata, 2012, "Changes in the Japanese employment system in the two lost decades," Industrial and Labor Relations Review, Vol. 65, No. 4, pp.810-846.

【Outline and objectives】

In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis. Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.

ECN602C1 - 1

論文指導Ⅱ A

原 伸子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部分について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第7回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含義）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会経済学、経済学史、ジェンダー経済論

<研究テーマ> 福祉国家の変容とジェンダー

<主要研究業績>

①単著『ジェンダーの政治経済学』（有斐閣、2016年）

②共編著『現代社会と子どもの貧困』（大月書店、2015年）

③共著『現代経済学と経済学』（有斐閣、2007年）など。

【Outline and objectives】

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis. Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

ECN602C1 - 2

論文指導ⅡB

原 伸子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第7回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会経済学、経済学史、ジェンダー経済論

<研究テーマ>福祉国家の変容とジェンダー

<主要研究業績>

①単著『ジェンダーの政治経済学』（有斐閣、2016年）

②共編著『現代社会と子どもの貧困』（大月書店、2015年）

③共著『現代経済学と経済学』（有斐閣、2007年）など。

【Outline and objectives】

In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis. Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.

論文指導Ⅱ A

松波 淳也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第7回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含義）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞環境経済学

＜研究テーマ＞循環型社会形成、SDGs

＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」、星野智編著『グローバル・エコロジー』、中央大学出版部、第6章所収、2019年

・「国際的循環型社会形成の可能性」、『大原社会問題研究所雑誌』580、2007年

・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/4、2005年

【Outline and objectives】

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis. Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

ECN602C1 - 2

論文指導ⅡB

松波 淳也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期前半**

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第7回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

第2回ワークショップでの集団指導を目指して、指導教員や他の出席している院生に対して研究報告を行い、修士論文に向けて研究を深める。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞環境経済学

＜研究テーマ＞循環型社会形成, SDGs

＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」, 星野智編著『グローバル・エコロジー』, 中央大学出版部, 第6章所収, 2019年

・「国際的循環型社会形成の可能性」, 『大原社会問題研究所雑誌』580, 2007年

・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/4, 2005年

【Outline and objectives】

In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis. Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.

論文指導Ⅱ A

宮崎 憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第7回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含義）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline and objectives】

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis. Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

ECN602C1 - 2

論文指導ⅡB

宮崎 憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第7回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline and objectives】

In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis. Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.

ECN602C1 - 1

論文指導ⅡA

竹口 圭輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第7回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含義）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis. Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

ECN602C1 - 2

論文指導ⅡB

竹口 圭輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第7回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis. Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.

ECN602C1 - 1

論文指導Ⅱ A**馬場 敏幸**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期前半**

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第7回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis. Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.

ECN603C1 - 1

修士ワークショップA

酒井 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

6月下旬または7月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究成果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プレゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第2回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第3回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第4回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第5回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第6回	修士論文中間発表（第1回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7月上旬を予定。
第7回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report. Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.

ECN602C1 - 2

論文指導ⅡB

馬場 敏幸

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第7回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis. Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.

ECN603C1 - 2

修士ワークショップB

酒井 正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導ⅡB」と併せて指導が行われる。本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。

「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生（修士1年次に修士課程修了を目指す方を含む）が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。

また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。

授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第2回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第4回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第5回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第6回	修士論文最終発表（第2回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12月上旬を予定。

第 7 回 ワークショップの反省 修士ワークショップで指摘された
論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特にないが、各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report. Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.

ECN603C1 - 1

修士ワークショップ A

小黒 一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

6 月下旬または 7 月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究成果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プレゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 2 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 3 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 6 回	修士論文中間発表	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になが、各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report. Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.

ECN603C1 - 2

修士ワークショップ B

小黒 一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。

「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている方（修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む）が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。

また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う（指導教員による指導）
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う（各指導教員担当）
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う（各指導教員担当）
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（各指導教員担当）
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（各指導教員担当）

第 6 回	修士論文最終発表 （「修士論文ワーク ショップ」）	修士論文執筆者全員が、修士論文 に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された 論点をまとめる（各指導教員担当）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%(ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report. Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.

ECN603C1 - 1

修士ワークショップ A

鈴木 豊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

6 月下旬または 7 月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究結果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プレゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 2 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 3 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 6 回	修士論文中間発表（第 1 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report. Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.

ECN603C1 - 2

修士ワークショップ B

鈴木 豊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。

「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生（修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む）が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。

また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。

授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 6 回	修士論文最終発表（第 2 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。

第 7 回 ワークショップの反省 修士ワークショップで指摘された論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report. Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.

ECN603C1 - 1

修士ワークショップ A

濱秋 純哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

6 月下旬または 7 月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究成果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プレゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 2 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 3 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 6 回	修士論文中間発表（第 1 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report. Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.

ECN603C1 - 2

修士ワークショップ B

濱秋 純哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。

「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生（修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む）が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。

また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。

授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 6 回	修士論文最終発表（第 2 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。

第7回 ワークショップの反省 修士ワークショップで指摘された
論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特にないが、各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report. Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.

ECN603C1 - 1

修士ワークショップA

原 伸子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

6月下旬または7月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究成果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プレゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第2回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第3回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第4回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第5回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第6回	修士論文中間発表（第1回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7月上旬を予定。
第7回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report. Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.

ECN603C1 - 2

修士ワークショップ B

原 伸子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。

「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生（修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む）が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。

また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。

授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 6 回	修士論文最終発表（第 2 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。

第 7 回 ワークショップの反省 修士ワークショップで指摘された論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report. Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.

ECN603C1 - 1

修士ワークショップ A

松波 淳也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

6 月下旬または 7 月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究結果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プレゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 2 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 3 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 6 回	修士論文中間発表（第 1 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report. Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.

ECN603C1 - 2

修士ワークショップ B

松波 淳也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。

「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生（修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む）が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。

また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。

授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 6 回	修士論文最終発表（第 2 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。

第 7 回 ワークショップの反省 修士ワークショップで指摘された
論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特にないが、各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report. Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.

ECN603C1 - 1

修士ワークショップ A

宮崎 憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

6 月下旬または 7 月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究成果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プレゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 2 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 3 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 6 回	修士論文中間発表（第 1 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report. Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.

ECN603C1 - 2

修士ワークショップ B

宮崎 憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。

「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生（修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む）が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。

また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。

授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 6 回	修士論文最終発表（第 2 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。

第7回 ワークショップの反省 修士ワークショップで指摘された論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report. Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.

ECN603C1 - 1

修士ワークショップA

竹口 圭輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

6月下旬または7月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究成果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プレゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第2回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第3回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第4回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第5回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第6回	修士論文中間発表（第1回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7月上旬を予定。
第7回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report. Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.

ECN603C1 - 2

修士ワークショップ B

竹口 圭輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。

「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生（修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む）が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。

また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。

授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 6 回	修士論文最終発表（第 2 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。

第7回 ワークショップの反省 修士ワークショップで指摘された
論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report. Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.

ECN603C1 - 1

修士ワークショップA

馬場 敏幸

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

6月下旬または7月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究成果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プレゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第2回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第3回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第4回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第5回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第6回	修士論文中間発表（第1回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7月上旬を予定。
第7回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report. Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.

ECN603C1 - 2

修士ワークショップ B

馬場 敏幸

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。

「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生（修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む）が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。

また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。

授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 6 回	修士論文最終発表（第 2 回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。

第 7 回 ワークショップの反省 修士ワークショップで指摘された論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report. Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.

ECN702C1 - 1

論文指導Ⅳ A

鈴木 豊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第 2 論文の第 1 稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第 1 論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第 2 回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 3 回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 4 回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 5 回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 6 回	論文テーマ、分析結果の再検討	教員や、他の院生・研究者の指摘に基づく再検討
第 7 回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士 2 年次の講義科目（専攻分野コースワーク 2 年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field. Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.

ECN702C1 - 2

論文指導ⅣB

鈴木 豊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第3論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第1,2論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第3回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第4回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第6回	論文の分析結果の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第7回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field. Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.

ECN703C1 - 1

論文指導ⅤA

宮崎 憲治

サブタイトル：（2017～2020 年度入学者）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

課程博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第 5 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 6 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 7 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field. Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

ECN703C1 - 2

論文指導V B

宮崎 憲治

サブタイトル：（2017～2020 年度入学者）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field. Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.

ECN703C1 - 1

論文指導ⅤA

田村 晶子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期前半

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field. Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

ECN703C1 - 2

論文指導ⅤB

田村 晶子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field. Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.

ECN703C1 - 1

論文指導ⅤA

小黒 一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
4 回	研究報告③	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
5 回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
6 回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
11 回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
12 回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
13 回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
14 回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

各指導教授による個人指導のため、他の院生との議論や刺激を受けにくい。ワークショップ以外にも、研究報告する機会を多く作る必要があるだろう。

【Outline and objectives】

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

ECN703C1 - 2

論文指導V B

小黒 一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。課程博士論文の提出締め切りは9月30日なので、提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の博士論文として、結論をまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改善し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

各指導教授による個人指導のため、他の院生との議論や刺激を受けにくい。ワークショップ以外にも、研究報告する機会を多く作る必要があるだろう。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

財政学、公共経済学

＜研究テーマ＞

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

＜主要研究業績＞

①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015

② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013

③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013

④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline and objectives】

This class requires participants to make their papers presentation, and discuss their papers with Thesis adviser. The Thesis adviser would guide the participants to make more presentations at conference, and more papers published. According to thesis research proposal, the thesis adviser would provide guidance for their research and Thesis writing to complete Ph.d. Thesis.

ECN703C1 - 1

論文指導ⅤA

原 伸子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

ECN703C1 - 2

論文指導ⅤB

原 伸子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

ECN703C1 - 1

論文指導ⅤA

宮崎 憲治

サブタイトル：（2014～2016 年度入学者）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 5 回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第 6 回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第 13 回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 14 回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

ECN703C1 - 2

論文指導V B

宮崎 憲治

サブタイトル：（2014～2016 年度入学者）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

ECN703C1 - 1

論文指導ⅤA

菅原 琢磨

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%とする。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各指導教授による個人指導のため、他の院生との議論や刺激を受けにくい。ワークショップ以外にも、研究報告する機会を多く作る必要があるだろう。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞医療経済、社会保障論、医薬品・医療機器の産業組織論
＜研究テーマ＞医療保険制度、介護保険制度、医療提供体制、医薬品・医療機器政策

＜主要研究業績＞

『薬価の経済学』（小黒一正との共編著、日本経済新聞社（2018））
共著 Predictors of (in)efficiencies of Healthcare Expenditure Among the Leading Asian Economies - Comparison of OECD and Non-OECD Nations. Risk Management and Healthcare Policy . Dove Press Ltd 13, 2261-2280. 2020/10/21 10.2147/RMHP.S266386.

共著 Cost-effectiveness and resource allocation (CERA) 18 years of evolution: maturity of adulthood and promise beyond tomorrow. Cost Effectiveness and Resource Allocation . Springer Nature 18/ 15 2020/04/02 1478-7547 10.1186/s12962-020-00210-2.

【Outline and objectives】

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

ECN703C1 - 2

論文指導ⅤB

菅原 琢磨

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%とする。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各指導教授による個人指導のため、他の院生との議論や刺激を受けにくい。ワークショップ以外にも、研究報告する機会を多く作る必要があるだろう。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞医療経済、社会保障論、医薬品・医療機器の産業組織論
＜研究テーマ＞医療保険制度、介護保険制度、医療提供体制、医薬品・医療機器政策
＜主要研究業績＞

『薬価の経済学』（小黒一正との共編著、日本経済新聞社（2018））
共著 Predictors of (in)efficiencies of Healthcare Expenditure Among the Leading Asian Economies - Comparison of OECD and Non-OECD Nations. Risk Management and Healthcare Policy . Dove Press Ltd 13, 2261-2280. 2020/10/21 10.2147/RMHP.S266386.

共著 Cost-effectiveness and resource allocation (CERA) 18 years of evolution: maturity of adulthood and promise beyond tomorrow. Cost Effectiveness and Resource Allocation . Springer Nature 18/ 15 2020/04/02 1478-7547 10.1186/s12962-020-00210-2.

【Outline and objectives】

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

ECN703C1 - 1

論文指導ⅤA

馬場 敏幸

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
 ＜研究テーマ＞
 ＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

ECN703C1 - 2

論文指導ⅤB

馬場 敏幸

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

ECN703C1 - 1

論文指導ⅤA

武田 浩一

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業は、新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間は主として Zoom によるリアルタイム・オンライン・ミーティングの演習形式で行う予定であるが、状況が許せば教室での対面形式で行う可能性がある。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」およびメールを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第 5 回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第 6 回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第 13 回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 14 回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

各指導教授による個人指導のため、他の院生との議論や刺激を受けにくい。ワークショップ以外にも、研究報告する機会を多く作る必要があるだろう。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

金融

＜研究テーマ＞

金融の応用ミクロ経済分析

＜主要研究業績＞

The impact of information technology investment announcements on the market value of the Japanese regional banks, Finance Research Letters 101811, 2020 (coauthored).

【Outline and objectives】

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

ECN703C1 - 2

論文指導V B

武田 浩一

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業は、新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間は主として Zoom によるリアルタイム・オンライン・ミーティングの演習形式で行う予定であるが、状況が許せば教室での対面形式で行う可能性がある。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」およびメールを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

各指導教授による個人指導のため、他の院生との議論や刺激を受けにくい。ワークショップ以外にも、研究報告する機会を多く作る必要があるだろう。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

金融

<研究テーマ>

金融の応用ミクロ経済分析

<主要研究業績>

The impact of information technology investment announcements on the market value of the Japanese regional banks, Finance Research Letters 101811, 2020 (coauthored).

【Outline and objectives】

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

ECN703C1 - 1

論文指導ⅤA

牧野 文夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
 ＜研究テーマ＞
 ＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

ECN703C1 - 2

論文指導ⅤB

牧野 文夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

ECN703C1 - 1

論文指導ⅤA

胥 鵬

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

ECN703C1 - 2

論文指導ⅤB

胥 鵬

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第14回	論文の再検討	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各指導教授による個人指導のため、他の院生との議論や刺激を受けにくい。ワークショップ以外にも、研究報告する機会を多く作る必要があるだろう。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops. After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

ECN705C1 - 1

博士ワークショップⅡ A

鈴木 豊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 2 年次第 1 回目のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

第 2 論文に関し、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅡ A では、博士論文中の第 2 論文の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 2 回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 3 回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 4 回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第 5 回	ワークショップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第 6 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 7 回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
 ＜研究テーマ＞
 ＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results. This course will have students prepared for the first workshop of a second-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, of the second treatise, participants will write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.

ECN705C1 - 2

博士ワークショップⅡ B

鈴木 豊

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 2 年次第 2 回目のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

第 3 論文に関し、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅡ B では、博士論文中の第 3 論文の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 2 回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 3 回	ワークショップ論文執筆準備	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 4 回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第 5 回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第 6 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 7 回	博士ワークショップの反省	博士ワークショップで指摘された論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results. This course will have students prepared for the second workshop of a second-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, of the third treatise, participants will write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.

ECN706C1 - 1

博士ワークショップⅢ A

宮崎 憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 3 年次第 1 回目のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

9 月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ A では、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ報告 テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第 2 回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 3 回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 4 回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第 5 回	ワークショップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第 6 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 7 回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
 ＜研究テーマ＞
 ＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results. This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.

ECN706C1 - 2

博士ワークショップⅢ B

宮崎 憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 3 年次第 2 回のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ B では、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ報告 テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第 2 回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 3 回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 4 回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第 5 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 6 回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第 7 回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results. This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.

ECN706C1 - 1

博士ワークショップⅢ A

田村 晶子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次第1回目のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ Aでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期後半

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告 テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークショップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
 ＜研究テーマ＞
 ＜主要研究業績＞

【Outline and objectives】

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results. This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.

ECN706C1 - 2

博士ワークショップⅢ B

田村 晶子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 3 年次第 2 回のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ B では、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ報告 テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第 2 回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 3 回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 4 回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第 5 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 6 回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第 7 回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results. This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.

